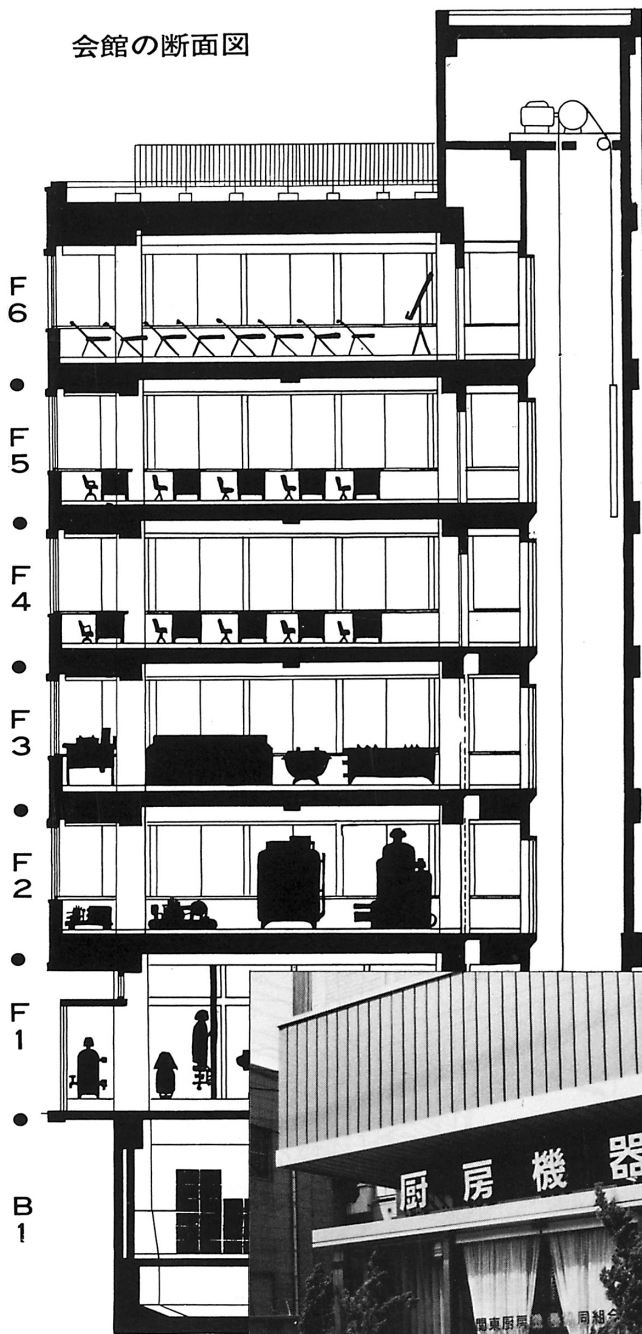


関東厨房機器協同組合
創立20周年記念誌

20年のあゆみ

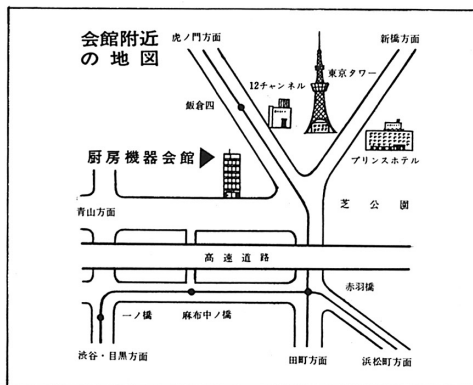
会館の断面図

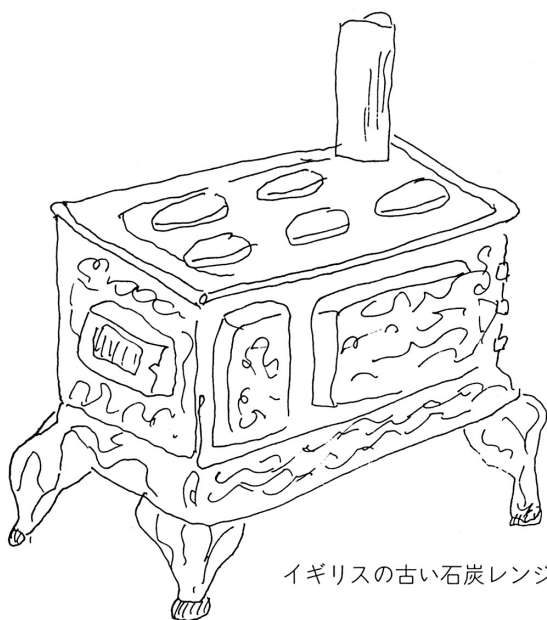


厨房機器会館（鉄骨鉄筋コンクリート造）
昭和39年3月竣工（地上6階 地下1階）

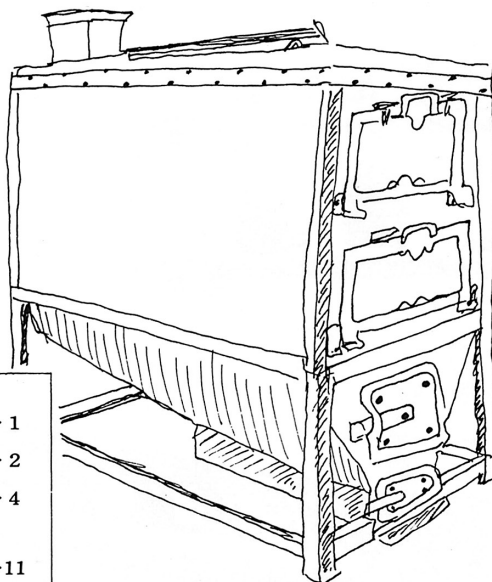
1F 組合事務局 4F 工業会事務局 6F 会議室

建坪●104.48 m^2 延坪●586.48 m^2





イギリスの古い石炭レンジ



昭和6年頃の木炭魚焼器
〈萩貿易のカatalogより〉

組合沿革の概略.....	1
理事長あいさつ.....	2
各界の祝辞.....	4
歴史編	
組合誕生.....	11
創始期（昭和35～40年）.....	13
向上期（昭和41～45年）.....	23
発展期（昭和46～53年）.....	32
変革期（昭和54年以降）.....	52
インタビュー	
鈴木啓之氏.....	12
宮本留一郎氏.....	27
資料編	61

関東厨房機器協同組合の沿革

昭和31年 2月18日 ●厨房設備協和会設立

昭和35年11月 2日 ●協和会を解散し組合設立

昭和39年 3月17日 ●厨房機器会館の竣工

昭和47年11月 8日 ●第一次5ヶ年計画策定

昭和52年 6月10日 ●建設業の資格を取得

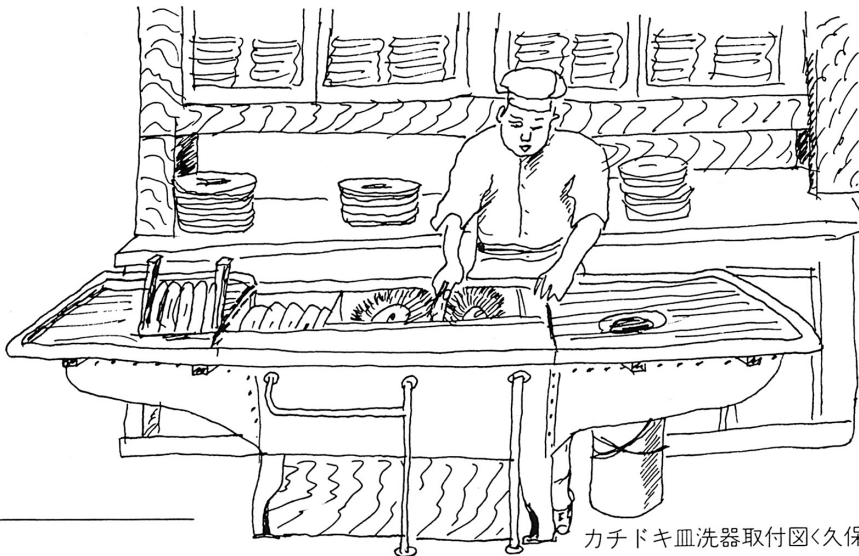
昭和53年 3月 1日 ●官公需共同受注適格組合証明取得

昭和53年 5月24日 ●第二次5ヶ年計画策定

昭和53年 3月 ●共同受注事業第1号総合設備施工

昭和56年 3月31日現在組合陣容

組合員91社 出資金38,900,000 事務局職員9名



カチドキ皿洗器取付図<久保木商店カタログより>



理事長 熊谷俊男

本日は、当組合の創立20周年記念式典を催すにあたりまして、官庁関係はじめ、関係団体また組合員多数のご臨席を頂き、このように盛大に式典が挙行できますことを、主催者側として、心より喜こんでいる次第でございます。

厚く厚く御礼申し上げたいと思います。

当組合が20周年ということでございますが、過ぎ去ってみますと、何か、とても早いような気がします。しかし、これからの限らない発展を願うとき、我々は20年前を、もう一度思い出し、考え直していく必要があるんじゃないかならうかと思っておりますので、当時のことを思い出して、少し申し述べさせて頂きたいと思っております。

実は当組合も、20年前に出来ましたけれども、その以前は、私的組合とでも申しましうか、「厨房設備協和会」という会合の場が、一応はございました。しかし、どうしても公式機関としての組合を創らなければならない。業界の将来を考えても、そういう公の組織の場が欲しい、という強い要求から、発起人として〈恐らく10名位だったと思います〉初代理事長の木村秀吉さんを先頭にして、私も、当時40歳位であったかと思いますが、発起人の一員として、増上寺前の大門精養軒という食堂で、何度も会合の場をもちました。夏の暑い最中に、10畳位の座敷で、皆で胡座をかいて、吹き出る汗を拭き拭き、話をしあった

創立20周年を

迎えるにあたって

理事長在職 8 年

副理事長在職〈創立以来〉12年

ことを覚えております。そして、その発起人の一致したところが、とにかく、これからは公式機関の組合を創らなければいけないとのことで、業界人に呼びかけ、32社の協力を得て、組合発足となった訳でございます。

当時はご承知のように、厨房という企業は、まだまだ社会的にも大きく認められておりませんし、また組合を創っても、我々自身、資金といえますか、経済的にはけっして豊でもございませんでした。組合員が、持ち合せの資金を3万円ずつ出し合ったものを元に、組合を発足させた訳でございます。

そういうことから、公的機関として組合を結成はしても、当時は独自の事務所を持つ訳にもいかない状態で、芝田村町にある木村さんの会社の、社宅の一室〈恐らく坪数にして5～6坪位だったと記憶しております〉を借りて、そこに、女子事務員と一人しかいない男の事務局長の二人で、間借生活から組合が出発したことを思い出します。それが昭和35年のことでございます。

それから約2年ばかりは、その間借生活が続きました。その間は、ステンレスメーカーさんのご協力による共同仕入と、中金さんからの借入斡旋の他は、これらしい事業もやっておりますでしたが、そうこうしておる時に、公式な組合ではあるけれども、こういう間借生活の状態では、今後の組合の発展にならない。どうしても組合のお城を持ちたい、城を持たなければ、組合の発展に継らないと

いうことになり、現在の東麻布に「厨房機器会館」を建設するよう計画した訳でございます。組合員全員からは更に40万円ずつの増資をお願いし、また業界へも加入を呼びかけるなどしたその資金と併せて、当時お付き合いのあったステンレスメーカーさんからの資金的援助があって昭和38年、オリンピックの前年に、待望の厨房機器会館の建設に着工いたしました。ステンレスメーカーさんのお付き合いは、当時、非常に貧弱ではありましたが、組合の仕事としてステンレス材料の共同仕入をやらせて頂いておった訳でございます。しかし、勿論それだけで資金的に充分ではございません。先程、表彰をして下さいました商工中金さんからの、大きなご援助のあったことも事実でございます。そういうことから組合会館ができて、そしてオリンピックの年を迎えた訳ではありますが、日本の経済というものも、段々に成長の過程を踏んで参った訳でございます。

しかし、時代の移り変わりといえますか、組合内部にも、予期しない色々な問題がございました。それは、初代理事長として我々を引張って頂いた木村秀吉さんの病状が思わしくなく、昭和46年に理事長を辞任され、後任を秋元時一郎さんをお願いしましたが、その秋元さんも、その年の秋に交通事故にあわれ、翌47年に、私が第三代理事長の大役を仰せつかう破目になってしまいました。その年47年7月に木村さんは心不全で逝去され、不帰の人となってしまいました。また秋元さんも、交通事故後の後遺症が芳しくなく、今は既に他界されております。

そういう色々な過程を踏みましたけれども組合会館もできたということから、組合員の結束も高まってきましたし、組合員も、当初の32名から、増えたり減ったりしながらも、現在は91名にまでなりました。

就任当時、今後の組合の姿をどうすべきなんだということについて、思い悩んだことがあります。結局、初代木村理事長の考えであった、組合というものは親睦が第一であるという創立当時の意志を基本にしまして、そ

の上で、私なりに考えたことは、組合というものは繁栄の広場であり協調の広場であり、また心の広場でなければいけないということでもあります。それを、この組合の理念として掲げまして、それから、その理念を遂行するためには、組合施策として、どういう風にしていくか、ということから、根本的には業界の質的高揚をベースに、業界協調、技術高揚などを骨子とした第一次5ヶ年計画を策定したのであります。そして、6つの委員会と3つの業種別部会を設けまして、組合員の皆さんに色々お骨折り頂いてまいりました。そのことが、相当数あると思われる中小企業団体中央会に加盟されている組合の中におきましても、有数の組合として評価して頂けるような組合になったということは、本当に、皆さんと共に、喜ばしいことだと私は思っております。しかしまた、我々はこういう評価に甘んじることなく、更に、組合のこれからの繁栄と発展というものを、この20周年を契機として、踏まえていかなければいけないと思います。

さいわいに、我々の顧客として、色々お世話になっておる外食産業は、最近とみに発展して参りました。早くいえば、自動車産業・家電産業と並ぶ、日本の産業の三本柱になっておるこの外食産業を、我々是我々の顧客として持っておる訳でございます。そういう顧客の繁栄と共に、我々厨房業界も繁栄していかなければいけないし、また我々の繁栄というものは、そういう大きな外食産業の繁栄の中にあるんだということで、企業としても、将来を明るく嘱望して良いのではなかろうかと思えます。

業界が繁栄することが、組合の繁栄にもなるんじゃないかと思っております。

どうか、今日お集まりの、関連の皆様方、また組合員の方々、よろしく組合の発展というものに、ご協力をお願いしたいと思います。

また組合も、業界における組合員の良きパートナーとなって、今後も尽していく覚悟でございますので、どうか今後共、よろしくご支援ご協力をお願いいたします。



■ 祝 詞

全国中小企業団体中央会
東京都中小企業団体中央会
会長 小 山 省 二

記念すべき創立20周年を迎えられ、ご同慶に存じます。

戦後の混乱期から、発展期へという転換期の昭和35年11月、先覚者32名の方々により、協同組合を設立し、ここに、輝かしい20周年の、記念すべき年を迎えられた訳でございます。

当時、この創立に参加された方々のご心境には、感無量のものがあるだろうと思われます。昔からよく、十年一昔といわれますが、この20年の歳月を振り返れば、そこには、忘れ得ない数々の思い出があるだろうと思われます。

我が国にとっては、高度成長、またオイルショックなど、20年の歳月の中には、忘れ得ない数々の、経済変動期があった訳でございます。この中で、技術の改良・販路の拡張・金融の改善など、協同組合としての仕事があった訳ではありますが、これらを、皆さんが一体となって、見事に切り抜け多大な成果を挙げてこられたと確信いたしております。

私は、こういった記念日で、商工中金が、取引先の協同組合に感謝状を差しあげるというのは、極めて数少ない例だと思います。それは、組合金融機関である商工中金との取引関係が、いかに円滑に行なわれているか、その一

端を現わしたものだと考えます。役員の皆さんが、組織金融を十二分に活用された、良きお手本として、今日の感謝状授与にあたり、私共も、心から、その労苦を讃えたいと思います。

これからの日本経済は、大変難しいところに入っていくのではないかと私は思います。今、財政再建という課題を抱え、新しい年の予算編成に、非常な苦勞をしている時であります。これからの中小企業問題は、日本経済にとって、最大の課題であろうと思われます。ご指導の任にあたられる役員の皆様、また、この役員を支えておられる組合員の皆様、まさに、この時局を充分ご認識いただきまして皆さんが一体となって、業界発展のため、我国経済の振興発展のために、一層のご奮起をいただきますことをお願いして、心から、20周年を記念いたし、ご祝辞を申しあげ、ご挨拶といたします。



祝 詞

商工組合中央金庫

理事長 影 山 衛 司

このたび、関東厨房機器協同組合が、めでたく創立20周年を迎えられ、本日ここに、その記念式典が盛大に挙行されましたことを、心からお祝い申し上げます。顧みますと、貴組合は、昭和35年11月、共同事業などを目的に組合員32名の方々により設立されたのでありますが、以来、業界の中核として積極的な活動を展開され、今日では、組合員91名を擁するまでに成長されたのであります。この間、共同購入の推進、金融事業の拡充、組合会館の建設など業界の結束とレベルアップを図ってこられました。特に、組合商品の開発、共同受注の促進など組合活動の模範ともいえる各種事業を積極的に推進され、かつ、立派な成果を挙げておられますことは、ひとえに、熊谷理事長はじめ歴代役職員ならびに組合員の皆様の不断のご努力によるものと、深く敬意を表するものであります。

貴組合と私ども商工中金とのお取引は、昭和36年2月以来であります。皆様の事業のご発展とともに拡大を重ね、いまや当金庫の有力なお取引先として、緊密なお取引をいただいている次第でございます。ここに平素のご愛顧とご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、最近の日本経済は、石油資源問題をはじめ多くの波乱要因を抱え、きわめて不透明で厳しい経営環境に直面しております。皆様方の厨房業界におきましても、ホテル、ビル建設、外食産業等の成長と軌を一にして発

展して参りましたが、最近におけるユーザー筋の需要動向には、必ずしも楽観を許さないものがあります。このように、中小企業を取り巻く経営環境は、一段と厳しさを増しており、まさに「模索と変動」の80年代の到来ではないかと考えますが、しかし、それはまた同時に中小企業にとっては、創造性や機動性などの特性を発揮して、変動の中に活躍の機会を掴みうる「チャンスの時代」に入ったとも考えられます。

皆様方が、この様な80年代を乗り切り、日本経済を支える「バイタルマジョリティ」（活動ある多数）として引続き成長発展していくためには、自らを足腰の強い企業体質につくり上げると共に、組合員相互の団結を強化し、時代に適応できる組織づくりを進めることが肝要かと存じます。

皆様方が、この輝かしい20年の歴史を土台として、今後更に、30周年、40周年へのご発展されますことを切望して止みません。

私ども商工中金といたしましても、「中小企業のよきパートナーとして共にチャレンジする」という精神で、資金面ばかりでなく、企業経営の全般に亘り、皆様方のよき相談相手となるよう努力を傾注してまいりたいと念願しております。

終りに、貴組合ならびに組合員皆様の益々のご繁栄を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 詞

社団法人日本厨房機器工業会

会長（衆議院議員）天野 公義

おめでとうございます。

関東厨房機器協同組合が、20年の歩みを続けてこられ、今日めでたくその祝典を挙行されますことを役員・組合員の皆様、本当にご苦労さまでございました。先程の熊谷理事長のお話にもあるように、20年前と今日では、今昔の感があると云っても過言ではありません。日本人の各々の家庭厨房の状況、外食産業の発展、エレクトロニクスの発展等、いろいろな面を総合して、20年前では想像もできないような発展振りであります。

しかし、いくら発展しても、業界の者が、あっちを向いたり、こっちを向いたり、バラバラになっていたのでは、本当の業界の発展は望めないと思います。その面で、日本厨房機器工業会も出来、業界全体の、いろんな問題をやっております。そして協同組合は、組合の立場で、組合員協同の利益、親睦の増進等に力を入れてこられたからこそ非常な発展をなされたものと思います。心から、喜びに勘えない次第でございます。

これからも、外食産業は、ますます発展するだろうし、エレクトロニクス関係も進歩する訳ですから、どうか、厨房業界も、さらにさらに、大きく発展をされ、願わくば、日本の輸出産業の一角に、大きな地位を占める位のところまで、いってもらいたいものと念願するものであります。

私は、永年にわたって、中小企業問題一筋にやってきておりますが、その経験の中から

考えますに、日本の経済が発展し、社会の安定から、優秀な人材が輩出しているのは、多くの部分を中小企業に負っている訳であります。中小企業の協力によって、日本が前進しているとも云えます。皆さん達と同じ中小企業に、不当な圧迫を加えないよう、むしろ、活力を賦与するよう、尚一層努力をする必要がある訳であります。

どうか、各企業の方にも、各々、良き収獲を高めていき、協同組合として、お互いの利益の向上と親睦を高め、業界全体の推進力となって、発展して欲しいと思います。

20年のあゆみの話を、感慨無量な感で聞いておりました一員でございます。

これからも、ますますの業界発展と、関東厨房機器協同組合のご発展になりますよう、心より祈念を申しあげ、お祝いの言葉にかえさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。



祝 詞

東京瓦斯株式会社

専務取締役 生 島 実
営業本部長

本日は、関東厨房機器協同組合が20周年を迎えられましたことに対して、先ずもって心からご祝詞を申しあげたいと存じます。

一同を代表して一言ご祝詞を述べさせていただきます。

貴組合が、厨房業界並びに関連業界発展の為、組合員各位の固い結束のもとで、今日まで多大の業績を挙げられてこられたことに対し、私は深甚なる敬意を表するものであります。またガス機器の開発普及を通じ、常々絶大なご協力を賜り、本席をお借りして、衷心より感謝の意を表する次第でございます。

さて、この機会にお時間を拝借させて頂き厨房業界の皆様へ、私共が常日頃取り組んでおります事業活動の一端について、お話し申しあげ、皆様へガス事業について一層のご理解を頂き、今後共変らぬご支援を賜りますようお願い申しあげたいと存じます。

私共は、首都圏のお客様に対し、都市ガスを安定してかつ安全にお使い頂くという公益事業としての責務を果たすため、原料の長期安定確保と保安の確保に万全を期しております。先ず原料の確保につきましては、戦後、石炭から石油へ、石油から天然ガスであるLNGへと次々に新しいエネルギーの導入を図り世界のエネルギー革命を先取りしつつ、原料の適切な選択に努めて参りました。特に、現在、原料の約60%を占めておりますLNGは、昭和44年に我国で初めてアラスカから導入いたしました。引き続きブルネイ、アブダビからの受入れを図り、昭和58年以降はマレーシアからも導入が決定いたしております。こうして私共は、いち早く石油代替エネルギーへ

の切替えを推進し、我国のエネルギー政策である脱石油、脱中東を積極的に促進して参りました。次に、保安の確保につきましては、私共の工場からガス導管を経て、ご家庭に至る全ての段階で、お客様の安全をお守りすることを私共の基本的使命と強く認識いたし、日夜努力いたしております。先般の静岡駅前の爆発事故は、同じガス事業を営むものとして、誠に遺憾の意を表するものであります。再びあのような惨事を起すことのないよう、業界をあげて設備の近代化を図り、ガス事故未然防止対策に全力を傾注してまいるべく決意を新たにしております。また、便利で快適なガス機器の開発についても、省エネルギー化、熱効率の向上、機能性の改善等を一層充実すべく努力いたしておりますが、とりわけ厨房機器分野については、貴業界とお互いの英知と創意を出しあい、開拓に努めてまいりたいと考えております。

さて、ご高承の通り、我国の経済情勢は、低成長経済が定着しその基盤に係わるエネルギー対策が喫緊の課題となっております。こうした状況の中にあつて、貴業界も私共も将来にわたり、大きく飛躍して参る為には、従来にも増して緊密な連携を維持して参ることが肝要であると確信いたしております。

終りにあたり、20周年という大きな節目を迎えられました貴組合が、今後更に繁栄され関東地区における経済社会の健全な発展の為に大きく寄与されることを念願し、また貴組合と組合員各社の一層のご活躍を祈念いたしまして、私の祝辞といたします。

ありがとうございます。



■祝詞

近畿厨房機器協同組合
理事長 中西 延吉

関東厨房機器協同組合が、創立20周年を迎えられるのを、衷心よりお祝い申し上げます。昭和35年11月発足以来、業界初の協同組合として、他地区の協同組合の先導となって、指導的役割をはたされましたことは、近畿厨房機器協同組合としまして、心強い限りでございます。

なかんづく、関東厨房機器協同組合の組合事業の活動は、厨房機器設備の共同受注や、資材の共同購入、金融事業等、組合運営の基礎を確立され、組合ブランドの製品開発販売もされて、20年の組合活動が花開いた感じであります。これもひとえに、熊谷俊男理事長はじめ、組合員の皆様の努力の賜物と存じます。

近年は業務用厨房業界にも、弱電業界や造船陸上部門の参入が問題となっておりますが関東厨房機器協同組合では、早くよりこの問題を取りあげ、他の協同組合に呼びかけられました。

この業界事業分野の確保の問題は、今後の協同組合の課題として、関東厨房機器協同組合の主導を期待するものであります。

関東厨房機器協同組合の益々の御発展をお祈りして祝辞といたします。



■祝詞

東海調理機器協同組合
理事長 曾我 岩男

関東厨房機器協同組合の創立20周年
本当におめでとうございます。

業界初の公的機関として発足以来、常に、業界の先頭に立ってご活躍された関東厨房機器協同組合は、日本の業務用厨房業界の先駆者であり、また秀れた指導者でもあった訳です。首都圏という、ある意味で日本産業の縮図として、とみに難しい地域におかれて、組織規模、事業規模のいずれにおいても、卓越したご活躍の程は、私達、東海調理機器協同組合にとっても、頼もしい限りであり、そして、私達の指標ともしているところでございます。

私共の東海調理機も、東京と大阪に挟まれた複雑な状況を克服してこれたのは、自からの企業を発展させていくという信念であったろうと思います。

20周年を迎えられた貴組合は、現在第二次の5ヶ年計画を遂行中と伺っております。その熱気を、関東という枠の中に留めず、視野を全国に広げられて、業界発展の為に、更なるご尽力をご期待いたします。ひとつの目的完遂の為に、組合同志が協力し合っていく。そして日本に類のない、素晴らしい業界に育成していく必要があらうかと思えます。

貴組合の益々のご発展を、組合員一同
心より祈念いたしております。

おめでとうございます。

歴史編

創始期

昭和35年～昭和40年度

組合誕生 ステンレスの共同仕入
欧米視察 厨房機器会館建設 東京
オリンピック 不況

向上期

昭和41年～昭和45年度

長期貸付制度 価格表・組合カタログ
作成 自動車事業 業界協調 設
計報酬基準 万国博

発展期

昭和46年～昭和53年度

土旺学校の開設 第一次5ヶ年計画
の策定 委員会活動 業種別部会
石油ショック

変革期

昭和54年度以降

あらたな飛躍を目指して……

組合誕生

組合設立までの経緯

去る昭和31年2月18日、東京を中心として厨房業界の総合設備業者と専門機器製造業者の親睦と横の連絡機関として、厨房設備協和会が生れ、会員の福利増進、業界の社会的地位の向上発展を計って参りましたが、協和会設立当初よりの懸案でありました協同組合への移行について、昭和35年5月21日の通常総会において、満場一致で決定を見、発起人木村・秋元・熊谷・宮本・谷・矢野氏らと私も加わって同年8月19日に観光会館で創立総会を開催、組合員32名、出資金96万円にて、待望の協同組合設立にふみきり、同年10月27日東京通産局の認可を得て、11月2日設立登記を完了、正式に公認団体としての第一歩をふみ出した。これで、厨房設備協和会は、満4ヶ年の運営を発展的に解消した。その後組合は、資材部品の共同仕入、組合員の事業資金の借入れ、並びに斡旋、福利厚生に関する事業、業界初期の目的達成のため、堅実なる運営を行ない今日の隆盛をみた次第です。(以上は、「ちゅうぼう」第3号、創立5周年記念特集号に当時の副理事長岩倉好松氏が回顧として寄せられたものをそのまま掲載しました)。

業務用厨房業が、独立した業界として、專業者が存在し始めたのは、明治20～22年頃からといわれる。石炭や粉炭・重油を熱源としたストーブを製作していた、謂ゆる当時の鋳掛け屋・ブリキ屋が、外国製レンジを真似てその名もあたらしい料理用石炭ストーブというものを製作するようになり、そして調理器類が国産化され始めた。昭和の初期には、早くも「東京料理用ストーブ製造業組合」(9年)が設立され、その後「東京食品加工器同業組合」「調理器工業協会」なども結成されている。中には軍部からの資材調達を目的とした団体もあったらしいが、その後、「東京鉄鋼器具工業組合」(18年)「日本厨房改善協会」(27年)「学校給食設

備協同組合」(30年)や、「日本家庭炊事用具協会」などの組織化が次々と行なわれていたようである。そして昭和31年2月、当組合の前身であるところの「厨房設備協和会」が、20数社でもって結成された。当時関西地区にも、「関西厨房機器協会」「東海北陸厨房設計監理協会」等が各々、現在の協同組合の前身母体として存在していたが、協和会の規約には、既に当時から、公的機関としての、協同組合への移行が目的として条文化されていた。協和会自体は、名簿や会報の発行・営業社員の懇談会など、業界の進歩改善と親和団結のための活動をしてはいたが、軸となる事業がなく、寄合い会合的印象が強かったようである。そして昭和33年3月15日新橋駅近くの日本食堂で開催された定時総会で、当組合の設立発起人代表であり初代理事長でもある木村秀吉氏より、協同組合化への意向について発言があり、それをうけて、次の総会で、協同組合への移行を決議して準備段階に入った。

協同組合の設立にあたっては、前述の10名程が中心となって、長野県諏訪にまで出向いて会合を重ねたが、その中心となるべき発起人代表への人選に苦慮し、手塚初代事務局長が、嫌がる木村氏を、日参して説得に務めたらしい。その手塚氏は「ちゅうぼう」の中で「……協和会から協同組合に移行するとき、理事長に木村さんを担ぎ出そうと、日夜木村さんのところに通ったものだ……」と、前述の5周年記念特集号で述懐している。

組合設立に参加した人たち

発起人代表●木村秀吉(木村) 発起人●岩倉好松(三陽)秋元時一郎(秋元)熊谷俊男(富士)宮本留一郎(宮本)谷 武雄(千代田)矢野四郎(第一)同意者●馬場鋭之助(東郷)五十里元秋(イカリ)梅田勝徳(日調)細山礼吉(細山)松崎平(松崎)矢ヶ崎真吾(森井)尾崎新治(尾崎)吉村謙三(吉村)落合完二(八洲)袴田長吉(袴田)上野一雄(上野)椿藤次郎(椿)中村貴行(中村)碓井達雄(福本)村田幸吉(村幸)伊藤一郎(伊藤)中谷宏(鷺尾)今福治俊(竹村)鈴木啓之(鈴木)林田末喜(林田)永井巳之助(永巳)徳増久五郎(徳久)林全一郎(林)佐藤仁助(佐藤)織内経緯(東泉)



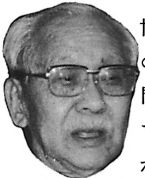
●インタビュー

鈴木啓之氏((株)鈴木商行会長)

1900年東京生。現組合の前身である「厨房設備協和会」会長 日本厨房設計管理協会会長 日本キッチン設備協会会長 日本キッチン文化協会会長等歴任。昭和48年秋勲五等瑞宝章叙勲。現組合相談役。



俺はね、厨房設備業発生の地は、東京のド真中、銀座圏からという事を声を大にして言いたいんだヨ。大正から昭和にかけて、当社をはじめとして、萩工業・安藤工事・秋元調理機等が、相次いで銀座に店を構え出したという事が、それを裏付けているんだネー。



協和会発足の、そもそのキッカケの土台はと言うとだネ、それは虎ノ門病院に由来するんだヨ。当時としては規模的にも結構大きかったんだが、そこの設計図を書いた安藤勝弥君が、当然、特命で貰えると思っていたところが、病院側から、競争入札にするといわれたらしいんだネ。そうなれば、設計料の分も計算の中に入れなきゃならん、自分の所は、他社よりも、どうしても高くなる。というので、皆の所へ相談に行ったけど、ケンもホロロに断わられたらしいんだネ。そこで、困った安藤君は先輩でもあり顔も広いということから、俺の所へ、何とか、この話をまとめて貰えないかとマア泣きついてきた訳だナ。実に虫の良い話だガネ。その時が、始めて俺と逢ったんだヨ。



昭和に入ってから、雨後の竹の子の如く業者が増えたが、お互いの交流というものは、まず持って無くてネー。俺でさえも、何人も知らなかったヨ。これじゃいかんという事から、俺や木村君、それに宮本君や熊谷君等も加わって音頭をとって、関連機器メーカーも含めて互いに顔を合せて仲良くする機会を創ろうではないかと相談をしたんだヨ。そして、新橋の東洋軒へ、20名足らずが集まって協和会は発足したんだが、そもそも、設立の目的が何処

にあるやという、それは、今日の協同組合を創る足固めである、という事なんだネー。イヤ、これは俺が言ったのではなくて、あの木村君が、皆にそう説明したんだヨ。



木村君という人はネ、腕に技術のある人だが、商売にも中々達者な人でネー。俺は商売の方は幼稚園だが、あの人は大学生だネ。それで、虎ノ門病院の方はどうなったかという宮本君や泉工業等は、俺の顔を立ててくれたんだが、肝心の安藤君が、その時の約束を守らなかったらしいんだネー。それで皆がカンカンに怒ってネー。そういう事から、安藤君は、協和会ができて、始めの中は入ってこれなかったんだネー。しかし、それが契機となって、今の協同組合が、20周年記念式典を盛大に挙行できるまでになったんだから、むしろ、喜ばしい事だネ。



実はネ、20数年前の事なんだが、皇居で厨房の仕事があってネ、その時は俺が設計管理をしたんだが、競争入札になったので、俺は、業者諸君に対して、予算は充分にあるんだから、適正価格で入札しなさいと、口を酢っぱくして言ったんだが、結局、予算の2割にも満たない価格で落札してしまったんだネー。実に、嘆かわしい事だヨ。だから俺はネ、自分の仕事に、自信と誇りを持って、対等の立場で、良い仕事をしなさい、ということを、大いに強調したいネ。

昭和56年3月25日鈴木商行応接室／インタビュー河内／豊富な談話の中から協和会関係のみにしました。

創始期

昭和35年～昭和40年度の概要

混とんとしていた業界が、協同組合という形で結束され、その創始期において特筆されることは、結成5年足らずのうちに、業界の悲願ともいえるべき厨房機器会館を建設したことであろう。組合員は増資をし、一方で加入者を増やしていく。偉大な業績である。そこまでの結集を見るには、物品税運動から発展して全国組織(工業会)の設立、欧州視察旅行などの日常活動が開花したということであろう。併せて厨房機器の主要材料であるところの、ステンレス・メーカーの絶大なる協力と、商工中金の援助があってこそその快挙ともいえよう。

設立当初の組合には、これといった事業収入もなく、総収入の90%以上が賦課金収入で、僅かに、損害保険代理店としての手数料と、ステンレス材料の共同仕入幹旋手数料のみであった。しかし、その後このステンレスの共同仕入が、初期の組合財政に、大変に大きく貢献するところとなったのである。当時の組合員で、組合への協力ということから、それまでのルートを変えて組合を経由することにしてそのまま現在まで続いているところもある。

一方、協同組合を組織し活動していく中で大きな弊害として迫圧してきたのが物品税問題である。それは、「ガス事業の合理化、供給拡大」という第三次5ヶ年計画の国策で、ガスが増大したにもかかわらず、諸外国に対して、「ガス器具には、今なお極めて高率の物品税」が課せられていることは、実情に反するから減免すべきであるとの運動であった。関連団体と合同で陳情書を作成しての運動の中に、同業者を広範囲にということと全国的規模での運動をとのことから関西地区へも呼びかけ、運動を展開していった。その過程から、連合組織としての「全国厨房機器工業会（現在の社団法人日本厨房機器工業会の前身）」が設立されたのである。

創始期●昭和35年度(昭和35年5月～昭和36年3月)

昭和36年3月31日現在／組合員32社 出資金96万円

35年5月21日 厨房設備協会の総会において、満場一致で協同組合への移行・設立を決定

8月19日 千代田区丸の内の観光倶楽部において、設立同意者32名全員出席(委任状4名)で創立総会を開催◇設立時に必要な12試案を議決◇理事長木村秀吉、副理事長馬場鋭之助、熊谷俊男他の役員を選出し、出資金96万円で組合誕生

9月20日 理事会(精養軒ベーカリー)、で組合運営に必要な事等協議

9月27日 東京瓦斯(株)四谷営業所における「厨房講習会」に講師派遣

10月14日 東京通商産業局へ組合設立認可申請を提出◇10月27日「東産認協第465号」をもって認可

10月5日 第1回野球大会◇参加20社

11月2日 組合設立登記完了

11月11日 組合結成以来、最初に手がけた事業である「ステンレスの共同購入」の実施について、組合員から使用量・希望価格等を調査

11月14日 東京都中小企業団体中央会へ加入

11月16日 理事会でステンレスの共同購

入化について協議

12月3日 虎の門共済会館において、物品税・借入幹旋等の打合せ会

12月9日 住友海上火災保険(株)と損害保険代理店の契約締結

36年1月17日 大森の小町園で新年会開催

2月2日 ステンレスの共同購入化について、組合員との打合せ会

2月6日 東京都商工組合連合会へ加入

2月8日 ステンレスの共同購入希望者による打合せ会

2月10日 ステンレスメーカー5社火曜会との懇談

3月30日 日立製作所清水工場見学会◇参加28名

◇日刊建設通信へ毎月組合員連名の広告掲載

組合員消息●7月21日今村幸治(第一)没

◇9月5日椿藤次郎没

外部団体動向●4月キッチン文化協会発会式

世相●安保騒動・岸内閣から池田内閣へ◇浅沼社会党委員長刺殺◇インスタント食品◇カラー放送開始



創始期●昭和36年度(昭和36年4月～昭和37年3月)

昭和37年3月31日現在／組合員39社 出資金 117万円

36年4月19日 理事会(精養軒)で、都商工連にて取扱っている機械類購入資金の借入に関する件等協議

5月12日 第1回通常総会(虎の門共済会館)出席24名(75%、委任状4名)◇借入限度5千万円◇貸付限度2百万円◇加入金額5千円等を前年通り可決◇役員改選は理事長木村・副理事長馬場・熊谷をはじめ、全員留任。
◇第2回野球大会。

6月20日 理事会(精養軒)で、事業計画の実施を検討し、その中で、ステンレス・作業衣・工具類の共同仕入に併せて司廚士協会会報への毎月広告掲載や共同展示会等協議

8月19日 日立製作所多賀工場見学会

9月6日 東京国税局の物品税係官を招いて、業務用厨房機器の物品税に関する説明会を銀座オリンピックにて開催

9月29日 中小企業のモデル工場として奈良機械製作所を見学◇中小企業の工場監理・労務管理のあり方を学ぶ

10月12日 理事会(精養軒)で、物品税対策・都市ガスカロリーアップ等協議◇各々の対策委員会を設置◇加入金を5千円から3万円に増額することを書面議決

10月26日 第1回物品税対策委員会

10月30日 関西厨房機器協会に対して、

物品税対策・工業会設立につき、協力要請文を送付

11月10日 日新製鋼南陽工場を見学◇オートメ化された近代工場のシステムを学ぶ

12月7日 理事会(精養軒)で、「全国厨房器具工業会」規約・物品税減免陳情書作成・厨房士の件等協議

37年1月12日 理事会(芝宮本)で、全国炊事用具協会を併合して、全国厨房機器工業連合会の組織強化等協議

1月12日 芝宮本にて新年会開催

2月6日 都市ガスカロリーアップに伴うガス器具製作・修理に関する説明会を東京ガス(株)本社で開催◇参加29名

2月9日 東京国税局の要請で、物品税の改正事項・未納税移出等についての説明会開催◇参加28名

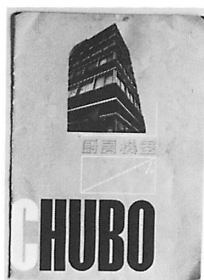
3月7日 連合会結成・物品税対策等の協力要請で、木村・熊谷・谷武雄の3氏と事務局長の手塚が関西厨房機器協会東海北陸厨房設計監理協会を2日にわたって訪問

3月19日 日本栄養士会集団栄養研究所主催の講演会で木村・馬場・坂下欣吾氏が講演

◇日刊建設通信、司廚士協会会報へ組合員連名の広告掲載

組合員消息●高砂厨房・アサヒ厨機・昭和調理・エバホット小林ss、小越ss、萩原ssの7社加入

外部団体動向●2月20日東海調理機器協同組合創立◇3月31日北陸厨房設備協同組合設立◇1月20日日本瓦斯協会ビル竣工◇6月7日日本炊事用具協会主催の厨房工場管理についての説明会◇全国中小企業団体総連合発足 世相●9月12日物品税法改正の公布◇高度経済成長時代・レジャーブーム・不況指数◇人口衛星ボストーク



創始期●昭和37年度(昭和37年4月～昭和38年3月)

昭和38年3月31日現在／組合員53名 出資金1208万円

37年4月4日 都市ガスカロリーアップについての打合せ会をガス器具センターで開催

4月12日 全国厨房機器工業会設立打合せ会開催

5月9日 全国厨房機器工業会設立世話人会開催◇世話人は木村他16名

5月26日 第2回通常総会(翠明館)

加入金30万円等決議

6月7日 ステンレス共同仕入打合せ会を精養軒にて開催

6月25日 全国厨房機器工業会の創立総会を虎ノ門共済会館で開催◇設立同意者98名◇当日出席76名(委任状17)◇会長木村、副会長曾山勇・宮沢四一・馬場・長宗重一・森井久治の各氏を選出

9月7日 日立製作所多賀工場の見学

10月28日 臨時総会(環翠楼)組合会館の建設を満場一致で決議◇会館建設部会・資金部会員選出

11月13日 理事会(精養軒)で、健康保険組合設立の研究等協議

12月2日 健康保険組合設立打合せ会

38年1月17日 新年会を日本閣にて開催

1月19日 東京ガス(株)でカタログを作成するにあたり、組合員からカタログの収集を行なう

1月25日 鉄管接続器具結付きについての説明会

1月30日 ユニバーサルバーナの説明会

2月4日 欧州ならびに東南アジア厨房機器業界視察の説明会

2月20日 厨房会館建設部会

2月22日 ステンレス共同購入の価格の件で火曜会へ要望書提出

2月23日 厨房会館建設資金部会

3月18日 理事会(精養軒)で会館建設・鉄管接続等協議

3月23日 火曜会と最終総合打合せ会を銀座東急ホテルで開催◇引き続いて、会館建設の建設・資金合同部会開催。

◇「物品税法の概説」を一括購入し、組合員へ配布

◇商工債権の購入、出資証券の作成

組合員消息●戸井田ss・北英熱器・松下ss浜親
鑄造・三ツ星厨房・東京柳沢ss・内山ss・日調商事・三冷社・内田ss・日本ステン・北川ss・遠山ss・横山ss・加藤ssの15社加入◇森井脱退◇増資10,100千円 外部団体動向●6月25日全国厨房機器工業会設立◇8月関東支部(支部長秋元時一郎)・9月東海北陸支部(支部長村上芳一)設置◆3月19日商工中会との連絡機関として三金会発足◇11月3日第1回キッチン設備士資格証書授与式 世相●第三次池田内閣◇東京1千万都市へ◇商業登記法公布◇無責任時代・東京スモッグ・サリドマイド禍・三河島事件



創始期●昭和38年度(昭和38年4月～昭和39年3月)

昭和39年3月31日現在／組合員54名 出資金2618万円

38年4月5日 ステンレス共同購入の指定問屋8社を快室

4月12日 業界関連新聞に、組合員連盟の組合広告を毎月掲載

5月7日 第3回通常総会 (吉野旅館) ◇出席47名(80%委任状18)加入金15万円・貸付限度300万円等を決議 ◇役員定員を13名以内から15名以内に定款変更して理事長木村、副理事長馬場・熊谷・岩倉好松他の役員を選任

5月13日 厨房会館地鎮祭

5月23日 欧米視察団の壮行会を東京会館にて開催

6月2日 木村氏を団長とする総勢16名の欧米視察団が、羽田から出発(組合関係参加者は木村秀吉、熊谷俊男、秋元時一郎、谷武雄、三浦良之助、細山礼吉、梅田勝徳、鷺尾禎一、村田芳郎、上野一雄、細山喜三郎、遠山茂吉、尾崎和夫、秋山清の14名、他に松山五郎、木村ミヨ)

6月11日 会館建設資金の借入申込みが商工中金にて受理される◇理事会で、総務、経理、業務、渉外・健康保険の5部を新設

6月20日 物品税合同対策打合せ会を、組合・工業会・日本ガス器具工業会の3者で行ない、陳情書の内容を検討

7月8日 欧米視察団帰朝 木村団長は欧米との技術的較差は感じられないと発言

8月13日 理事会(ガス器具センター)で会館追加工事・部品規格統一等協議

8月26日 鉄管接続器具結付についての講習会を開催し、試験により認定者を決定◇参加32社116名

8月27日 欧米視察団の帰国報告会を共

済会館で開催◇海外市場調査団報告書を発行

9月9日 物品税対策合同打合せ会において、陳情書・請願書を作成

9月12日 理事会(ガス器具センター)で物品税・共同カタログの作成・理事長胸像作成等協議

9月25日 東京ガス(株)と厨房設備受注幹旋について打合せ

11月13日 理事会(八洲ビル)で、厨房器具名称統一・会館陳列場小間割等協議

12月11日 厨房会館の上棟式を挙行◇終了後、三田福社会館にて臨時総会と上棟祝賀会を開催◇席上、会館名称を公募の上、多数応募のあった「厨房機器会館」と改定

39年1月17日 新年会を白雲閣にて開催

2月6日 会館建設にあたっての、ステンレスメーカー火曜会よりの協賛決定

2月12日 東京ガス(株)から、器具検査方法作成にあたっての協力を要請さる

組合員消息●北山ss・トキワ工業加入◇中村ss脱退◇日刊工業新聞主催の「世界に伸びる大工業展」へ共同展示

外部団体動向●4月26日キッチン科学会発起人総会◇4月24日工業会総会にて理事長制の採用(理事長 岩倉好松)◇12月20日日本石油機器工業組合設立

世相●第四次池田内閣◇ケネディ大統領暗殺◇中小企業基本法成立◇流通革命・バカンス女性飛行士・鶴見駅事故





業界の殿堂 厨房機器会館竣工

昭和39年 3 月17日竣工

総工期10ヶ月

総工費50,000千円

地上 6 階地下 1 階

鉄骨鉄筋コンクリート造

建坪104.48平米 延坪586.48平米

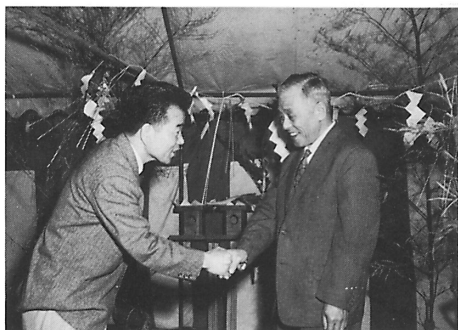
協同組合という公的機関ではありながら、理事長会社の一部を間借りしての活動では、今後の組合の発展もおぼつかない。何としても組合の城を持ちたい。でなければ大きな飛躍も望めない、との強い決意から、組合活動の拠点、業界の殿堂としての組合会館建設が計画された。組合員の拡大を図り、組合員は増資で全面協力、そして金融機関からの借入れとステンレスメーカーの協力と、実に多くの方々の協力で、業界初の会館は建設された。

顧りみるに組合活動20年の歴史の中で、未曾有の大事業はまた、組合員間の結束を、より強固なものとする証左ともなった。この経験を忘れまい！この喜びを糧としていきたい。

会館建設の収支予算(単位千円)◇収入出資24,660借入金20,000寄附金8,430貸室保証金2,000貸室敷金197合計55,287◇支出土地代金9,100建築費33,290設計料1,800設備費4,800什器備品1,048竣工費885胸像228不動産取得税810予備費3,326合計55,287



◆厨房機器会館竣工までの経緯



理事会で見積書を開封検討の結果、設計を村田建築設計事務所、建築工事を堀工務店と決定 4月30日関連業者と具体的打合せ 5月13日地鎮祭を挙げる 5月20日理事会で、部会業務軽減のため常任建設委員会を新設 6月11日商工中金に借入申込。借入2千万円・返済7年間・返済方法1年間据置6年割賦 6月14日欧米視察団の留守役員で現場視察を行ない工事進行の2日遅れが判明 7月17日理事会で、建築業者から申入れのあった基礎抗追加打込みの工事一部変更と各室扉をラワン製から鉄扉への変更について協議 7月27日関係三者話し合いの結果、変更工事を認め、費用93万円は25%引きで了承 9月12日理事会で内装工事について協議。一方資金については、火曜会への協力要請と併せて、当面の資金として各理事が30万円宛出資金前払の形式で拠出することを協議 10月18日理事会で内装工事の見積書を検討。商工中金からの借入れを2千5百万円に増額することを協議また貸室料金・広告等について協議 11月13日理事会で、火曜会からの協賛が決定した旨の報告。展示室の条件等を協議 11月25日理事会で上棟式及び上棟祝賀会を11月25日に挙行し、同日の臨時総会で建設の経過報告と竣工後の運営経費予算等を検討することを協議。



37年10月28日環翠楼における臨時総会で、満場一致、会館建設を決議。即建設委員会を設置38年2月14日理事会にて建設・資金の両専門部会設置 2月20日建設部会開催 2月23日資金部会開催 3月19日理事会にて鉄骨鉄筋地上6F地下1F・坪17万円・地下は宿直室などを決定 3月23日建設・資金合同部会開催 4月1日建設用地を購入し登記完了 4月18日指定建築請負業者に松井建設、堀工務店、西松建設、構造社、藤田組、東洋土建の6社を決定 4月19日指定業者に現場説明 4月27日



12月6日理事会で電話施設を各階押ボタン式にすることを協議 昭和39年1月17日臨時総会で建設の経過報告等を行なった他、名称を厨房会館・関厨ビル・厨房機器会館・関東厨房会館の中から応募多数で「厨房機器会館」と決定 1月17日理事会で陳列場貸小間の賃貸条件・竣工式の記念品や招待者等について協議 2月6日理事会で竣工式を3月17日に挙行することを決定。また記念品はマホービンとし、竣工式で建築関係者、八洲電機、ステンレス関係者15社に感謝状と記念品を増呈することを決定。火曜会からの協賛は現金および現物となったことが報告された 3月17日常任建設委員立合いで工事の完了を確認 3月17日竣工となった厨房機器会館の竣工式を会館屋上で挙げる。引き続いて、5～6階を利用して被露宴を催す

常任建設委員 木村秀吉 馬場鋭之助 熊谷俊男 岩倉好松 梅田勝徳 尾崎新治 秋元時一郎 谷武雄 資金部会 木村秀吉 馬場鋭之助 熊谷俊男 岩倉好松 尾崎新治 細山礼吉 谷武雄 建設部会 木村秀吉 馬場鋭之助 熊谷俊男 梅田勝徳 中谷宏 吉村謙三 上野一雄 椿良輔 村田幸一 秋元時一郎 小越栄治郎 林忠雄 鈴木啓之 五十里元秋 中村貴行 宮本留一郎

創始期●昭和39年度(昭和39年4月～昭和40年3月)

昭和40年3月31日現在／組合員54名 出資金2970万円

39年4月15日 理事会(会館会議室)で4月22日に日に会館建設収支報告等の議題で臨時総会開催を決定◇会議室貸室料の改訂等協議

4月22日 会館会議室の組合員初会合として臨時総会開催◇出席35名(委任状6)

4月30日 ステンレスの市況価格が乱れているので、価格引き下げを火曜会へ申し入れ

5月15日 第4回通常総会(翠山荘)出席49名(91%委任状10)◇事務局所在地の定款変更◇出資の増額・従業員の表彰等決議

6月11日 理事会で増資払込時期等協議

6月24日 都衛生局の集団給食栄養管理講習会(新しい厨房器具についての製作者と使用者のシンポジウム)に講義を依頼され木村・馬場・梅田勝徳の各氏を派遣

7月8日 第1回トップセミナーを会議室で開催◇参加25名◇内容は①開放経済下の中小企業のあり方(根本祐隆)②中小企業の会計・税務管理(岡部忠雄)③中小企業の金融対策(小倉広美)④中小企業の労務対策(小暮申二)等について専門家を講師として開催◇同日理事会を開催し会館を担保として商工中金より借入れて組合員へ転貸する金融事業について協議

◇注文紳士服を格安で斡旋したところ約100着の注文があった

8月1日 転貸の最高限度を300万円として組合員へ通知

8月9日 第1回卓球大会を8社100名の参加で芝国橋卓球場にて開催

9月24日 技術部委員会(委員長梅田勝徳)開催

9月28日 東京ガス(株)の要望で不完全器具排除に関する打合せ会開催◇出席要請は日調・秋元・富士・ワシオ・吉村・椿・宮本・千代田・木村の9社

10月28日 工業会の協力を得て組合員の業態調査を実施

11月7日 臨時総会及び第1回従業員表彰式(44名)を第一ホテルで開催◇借入限度を1億円にすること等決議◇同日理事会を開催し、組合マーク等協議

11月19日 会議室にて「明日の中小企業の経営について」のスライド上映会を開催◇参加20名

12月4日 技術部委員会、日本ガス器具検査協会の営業用厨房器具の検査に関する件を協会の事務局長・検査主任も出席して協議

◇同日開催された理事会で旅費規程・会館パンフレット作成等協議

12月24日 第1回組合員事業資金の転貸を実施◇延20口98,500千円

40年1月8日 白雲閣にて工業会と共催で新年会開催◇参加61名

1月27日 ステンレスメーカー、問屋と価格についての打合せ会開催

2月15日 4日間にわたって開催された都中央会の「事協経済活動促進実務講習会」へ組合員21名が参加

3月13日 全日本司厨士協会との第1回座談会「厨房器機はこれでよいか」を会議室で開催◇協会側から斉藤会長他5名、組合から木村理事長他9名参加

組合員消息●小川ss加入◇アサヒ厨機脱退◇会館パンフレット発行◇オリンピック村厨房設備の施工にあたり、要請によって組合として協力をする

外部団体動向●工業会は製造業の実態調査・生産見通しをまとめ4月30日創刊された「厨工会報」へ発表◇また工業会は物品税減免陳情・近促法の研究等を行う◆5月10日ステンレス協会は使用実態調査を実施◇3月8日ステンレスシンク工業会発足 世相●第一次佐藤内閣◇オリンピック・新幹線操業◇新潟地震◇東京モノレール◇高度成長にかげり・倒産の嵐◇サンウェーブ・山陽特殊鋼が会社更生法申請

創始期●昭和40年度（昭和40年4月～昭和41年3月）

昭和41年3月31日現在／組合員54名 出資金3240万円

40年4月13日 鉄管接続器具業者結付認定書の継続についての打合せ会開催◇参加23名。5月12日に認定書を公布

4月21日 理事会で、第2回転貸の実施・会議室用暗幕の購入等決議

5月26日 第5回通常総会(大和館)出席50名(93%委任状13)◇加入金20万円等決議◇役員改選を行ない、理事長木村・副理事長熊谷・岩倉・谷他の理事を選出

6月9日 理事会で、役員業務分担の他、転貸を年4回実施すること等協議

7月3日 全日本司厨士協会との第2回座談会を会議室で開催◇協会側より斉藤会長他5名、組合側より木村理事長他11名出席

◇先般来、笠置先生へ依頼していた組合マークが完成

8月15日 組合の広報紙として懸案であったニュース「ちゅうぼう」を創刊、創刊号は全6頁で、野球大会報告を第一面に、金融情勢、司厨士協会との座談会内容、セミナー予告等を掲載

8月28日 茨城県の配電盤茨城団地(協)の見学と「中小企業の金融対策」(牧野東彦)「これからの中小企業の経営のあり方」(二階堂正治)と題した講演会を専門講師を招いて開催◇参加30名

9月9日 理事会で、11月の臨時総会時に、理事長の寿像除幕式挙行、中金へ

の増資を転貸利用組合員の協力で実施すること等協議

11月2日 臨時総会(翠山荘)出席52名(委任状6)◇第2回従業員表彰式を併催

◇総会に先がけて、組合会館で木村理事長寿像除幕式を挙行

41年1月6日 会館会議室において、工業会と共催で名刺交換会を開催◇26日にはこれも共催で、八芳園にて新年会を開催◇約90名出席

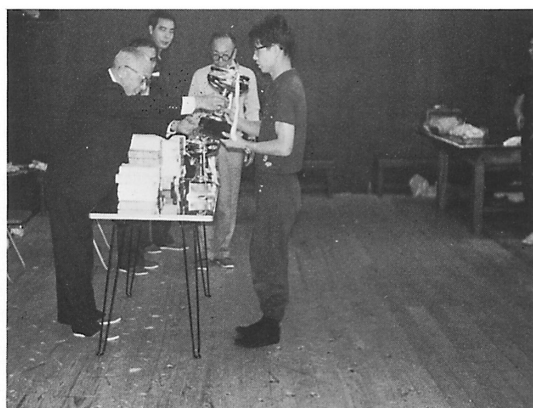
2月23日 都中央会主催の「中小企業の協業化について」に組合員11名参加

3月11日 理事会で、協業化・共同受注・団体生命保険、健康保険組合等協議◇共同受注運営委員会(委員長椿良輔)設置

組合員消息●9月6日袴田長吉氏没53歳◇10

月14日織内経緯氏没75歳 外部団体動向●工業会は5月14日の第3回通常総会にて全日本厨房機器工業会への改称◇社団法人化・会長代行等を決議(会長天野公義、会長代行梅田勝徳副会長)◇厨房機器名称統一の研究・法人化への準備・設計コンクール・論文募集を実施

世相●12月1日手形用紙の統一◇12月6日ステンレス業界不況カルテルの申請◇物品税の新課税猶予◇日韓条約・期待される人間像





組合設立の功労者 (初代理事長) 木村秀吉氏 その功績と 足跡を振り返って……………

明治34年1月4日東京生 大正7年蔵前高等工業学校卒 即陸軍航空隊入隊 2年後除隊

大正10年東京市芝愛宕町にて機器の製造販売開始 昭和3年ガスレンジの国産化 昭和4年商標キングとして東京ガス(株)へ納入 昭和9年料理用ストーブ同業組合設立 昭和14年(資)木村製作所 昭和17年(株)木村製作所 昭和31年厨房設備協和会設立に参加 昭和35年当組合設立初代理事長 昭和37年全国厨房機器工業会設立初代会長 昭和38年欧州厨房視察団長として渡欧 昭和44年東南アジア市場調査団々長として歴訪 同年秋勲五等瑞宝章叙勲 昭和47年7月29日心不全で病死 74歳

木村さんの一生は、そのまま、業務用厨房業界の歴史そのものであります。明治42年、若冠というよりまだ幼さの残る8歳の身で、当時のオープン屋の草分け的存在であった、北川清太郎(伊勢屋)氏に徒弟として弟子入り以来、60年余の永きに亘って、業界一筋に生きてこられた訳です。木村さんの胸中には早くから業界組織化の夢が託されていたのでしょう。略歴に出てくるいくつかの団体の他に、日本家庭炊事用具協会や、関東ガス器具協同組合・日本ガス石油機器工業会等の設立にも参画され、各々、主要な役職を任されておられました。業界のみにとどまらず関連業界まで含めた、巾広い範囲でのまとめ役・リーダーとして、その卒直豪放な性格は、広く信望をあつめておられ、昭和44年の叙勲にし

てもが、その内容はむしろ物足りなく、また時期も遅すぎた感すらありました。

木村さんはまた、数多くの人材をも育成されて参りました。と同時に、厨房機械・器具の開発のみならず、業界の昂揚というものを切に願ひ、業界人相互の互助・融和の精神を普及させんがための、組織化への傾注であったろうと思われます。私費を投じてでも、組織を育成していこうとの情熱が、当組合の結成となり、組合創草期の偉業達成に結実されております。その全部を被露するには余りにも枚挙にいとまがありませんので、木村さんの意志を継いで、立派な組合とすることをお約束したいと思います。



向上記

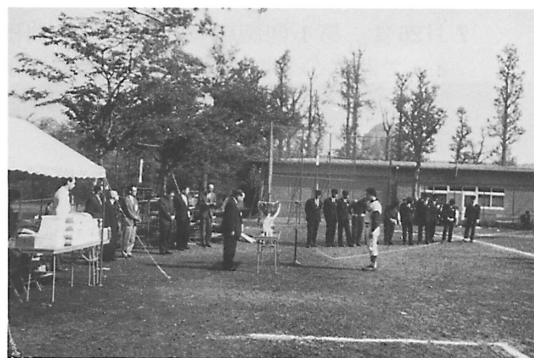
昭和41年～昭和45年度の概要

創始期における大きな政治課題が、物品税の減免運動であり、その運動の中から、業界企業の大同団結として全厨工（現厨房機器工業会の前身）の結成をみた訳だが、向上期としてのこの期は、物品税の大巾減免を勝ち取り、工業会も、現職代議士を会長に迎え、念願の社団法人化をなしている。法人化された工業会が手がけたのが、厨房機器の名称統一作業であり、厨房設備士制度の導入であった。それらのひとつひとつが業界が大きな飛躍を目指すための布石として着々と敷かれていた時期である。しかし、向上期の前半は、山陽特殊鋼・山一証券等の会社更生法申請や再建計画に顕著にみられるように、不況・倒産の嵐が吹きまくった時期でもある。景気動向の波長と企業間競争の波長は、絶えず一致するもので、組合内においても、業界協調・過当競争防止が、主要な課題として提起されていた。他業界人を講師として、過当競争の実例を聴聞しながらの講演会開催や、組合役員の、機関誌への発言による警鐘等をしていきながら、一方で標準化委員会を設置して、標準価格を設定し、内外へアピールしていくという努力もなされていた。この委員会も、当初の意気込み程の成果は果し得ず、結局、

昭和46年に解散をしている。過当競争提正＝適正価格による適正利潤の確保という業界の命題は、その後も、5ヶ年計画の主要な柱のひとつとして取りあげてはいるが、未来永劫にまでつきまとう問題ではなかろうか。

この期にはまた、組合融資制度の中に、長期貸付制度を導入している。しかし、組合員の不祥事発生という事態から、債券回収に問題を残し、この期における組合員の倒産脱退は、ほとんど毎年発生しており、この5年間における組合加入11社に対し、脱退6社で、脱退組合員の全部が、謂ゆる倒産脱退である。したがって、組合員数や事業収入面的には、一種の低迷期といえないこともない。

しかし一方、10周年を迎える組合事業としては、その背景に、不況・共同受注といろいろ理由があったにせよ、設計料報酬制度や価格表の作成、また自動車事業の新規導入や、一回きりで終わったとはいえ当組合としては、継続して1年間実施した土曜学様（インテリアデザイン課程）など、現在の活動の基盤的なものを指向していたことが伺える。その延長線上に、5ヶ年計画の骨子が反映されているものと思われます。



向上期●昭和41年度（昭和41年4月～昭和42年3月）

昭和42年3月31日現在／組合員56社 出資金3360万円

41年4月1日 物品税法が改訂され、業界関連については大巾に減免させた

4月13日 理事会で共同受注規約制定等協議

4月20日 改訂物品税法説明会を、担当官を講師として会議室で開催

5月9日 理事会で共同受注用パンフレットの作成・ゴルフ会結成等協議

5月25日 第6回通常総会（熱海後楽園）出席44名（82%委任状13）借入最高限度1億5千万円・貸付最高限度5百万円等決定

6月7日 共受委員会で見積書用紙の作成・設計料の徴収額・パンフレットの内容等協議

6月28日 希望者22名で関厨ゴルフ会の発足打合せを行なう◇発起人は荒木唯光・岩崎実・宮本留一郎氏で会長に宮本氏を選任

7月3日 第5回野球大会において、日本調理機の森田投手が完全試合達成、なお、今大会から勝者戦の一部と敗者戦の二部制となる

7月22日 会議室において「最近の政治・経済事情」（宮下兵三）と題した講演会と、米国市場を収録した映写会を開催◇参加30数名

7月26日 第1回関厨ゴルフ会を大利根c.c.で開催◇参加14名◇優勝金田満須治氏

7月27日 工業会の社団法人設立記念祝賀会が赤坂プリンスホテルで開催◇参加120名◇式典の部で、鈴木啓之氏他16名に感謝状と記念品を贈呈

◇「ちゅうぼう」についてのアンケートを実施◇「時々読む」を含めて、全員が読んでいることが判明

9月9日 理事会で、就業規則・協調のための懇談会開催等協議

10月14日 過当競争対策について、実例

を混えた講演会を、通産局・木毛業界・金庫商工業界等に講師を依頼して会議室で開催

11月8日 臨時総会（赤尾ホテル）。出席50名（委任状13）◇組合員の増加に伴ない、地区を神奈川まで拡大すること等決議

42年1月6日 名刺交換会を工業会と共催にて会議室で開催◇なお、24日に八芳園で新年会を開催

2月16日 理事会で、長期貸付の実施等決議

◇長期貸付を実施

組合員消息●日建設備・熊野商事加入 外部

団体動向●工業会第2回設計コンクール・論文・第1回標語募集等実施◇機関誌「厨工会報」を1月発刊の通巻12号より現在の「厨房」に改題◆4月18日日本ガス器具工業会米国視察団に木村他参加◇5月24日 全国中央会10周年◇9月30日 司厨士会館竣工◇10月12日第18回中小企業団体全国大会が東京で開催され、組合も総務委員組合として参加◇2月17日 日本ガス器具工業会と（社）日本ガス石油機器工業会統一本体化記念祝賀会◇2月28日北海道厨房設備工業会発足◇都中央会と都商工連が組織合理化から一本化され、木村理事長が評議員に推挙さる 世相●官公需法が閣議決定◇大学騒動・ミニスカート流行・総人口1億・文化大革命



向上期●昭和42年度（昭和42年4月～昭和43年3月）

昭和43年3月31日現在／組合員59社 出資金3540万円

42年4月8日 共受委員会でパンフレットの作成編集にあたって、工業会の「厨房機器名称統一検討委員会」に対して協力方を要請

4月12日 理事会で事務局の就業規制等を決議

5月24日 第7回通常総会(翠山荘)出席51名(91%委任状10)◇借入限度2億円・加入金30万円等決議◇なお、役員改選を行ない、理事長木村、副理事長熊谷・谷他の役員を選出

6月14日 理事会で過当競争防止対策等を協議の他、福利厚生会館建設委員会を設置

7月12日 理事会で功労者顕彰・団体保険・受注配分等協議

◇共同受注用共同カタログ完成

9月12日 理事会で過当競争・団体保険等協議◇標準化委員会設置

10月12日 理事会で功労者顕彰規定制定◇共受委員会で機器の標準価格決定

11月8日 臨時総会(翠山荘)出席58名(委任10)◇集団求人事業の定款変更◇共同受注関係補正予算◇監事補欠選挙等決議

◇同日、役員を退任した尾崎新治・馬場鋭之助・村田幸一氏と、ステンレス共

同仕入で労苦のあった井上次郎・諸井卓氏へ感謝状贈呈

12月8日 理事会(四季)で、共同受注組合債務の理事保証等協議

43年1月6日 工業会と共催で名刺交換会開催◇新年会は26日八芳園で開催

1月18日 理事会で転貸事業の再検討◇共同仕入の内容等協議

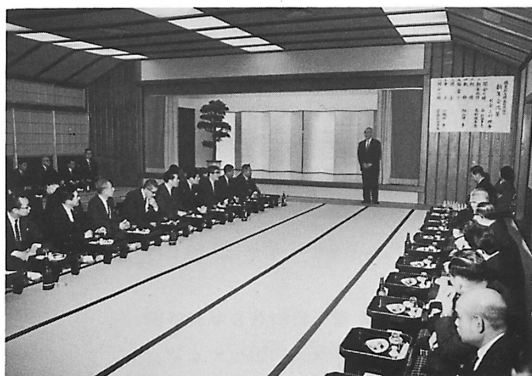
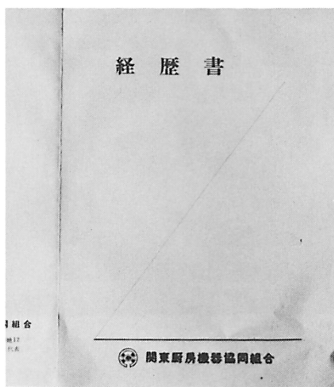
3月12日 業務部と共同仕入メーカーとの打合せ会

3月18日 「中小企業の労使関係と若年層の定着策」(林信雄)「内外情勢の動向と今後の中小企業経営の方向」(斉藤栄三郎)と題する経営セミナーを会議室で開催◇参加40名

◇パンフレット(組合カタログ)・組合経歴書・組合旗作成

組合員消息●4月20日岩倉好松氏没66歳◇12月4日佐藤仁助氏没91歳◇3月30日桐山喜一郎氏没62歳◇巽ガス・二葉工業・松島ss・井上金属・東京管材の5社加入◇吉村・林脱退

外部団体動向●5月27日工業会第1回総会で厨房設備士資格認定制度等決議◇厨房設備士運営委員会発足◇設計・論文・標語の募集◇9月(財)日本ガス機器検査協会設立 世相●不況による倒産の嵐◇昭和元禄◇フーテン・ヒッピー族横行・中東戦争



向上期●昭和43年度（昭和43年4月～昭和44年3月）

昭和44年3月31日現在／組合員58社 出資金3480万円

43年4月17日 理事会で長期貸付制度の廃止を決定

5月29日 第8回通常総会（富士屋ホテル）出席50名（85% 委任状8）

◇借入限度1億5千万円・貸付限度5百万円・賦課金3千円等決議◇組合債務の組合員全員保証。作成カタログを関東一円へ配布等協議

◇組合会館の空調設備完了

6月15日 理事会で融資規約の改正・諸規約の再検討等協議

◇組合事務所を2階に移転

9月7日 共受委員会で厨房機器価格表の作成・規約の改正等協議

10月28日 作成した価格表・カタログ・組合経歴書を関東地区の官公庁・設計事務所・建築協会・各団体等1200個所へ送付

11月7日 臨時総会（さがみや）出席51名（委任状11）◇補正予算を決定◇同日、42名の優良従業員を表彰

11月12日 長期貸付制度の徹廃により、転貸残のある会社は短期借入もできない弊害が発生したので、当該者の意向

調査を実施

44年1月6日 工業会と共催で名刺交換会を会議室で開催◇なお新年会は24日八芳園で開催

1月21日 都中央会催の3日間にわたる「中小企業の近代化・協業化講習会」に組合員16名参加

3月27日 「新入社員の受入」「組合の協業化」などのスライド映写会と「中小企業経営上の問題点について」（松永誠二）と題する講演会を会議室で開催◇参加10名◇厨房機器価格表3000部作成

組合員消息●4月29日尾崎新治氏勲五等瑞宝章叙勲◇11月5日細山礼吉氏勲五等瑞宝章叙勲◇細山氏はまた太田賞も受賞◇加藤脱退

外部団体動向●工業会総会で用語ハンドブックの作成と業務用厨房機器の統一名称を決定◇日本厨房設備士会発足◇第1回設備士の登録と設備士試験を行ない千名余が受験した◇第4回設計・論文の募集◆食品衛生協会創立20周年◇10月食品衛生センター竣工 世相●厨房設備工事を装った寸借サギ事件発生◇明治百年◇ゲバ学生・霞ヶ関ビル完成・十勝沖地震・3億円事件・郵便番号制





●インタビュー

宮本留一郎氏(株)宮本製作所社長)



——今日は、珍しい写真をお見せしようと思
いまして。昭和の初め頃、結成された東
京料理用ストーブ製造業組合の時のです。
北川さん、新井さん、橋本さん、椿さん。
堀田さん、松下さん等の顔が見えます。
この時は組合旗を作って芝の大神宮で入
魂式までやったそうですね。

そうだったね。もう50年以上も前の事だから
ナァ。このストーブてのは、今のレンジの事
で厨房って言葉もアメちゃんが来て始めて出
て来たんだから。

ボクが業界に入ってから、もう60年程にな
るんだが、当時横浜ドックから陸へ上ってみ
て、たまたま、折からの震災による焼野原で
今でいう洋食屋のストーブを修理する人が少
なかったの、これならボクにも出来ると思
ってやり始めたのが、そもそもの始まりだネ。
だからボクは誰からも教わってないんだヨ。

当時ストーブ屋をやっていたのは5～6人
位だが、大体が北川や橋本の弟子で、北川に
しても先代が明石町のハウスで修理から覚え
たというから、その意味ではボクと同じだネ。

——当時は相当利益もあったそうですが——

そりゃ儲けたよ。折返しと云ってネ、折れ
て房程儲けたもんだよ。当時、帝大を出て
15円位の頃、3尺モノで25円位になったネ。
物も安かったが、今と違って競争もなかった
からネ。単車を乗りまわしていたのもボクだ
けだったよ。

徹夜での仕事が普通だが、赤坂の帰りに数

寄屋橋の所で戒厳令（2・26事件—昭11年）
に出合ったのが、今でも、とても印象に残っ
ているネ。

——木村さんとは仲が良かったそうですが——

ウマが合うというのか、よく飲みにも行っ
たネ。木村はボクと違って頭の回転も早く
他の連中と違って性格も明るかったナァ。実
はね、木村が大きくなったのは尾崎のお陰も
あるんだよ。三越の玉子の卸をやった尾崎
と知り合い、販売面も強化されたようだ。そ
れと十一屋商店が解散した時、番頭をしてい
た堀田を誘って、十一屋の客筋を掴むなど、
頭が良かったネ。

岩倉は鈴木小松商店で販売をやっており、
そのアト下請けの佐藤鉄工所でマネージャー
みたいなものを経て独立したんだヨ。

当時の記憶を書いておけばよかったんだが
なにしろ苦手でネ。

——今の若い人達に何か一言

自分自身が自信の持てるものを自分の体
に入れろと云う事だネ。ボクもね、精神一到何
事か成らざらんで努力したもんだヨ。

ボクの家系は長寿でネ。つい最近のことだ
が姉など89歳まで生きてたよ。

とにかく現在生きてて、無理に死ぬ訳にも
行かないから、希望一夢を持つようにしてるヨ。

昭和56年3月19日／宮本ss応接室／インタ
ビュー河内／宮本氏談話中敬称省略

向上期●昭和44年度（昭和44年4月～昭和45年3月）

昭和45年3月31日現在／組合員59社 出資金3460万円

44年4月11日 理事会で自動車の共同購入事業等協議

4月23日 自動車事業の発足にあたり実情を調査

◇昭和39年に建設した組合会館の借入分完済

5月16日 第9回通常総会(起雲閣本館)出席52名(90%委任状15)◇加入金35万円等決議◇自動車事業の発足に伴ない、定款を変更◇役員改選を行ない理事長木村、副理事長熊谷・谷の他理事を選任

6月12日 理事会で福利厚生会館建設委員会の解散等決議

7月22日 理事会で約定書制定等協議

◇昨年発行した厨房機器価格表を積算資料へ掲載

9月2日 栃木卸センター・輸出玩具工場団地の見学会と「中小企業構造改善の手法」(池田彰)と題した研修会を日光で開催◇参加27名

9月24日 理事会で秋元時一郎副理事長を互選

◇晴海で開催された建築設備展に「業務用厨房相談コーナー」を開設

11月16日 第1回ボーリング大会をタワーボールで開催◇参加28社162名

11月12日 臨時総会(さがみや)出席47名(委任状15)◇倒産組合員会社の保証債務等協議◇同日、41名の優良従業員を表彰

12月3日 理事会で創立10周年を迎えるにあたり、式典挙行と10周年記念誌の発刊等協議

45年1月6日 工業会と共催で名刺交換会を会議室で開催◇31名出席◇27日八芳園で新年会開催◇60名出席

1月22日 理事会で10周年記念誌の内容を百年の変遷とする等協議

2月11日 第二次ステンレス共同仕入の受付開始

◇共同受注第1号成立◇明治製菓

組合員消息●11月3日 木村秀吉氏勲五等瑞宝章を叙勲◇深沢貞雄氏組合法律顧問に就任
長岡ss・中里・クレヴァ電機の3社加入◇日建・千代田脱退 外部団体動向●工業会北海道支部発足 世相●東大闘争◇情報化社会・システム思考・東名高速全線開通・月面着陸



向上期●昭和45年（昭和45年4月～昭和46年3月）

昭和46年3月31日現在／組合員59社 出資金3420万円

45年4月16日 理事会で、設備工事請負契約書等協議

4月28日 ステンレス共同仕入に37社より利用申込み

5月18日 第10回通常総会（ホテルおかだ）出席53名（95%、委任状13）事業報告・計画・借入限度・貸付限度等決議

6月19日 理事会で「請負契約書」を制定

6月24日 東京ガス（株）の熱源変更（天然ガストレート供給）に伴う説明会を同社の本社講堂で開催◇参加約100名

7月21日 理事会で、教育研究事業の一環として「土曜学校—インテリアデザイン課程」の実施を決議

7月27日 土曜学校の開校にあたって、組合員にアンケート調査

◇東京商工会議所へ加入

9月8日 理事会で創立10周年記念式典の詳細について協議

9月28日 第1回土曜学校運営小委員会

10月28日 鉄道会館ルビーホールにて、組合創立10周年記念式典を盛大に挙行◇約120名出席◇席上創立以来の現職役員である、木村、熊谷、梅田、細山氏へ感謝状と記念品を贈呈

11月7日 土曜学校—インテリアデザイン課程を開校◇受講生9社11名◇土曜の午後延35日140時間のカリキュラムは、東工大他の教授3名を講師として

建築一般〈高原先生〉建築造形〈中村先生〉建築美術〈小栗先生〉

11月26日 東京会館で優良従業員35名の表彰式を開催

46年1月6日 会議室にて名刺交換会を開催◇新年会は28日八芳園で開催

2月19日 改訂版の厨房機器価格表を関係筋1,285ヶ所へ送付

2月23日 理事会で修理代金基準等協議
3月5日 修理代金計算基準に関するアンケートを実施

3月24日 理事会で共同受注規約・細則の見直しと自動車事業の手形への個人保証廃止を決定

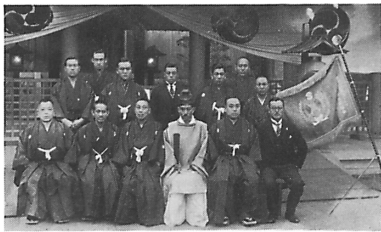
◇共同溝工事によって、会館に被害を受ける

◇共同受注事業として、東京ガス（株）大岡山ss、ニュージーランド大使館等へ納品

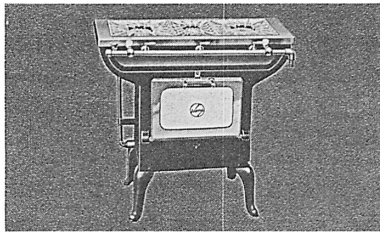
組合員消息●桐山鑄工加入◇第一脱退 外部

団体動向●4月28日工業会理事会で設備士制度調査委員会を発足させ、法制化へ胎動◇第5回設計コンクール実施◆8月6日北陸厨房設備（協）は北陸調理機器（協）に名称変更◇厨房機器の物品税減免の陳情書を関係先へ提出◇日刊工業新聞社25周年◇全国給食協同組合連合会5周年◇ステンレス協会10周年 世相●大阪の万国博◇三島由紀夫自決◇進歩と調和・公害国会・ハイジャック・マンガ言葉全盛・歩行者天国

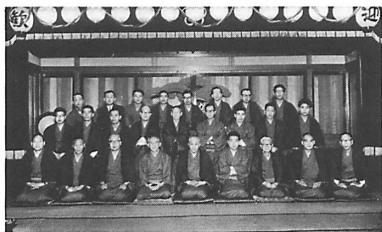




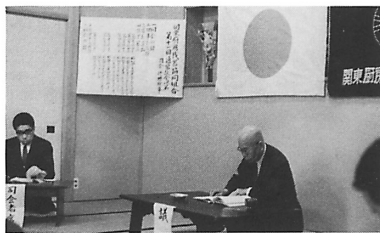
昭和初期に設立された東京料理用ストーブ製造業組合」の会旗入魂式
芝大神宮社前



昭和6年頃の家庭用ガスレンジ



昭和25年頃のガスレンジ



昭和44年9月 輸出玩具工業団地
見学会



昭和48年8月 夏期研修会(軽井沢)



二代理事長

秋元時一郎氏の人となり

組合の役員歴：創立時～昭38年／監事 昭38年～40年／理事 昭42年～44年／理事 昭44年～46年／副理事長 昭和46年～47年／理事長 昭和47年～53年／相談役 昭和53年 5月8日 没71才

仮に現代厨房という言葉を使うとすれば、その草分け的存在であったのが、萩工業ということになりましょうか。日本一のホテルマンを目指していた秋元さんが、この萩工業へ入社されたのは、昭和の始めであります。萩工業では、調理機部門の責任者として活躍しておられましたが、休日返上で大奮闘されていたとの事です。

昭和20年、萩工業が解散状態になると同時に独立をされ、またたく間に、30人程の世帯になられたとのことで、偏えに秋元さんのお人柄の故でありましょう。ご苦労や悩み事は、ほとんど外へは出さず、血色の良い、ツヤのある顔色で全国をくまなく走りまわり、それでもケロリとした顔で、組合の会合へ出ておられました。その健康の秘訣は、何と云っても酒が一番だと、良く自慢をしておられました。事実、毎朝の食前に、お酒をコップ1杯ずつ召し上るのだと、生前うかがったことがあります。

健康そのものであった秋元さんが交通事故に会われたのは、やはり仕事の関係で、地方から、自家用車で帰京の途中であったとお聞きしております。木村初代理事長の後継者として、昭和46年に理事長にご就任して、間もない頃でございました。木村理事長の病態も思わしくない中で、副理事長として、組合10周年記念式典を無事挙行政され、謂ゆる、組合発展期を背負ってのご活躍を期待した時期であった訳です。

然し、秋元さんのご活躍は、多方面にわたっておられました。俗に「秋元学校」と呼ばれる程、優秀な業界人を数多く育成せられ、

また、その経営姿勢にも、謂ゆる「厨房ヤ」からの脱皮を強く説いておられました。厨房業者の作業としても、カウンターの外にまで出なくては行けないという思想が、組合事業として、土曜学校(インテリアデザイン課程)実施への引き金となっています。

現代厨房の草分けを萩工業とするなら、秋元さんは近代厨房の数少ない草分け的存在のお一人でした。国際観光協会や建築設備総合協会など、業界との橋渡しの役割を果たしておられました。顧客を大切にされる秋元さんから、椿山荘を紹介され、その後組合も、毎年椿山荘で行事を行っておりますが、今般の20周年記念式典を、この椿山荘で挙行政したのも、奇しき因縁なのかも知れません。



昭和7年 萩工業貿易協会の慰安会
前から三列目、帽子を被った三人の真中が秋元さん

発展期

昭和46年～昭和53年度の概要

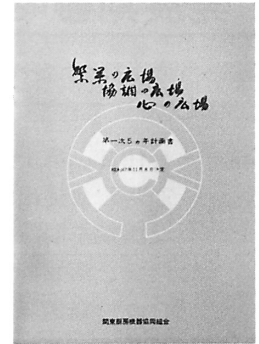
この8年間は、まさに波乱万丈の一時期であった。政界は田中政権の失脚に始まり、青天のへきれき三木政権、そしてさらに執念とも怨念ともいわれた福田政権の誕生。ロッキード事件や石油ショックによる政府の緊急事態宣言まで、日本中が一種のパニック状態ともなった。組合内部においても、初代木村理事長から秋元理事長への交代。その秋元理事長も就任2ヶ月にして不運にも交通事故の遭遇で入院を余儀なくされ結局一年の短期間で第三代の熊谷現理事長へと継承された。また組合生みの親とも云える木村氏の死。木村氏の場合は、長い間病氣療養中のところであったが、初代事務局長手塚信一氏の死は、まったくの突然であった。そして、秋元氏も逝去された。執行部も事務局も若返り、しかも、鮮明なビジョンを確立しきってない状態であっただけに、役員諸氏もご苦勞であったろうと思われる。それを支えたのは、昭和47年秋に理事長就任早々の熊谷理事長より示唆を受けて策定された第一次5ヶ年計画であろう。組合の、そして業界の発展・向上を期して策定された、この5ヶ年計画は、組合将来への確かなビジョンを形成させ、路線として確立する程の大きな意義をもっていた。過当競争は正・技術・振興・知識集約化からなる四委員会委員に、思い切って多くの若手を登用し、それも、組合役員や組合員会社役員にこだわらず、第一線で活躍している社員達にも協力を願って、この5ヶ年計画は組合設立、会館建設に続く組合史の中でも大きなエポックメイキングとなったのである。その精神の中から、組合商品制度が生まれ、技術高揚のための講習会の積重ねが推奨制度へと開花し、単に組合内部に止まらず業界へ眼を向ける姿

勢から業者名鑑が発刊され、それが組合員の拡大へと結びついていく。そして、組合の長期経営基盤確立の礎となるところの、前述の組合商品制度と共同受注事業の推進である。

石油危機による価格変動、世代交代ともいえる執行部の流動という幾多の苦しい状況を乗り越えて、盤石の組織体を築き上げていったその理念は、5ヶ年計画のスローガンである。繁栄の広場・協調の広場・心の広場の建設であり、そして組合活動を、運営から経営へと意識転化させていった施策であろう。

昭和53年度と創始期の組合規模を比較した場合、組合員約3倍、出資金約4倍、総予算は実に30倍近いものになっている。

繁栄の広場
協調の広場
心の広場



第一次5ヶ年計画の概要と総括

企画立案の背景

食堂業界における資本の自由化、大手企業の中小企業分野である業界参入の危機感という当時の情勢の中で、短期で実施し苦い諸課題を、5年という中期で解決していくものとし、内容としても、決して5年後における構想ではなく、今日における意志決定として立案された。

計画の骨組

“繁栄の広場、協調の広場、心の広場”をスローガンに、業界のレベルアップ・共同施設の建設・技術開発を主要な三本柱とし、最終最大の目的を、共存共栄による業界の質的高揚を目指したものである。

策定までの経緯

昭和47年11月8日開催の臨時総会（熱海・ホテルさがみや・本人出席48名、出席率71%）において、1万字にも及ぶ計画書を総意によって決議し、翌年2月の理事会で過当競争是正（椿良輔）・技術（生島四郎）・振興（梅田勝徳）・知識集約化（上野一雄）の4委員会と委員長を、第一次5ヶ年計画実行委員会として設置発足させ、具体的活動に移行した。

各委員会の指針と活動状況

過当競争是正委員会：価格の検討・組合員協議会や全体協議会の開催・受注状況の指導と調停・員外業者への協力要請等を指針としてきた。主な会議内容は価格の検討・設計報酬基準・情報交換・原価構成比・請負契約書・見積様式の統一化等。主な活動記録は石油危機による価格変動による要請文「勧告」の作成・公正証書用請負契約書・修理代金計算基準の改訂・設計料報酬基準表、積算用資料の作成・「健全経営を確保するための規約」

制定・同一仕様書による見積調査の実施・拡大委員会の定着化等。会議開催回数24回

技術委員会：燃焼器具の開発指導・技術向上の研究・部品等の規格統一化を主軸に技術面における高揚が指針。主な会議内容はユニバーサルノズル・コックの研究・部品の規格統一化・燃焼器具のテスト結果・講習会の内容。防災問題等。主な活動記録は互換性を主眼としたコック・五徳等部品の規格化・11回の技術講習会開催で千名近い受講者・ガスレンジの取扱説明書・作業基準書・銘板・シールの作成・ユニノズルの使用説明書・バーナとノズル径の対比表の作成・推奨制度の確立等を媒体としながら、東京ガス(株)等との強力な協力体制の確立。会議開催回数44回。

振興委員会：建設業資格の完全取得・取得業者優先指定・業者名鑑の作成・組合員強化・連合会の結成・労働力確保・社員教育が指針。主な会議内容は企業名鑑の作成・組合員の強化・労働力確保の研究・組合商品・情報宣伝・原価意識の高揚・電気用品取締法・退職資源活用等。主な活動記録は組合員35社の新規加入・建設業資格取得の奨励・業務用企業名鑑関東篇の発刊・組合商品の拡販・労務改善事業の推進・組合ニュースの発行等。会議開催回数15回。

知識集約委員会：関連設備一括受注への研究と指導・開発新製品への助成と指導・工場等の見学と生産性の研究・講演会・講習会の開催が指針。主な会議内容は各種調査の分析・見学会・講習会・講演会の開催・共同カタログの作成・分野調整法・設計相談室の開設・倒産防止共済制度・統一伝票・東南アジアの市場開拓調査・ローン販売業。主な活動記録は外国製カタログの収集・夏期研修会・講演会・見学会の恒例化・共同カタログ作成の準備・その他文献資料の収集等。会議開催回数17回。

発展期●昭和46年度（昭和46年4月～昭和47年3月）

昭和47年3月31日現在／組合員60社 出資金3440万円

46年4月16日 第1回理事会（8名）

通常総会提出議案等、総会開催に必要な議案を協議

◇同日、第8回百年史編纂委員会

◇取材経過等について報告

5月7日 第2回理事会（9名）

◇記念誌出版にあたり、細山氏より協賛金の申入れがあった旨の報告◇第9回編纂委員会活動方針について等協議

5月18日 第11回通常総会（銀扇楼）

◇出席49名（83%、委任状10）◇借入限度1億5千万円◇貸付限度5百万円◇加入金額は今年度より出資1口対して7千円等を決議◇役員改選では、理事長秋元、副理事長熊谷、椿良輔他の理事を選出

6月15日 第3回理事会（11名）

理事業務分担のうち、共同受注部は業務部へ併入し、教育厚生部のうち教育部門は総務部の分掌事項とし、福利厚生部と改めた◇委員会のうち標準化委員会は受注運営委員会へ併入◇生命共済制度（グループ保険）については、実施の方向で意向調査の実施◇都中央会会長表彰に木村・細山礼吉氏を推挙◇木村前理事長を相談役に委嘱

6月20日 第4回ボーリング大会

7月1日 生命共済制度の実施に併ない組合員の意向調査を実施◇回答56%、その中で支持76%

7月3日 総務部会

生命共済制度と共同溝工事で破損した会館の改修等協議

7月13日 受注運営委員会

委員長選出◇運営に関する件等協議

7月17日 土曜学校受講生が晴海で開催中の家具展を見学

7月30日 生命共済制度の実施に併ないグループ保険の説明会を開催◇参加20社

◇第11回野球大会

8月29日 第5回ボーリング大会

9月2日 総務部会

マスメディアの活用(TVCM)◇生命共済制度等協議

◇同日、東京都中経協・宮下兵三氏による「ドル防衛措置とその影響について」と題しての時局セミナーを会議室で開催。参加23名

9月14日 第4回理事会（9名）

木村・細山氏を功労者として顕彰◇工作機械の共同購入化には次回まで問題点の抽出等協議

10月19日 第5回理事会（9名）

臨時総会（11月17日）時に木村・細山氏への感謝状と記念品を贈呈◇土曜学校の続行困難◇東京家具健保を組合員へ紹介◇家具健保へ事務局加入等協議

◇土曜学校運営小委員会

同日講師を混えて開催◇終業式10月23日◇出席率50%以上に終了証書30%以上に受講証明書を交付◇継続については困難なので保留◇受講生が希望すれば専問校への斡旋◇今後は20名以上等協議

10月23日 土曜学校終業式

10月31日 第8回卓球大会

11月1日 生命共済制度発足◇29社808



名◇1,299口

11月14日 第6回ボーリング大会

11月17日 臨時総会（椿山荘）

出席54名（委任状9）◇相談役に関する定款変更を決議◇同日木村秀吉、細山礼吉両氏へ感謝状と記念品の贈呈と従業員39名の表彰式を挙行

11月19日 第10回百年誌編纂委員会。取材経過の点検、民家園の見学等について

12月8日 編纂委員会として、全員で川崎市登戸の日本民家園を見学

12月14日 ステンレス鋼板需給懇談会

12月17日 第6回理事会（9名）

名刺交換会は新年会と重複の声もあったが、来年も実施◇相談役に関する規程一部変更◇生命共済の加入状況は、組合員総数の約30%、加入者数で約20%の報告◇共同溝工事による会館破損の修復時は、1Fの展示物を事務室に改造等協議

47年1月7日 名刺交換会◇40名◇27日に新年会（椿山荘）◇60名

1月26日 総務部会

会館1Fを事務室に改造し、組合事務局で使用する件を協議

2月20日 第7回ボーリング大会

2月22日 総務部会

2月25日 第7回理事会（8名）

総務部から答申の会館改造等を決議◇生命共済と関連して組合員自宅に掛金組合負担で火災共済の付保◇融資規約を改訂して出資金の10倍を限度とし、公平を期すことで総会上程等協議

3月29日 第8回理事会（9名）

会館展示室の改装等協議◆同日、百年誌編纂委員会◇厨房の推移、各種分類原稿の作成について協議

3月31日 理事会決議された火災共済制度を辞退した2社を除いて、各地区火災共済協同組合と契約

◇共同受注事業でアリエス、パロディへ

納品

◇修理代金計算基準書作成

組合員消息●都中央会表彰式で木村秀吉・細山礼吉・尾崎新治氏表彰◇7月7日秋元理事長交通事故で入院◇五加調理・東京設備加入◇異脱退◇松下ss専務、青森氏が病死され、生命共済制度の初給付となる **外部団体**

動向●11月11日工業会は熱海静観荘において第1回全国厨房業者大会開催◇5月20日全国中小企業団体中央会15周年◇5月24日関東瓦斯器具協同組合20周年◇9月22日東京都中小企業団体中央会15周年 **世相**●脱サラ・ドルショック・ディスカバー・ボーリング全盛



発展期●昭和47年度（昭和47年4月～昭和48年3月）

昭和48年3月31日現在／組合員72社 出資金3680万円

47年4月19日 第1回理事会（8名）

総会開催に必要な議案審議の他、会館
改造に伴う展示室の廃止等協議

◇第12回編纂委員会

進捗状況の確認・取材方針等協議

5月16日 第2回理事会（12名）

共同仕入拡充のために意向調査を行い
集約のうえ決議◇秋元理事長より、交
通事故後の回復が思わしくない事から
辞任の意志表示があり受理◇共同溝工
事被害の補償問題が地域の対策委員会
で推められている旨の報告

◇第13回編纂委員会

通常総会へ提出する中間報告書の検討
および写真の年代別・機種別検討等協
議

5月23日 第12回通常総会（赤尾ホテル）

出席52名（87% 委任状12）◇貸付限
度6百万・出資金の10倍◇加入金を出
資1口に対して7千円等協議

◇総会に先がけて秋元理事長辞任に伴な
う後任人事についての緊急理事会を開
催し、熊谷俊男を理事長に互選

◇同日、共同仕入実態調査用紙を配布

6月13日 ステンレスメーカーのカルテ ル申請に伴ない、メーカー・組合・公 正取引委員会の三者懇談会

6月16日 第3回理事会（9名）

事業計画の遂行にあたり、理事の業務
分担を細分化して理事全員の責任制と
した◇無茶な競争を改正するために設
備業者間の話し合いを持ち、将来的に
は全国的規模まで拡げて、業界の結束
と協調を図っていく◇融資の責任と保
証は理事全員だが正副理事長・経理担
当理事で行なう小委員会を設置◇生命
共済制度の加入範囲を協力会社まで拡
大◇共同溝工事補償請求の進捗状況報

告◇会館改装と併せて会議室も改造等
協議

6月22日 総務部会

6月25日 第8回ボーリング大会

6月26日 会館改修工事開始

7月11日 会館1Fの改造が終了し、組合 事務所を1Fへ移転

7月29日 木村秀吉初代理事長、心不全 で逝去◇74歳

8月2日 木村元理事長の逝去に伴ない
緊急理事会開催◇組合からの供呈内容
等を協議し、感謝状と記念品の贈呈を
決議◆会館改修工事費用と補償金の見
込等を報告

8月7日 木村元理事長の告別式が青山 葬祭場で举行◆役員全員正装で列席

◇第12回野球大会で日調製造チーム、2 回目の完全試合達成

9月14日 第4回理事会（9回）

業界のレベルアップ（協調）・共同施
設の建設（共同倉庫共同運輸）・技術
開発（規格化、研究開発）等を骨組と
した第一次5ヶ年計画の協議◇都中央
全表彰に熊谷・秋元・梅田の各理事と
事務局より手塚・河内を推挙◇新規加
入組合員4社を承認◇生命共済の最高
給付額を2百万円に改訂◇欠員となっ
ていた副理事長に上野一雄を互選◇
5ヶ年計画推進のために厨房百年誌の
編纂は小休止等協議

10月14日 総務部会

第一次5ヶ年計画書の検討

10月20日 第5回理事会（9名）

総務部会で検討した前回上提の5ヶ年
計画書についての、答申等を協議し、
大綱をとりまとめて、臨時総会へ提出

11月8日 臨時総会（さがみや）

出席57名（委任状9）◇第一次5ヶ年

計画書を協議し、共同施設建設は更に検討を要するので審議未了とする。他は原案通り可決◇組合員拡充の為、定款の地区を関東一円と変更を決議

11月9日 昭和c.c.で第1回親善ゴルフ大会開催

11月12日 第9回卓球大会

11月27日 第6回理事会(11名)

5ヶ年計画の実施方を審議し、次回に委員会設置、委員選出を行なう◇新規加入組合員2社の承認等協議

◇生命共済制度の第1回配当を実施◇配当率約50%

12月1日 組合員へ「建設業資格取得状況調査」と全国の各都道府県中央会へ「業界団体組織状況調査」を実施

12月9日 共同仕入事業の専用価格表作成

◇厚生省、公衆衛生局主催の特別課程衛生監査視学研究会の依頼により、組合員35社からカタログを収集し、出席した42保健所の衛生課長へ配布

48年1月8日 新年会開催(椿山荘)80名

1月24日 第7回理事会(11名)

5ヶ年計画の関連設備の一括受注を促進するために組合員の対象を拡大していく◇過当競争・技術・振興・知識集約化の各実行委員会の設置と分掌事項を決議◇人選については、内諾を得ていないので次回決議◇秋元時一郎・鈴木啓之氏に相談役を委嘱◇組合加入時の負担が大きすぎるとの発言があり、10回の分割納入を承認

2月7日 第8回理事会(10名)

5ヶ年計画実行各委員会委員長および委員を決議(過当競争・椿良輔、技術・生島四郎、振興・梅田勝徳、知識集約化・上野一雄)◇任期については次回役員改選時まで◇実行委員会設置規程の制定◇百年誌の編纂業務が小休止しているが委員を増員して専従してもらう◇委員会活動にも役員同様車馬賃を支給等協議

◇同日、第14回編纂委員会を開催し、計

画の変更、委員の補充等協議

2月16日 第1回技術委員会

2月18日 第9回ボーリング大会

2月21日 第1回振興委員会

2月22日 第1回知識集約化委員会

2月27日 部品の規格化・互換性等研究のための実態調査実施

3月7日 振興委員会所管の業者名鑑作成のための調査協力を組合員へ依頼

3月8日 第1回過当競争是正委員会

3月9日 建設業認可申請手続説明会を専門代行業者を呼んで開催◇出席約20名◇組合経由で代行申請を行ない、組合員非取得の絶廃を期す

3月13日 第9回理事会(10名)

新規加入組合員4社を承認◇各委員会からの報告◇第一次5ヶ年計画実行委員会設置規程制定◇役員定数の変更等協議

3月22日 第15回編纂委員会

構成委員の一部変更・編纂方針等協議

◇同日、第2回知識集約化委員会

行動の綱領・附帯経費の検討等協議

3月26日 第2回過当競争是正委員会

実態調査の収集・価格表作成等協議

◇矢野経済研究所で厨房機器の生産・出荷状況等を調査してまとめる

◇厨房設備工事施行請負契約書作成

組合員消息●4月3日碓井達雄氏没 ◆飯塚鉄工・ダイワ工業・大和ステン・東栄厨房・クマノ厨房・菊地厨器・イースタン商会・谷口工業・オリオン設備・清和厨房・日本ユニフロー・長堀車輛の12社加入 **外部団体動向**●9月28日都中央会表彰式で組合から熊谷俊男・秋元時一郎・梅田勝徳の組合功労者と手塚信一・河内よし子の事務局役職員表彰◆11月1日工業会10周年記念式典および、第2回全国厨房業者大会を熱海市静観荘で開催◇10周年記念第1回海外視察団派遣◆近畿厨房機器協同組合10周年記念◇10月25日東京都火災共済協同組合25周年◇3月28日日本ガス石油機器工業会会館竣工 **世相**●田中内閣・列島改造・日中国交回復・パンダブーム・連合赤軍事件・横井庄一・札幌オリンピック・沖縄復帰

発展期●昭和48年度（昭和48年4月～昭和49年3月）

昭和49年3月31日現在／組合員85社 出資金3960万円

48年4月4日 第2回技術委員会

委員構成◇部品等使用調査結果◇技術講習会開催等協議

4月20日 第1回理事会（11名）

委員会答申◇新規加入組合員承認◇総会提出議案の内容◇河内職員の訪米派遣等協議

4月24日 第3回知識集約化委員会

4月26日 第3回技術委員会

部品の規格統一化等協議

5月2日 第3回過当競争提正委員会

価格構成比算定基準のモデル◇アンケート結果等協議

5月9日 第2回理事会（8名）

総会内容◇新規加入組合員◇委員会答申等協議

5月18日 工業会の第2回海外調査団の一員として河内職員訪米

5月22日 第13回通常総会（大和ホテル）

出席65名（90％委任状11）組合加入金額1万円、賦課金6千円等決議◇定款第24条役員定数を19人以上21人以下と変更を決議◇役員改選を行ない理事長熊谷・副理事長上野・梅田他の理事を選出

5月23日 第2回親睦ゴルフ大会

6月4日 第4回知識集約化委員会

研修会・講演会開催について協議の他外国カタログの収集研究でカタログセンターの見学

6月12日 都中央会主催の「中小企業の知識集約化」講演会上野委員長他参加

6月13日 第3回理事会（16名）

事業計画の実施に伴う理事の分掌事項◇共同仕入事業の混乱是正のため業務部と当該業者との話し合いを推しすすめること等協議

6月20日 第4回技術委員会

技術講習会の開催◇部品の統一化◇標準スペック等協議

6月23日 第1回技術講習会を7月7日の2日間東京ガス研修センターで開催

◇テーマはガス器具の常識等◇受講者49社126名◇講師は東京ガス（株）工藤係長と瀬崎副主査

6月24日 第10回ボーリング大会

7月4日 第2回振興委員会

建設業資格取得完全実施◇業者名鑑作成◇組合加入活動強化策等協議

7月10日 第5回技術委員会

ガスレンジの部品統一◇標準スペック等協議

7月17日 理事会の諮問を受け、業務部と関連メーカーとの話し合い

7月18日 第4回過当競争是正委員会 厨房機器価格表の作成◇組合員ミーティングの開催等協議

7月26日 第4回理事会（12名）

各委員会報告の他、組合員全体会議の開催等を協議◇諸資料を組合に配備すると組合へのコピーサービスも必要となるので複写機の購入等検討

8月11日 都中央会主催の知識集約化講習会上野・松崎正副委員長出席

8月25日 軽井沢のホテルシャンポールにおいて「中小企業の知識集約化」についての講習会（波多野和哉）他を開催◇参加者43名

8月26日 第3回親睦ゴルフ大会

9月6日 第3回振興委員会

業者名鑑の発刊◇建設業完全取得◇週休2日制の導入等協議

9月11日 第6回技術委員会

部品の統一◇仕様基準書の作成等協議

9月13日 第5回理事会（15名）

組合員全体会議の開催内容◇持分払戻し◇中金からの増資依頼等協議◇組合員全体会議実行委員を選出

9月21日 第5回過当競争是正委員会 厨房機器価格表改訂版の作成等協議

◇第13回野球大会開催

10月2日 第1回組合員全体会議（機械振興会館）◇出席56名◇5ヶ年計画の内容説明◇各実行委員会の活動報告と内容説明◇組織の細分化等協議◇総合テーマは「変化への対応」

10月19日 第6回過当競争是正委員会 価格表作成で最終案の検討

10月24日 第6回理事会（11名）

組織の細分化として業種別部会の設置

を決議◇部会役員の選出にあたっては現職理事以外から各部会で互選◆共同仕入事業の重要性に鑑み共同購入委員会を設置して網領の作成等協議（委員長上野一雄）

11月9日 臨時総会（椿山荘）

出席62名（委任状14）組織の細分化に関する件で業種別部会の設置を決議◆被表彰者45名の第10回表彰式挙行◆邑井操先生の講演会「使われる心理、使う心理」

11月16日 都中央会主催の知識集約化講習会に事務局職員派遣

11月18日 第11回ボーリング大会

11月26日 第7回理事会（11名）

新設された業種別部会の初期運営として理事より各部会の世話人を選出◆共同購入事業の拡充強化のため共同購入委員選出◇近日中に同事業についての組合員の意向調査の実施等協議

12月7日 近畿厨房・東海調理各協同組合の事務局長が上京し、第一回事務局連絡協議会開催◇名称を全国厨房機器協同組合協議会として各組合の動向報告・共同購入事業の情報交換と連携等を検討。当面は事務局間の連絡機関としていく

12月13日 第4回振興委員会
業者名鑑の作成について協議

12月16日 第10回卓球大会

49年1月8日 新年会（椿山荘）出席90名

1月24日 第1回共同購入委員会
組合員意向調査の集計結果について検討し、事業の推進方等協議

1月28日 第1回製造設備合同部会（機械振興会館）出席37名部会長には製造業飯塚政雄、設備業榎本常治を選出◇ステンレスの共同仕入◇請負契約価格のスライド制の実施等協議

2月4日 第1回設備業部会
請負価格のスライド制◇設計料の設定等協議

2月5日 技術委員会
東京ガス（株）より正副課長の出席を要請し、委員会との連絡方・第2回技術講習会の開催等協議

2月8日 第8回理事会（14名）
業種別部会設置規程の制定◇各委員会等の報告をうけてステンレスの共同購入を実施の方向で検討◇白箱冷蔵庫の共同購入他については組合員の意向を尊重◇技術面での東京ガス（株）への協力要請と連携体制の確立◇請負価格の

スライド指導等研究し組合として顧客へ何等かの対策をたてる◇請負契約書を改訂して設計料もその中へ包含する◆部会報告は部会長が役員ではないが理事会へ出席して行なうこと等協議

2月17日 第12回ボーリング大会

2月19日 第2回共同購入委員会 ステンレス材料、白箱冷蔵庫、リンナイ製品の共同購入化等協議

2月20日 第1回供給業部会
正副部会長選出（部会長金田満須治）
◇部会内情報交換の強化◇部会との接触強化等協議

3月12日 第7回過当競争是正委員会
設計料等について協議

3月14日 第2回設備業部会
設計料の料率・内容等協議

3月22日 第1回製造業部会
ステンレス材料の共同購入等についてステンレスメーカーを呼んで協議

3月23日 第2回技術委員会
標準仕様書・基準書の作成等協議

3月27日 第3回共同購入委員会 製造業部会の意向等を受けて、ステンレス材料・白箱冷蔵庫の共同購入化等協議

3月27日 第9回理事会（11名）各委員会部会の報告を受けて、答申事項等協議◇第一次石油ショックの対応策として価格スライドを訴える「勤告」を作成◇厨房機器価格表・公正証書作成用請負契約書の作成◇組合員自宅への火災共済制度発足◇組合にゼロックス複写機導入◇週休2日制、共同購入事業についての実情調査実施◇建設業資格完全取得のため、組合で一括して、13社の申請を代行◇連合会結成・組合間の連携で近畿、東海へ、組合員拡充で群馬を訪問、◇レンジ部品規格を統一し図面を添えて組合員へ配布◇諸資料・文献・外国カタログ等の収集整備

組合員消息●11月3日鈴木啓之氏勲五等瑞宝章叙勲◆日産設備・三和工業・アフターサービス・服部ss・暁厨機・中西ss三栄厨房・ミヤコ厨房・帯金設備・愛豊鉄工・新日本厨機・東洋設備・平井商事の13社加入◆9月20日都中央会表彰式で上野一雄・小越栄治郎・椿良輔の功勞役員と事務局職員として河内泰治表彰 **外部団体動向**●工業会第2回海外調査団の派遣◇4月19日東京都中小企業共済協同組合設立◇5月17日日本食糧機械工業会25周年 **世相**●12月12日政府は石油の緊急事態を宣言・第四次中東戦争・石油ショック◇金大中事件・ハイセイコーブーム・巨人9連覇

●今は亡き 組合の創始期を 支えた人たち

組織を創り、育てていくためには、多くの人達の、献身的な協力があってこそ、その隆盛は保証されます。当組合が現在あるのも、実に多数の方々のお陰であります。ここでは、不幸にも、現職役員で逝去された方々について追悼の意を表しましたが、実は、隠れた方々にこそ、私たちは、深甚なる敬意を表したいと思います。

ご冥福をお祈りいたします。



元副理事長岩倉好松殿

昭和42年4月20日没 66才

組合役員歴

創立時～昭和38年監事

昭和38～42年副理事長

共同受注運営委員・融資委員・経理部担当理事・会館建設常任委員等を歴任し現職副理事長で逝去

◆毎年、元旦には親戚や会社の人達、関係知人等を自宅へ招いて、「岩倉屋」特製のおでんを肴に燗酒を飲みかわしながら、大いに氣勢をあげて正月を祝っていた故人は、また、大変に盆栽等を愛する人でもありました。極寒に弱いといわれるケアキ、ソロ、ブナ、カエデ等の雑木類を好み、それらへの冬囲いの仕事や、水石の手入れを、忙中閑ありで勤しんでおられた故人は、業界の長老・先駆者として、組合員の信頼を一身に受けておられた名副理事長でもありました。そして、組合創始者ともいえる故木村秀吉氏との親交はつとに有名で、組合の名伯楽としてご活躍いただいております。両氏の出会いは、大正13年、岩倉氏が鈴木小松商店におられ、当時、既に独立していた木村氏と仕事上で知己して以来晩年までの43年間、互いに竹馬の友以上の間柄として、好きな酒を飲みかわし、時には議論をし合いながら、営業上のこと業界のこと組合のことを語り合ってきた仲であったといわれます。

「岩さん」「秀さん」と呼び合ってきた仲である木村氏にとって、岩倉氏の訃報は、何にも例えようのない、深い悲しみであったようです。

岩倉氏は現工業会の前身である「全日本厨房機器工業会」の理事長の要職にもあられました。〈合掌〉

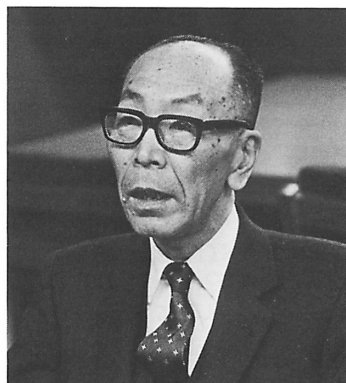


元相談役細山禮吉殿

昭和55年4月3日没 91才

組合役員歴

創立時～昭和38年 理事
昭和38～40年 監事
昭和40～46年 理事
昭和46～55年 相談役
共同受注運営委員、福利厚生施設委員、融資委員、会館建設常任委員、記念誌編纂委員、総務部担当理事等歴任し現職相談役で逝去



元理事・事務局長
手塚信一殿

昭和50年3月10日没 68才

◆釣に勤しみ野球を好み、しかも油絵まで嗜んだ細山翁は、他方で、自分の身体には大変な気の配りようでありました。40歳中頃、40度以上の熱と下痢で肺炎を患い、危篤状態が続いた時に試みた、鰻の油で一命をとりとめて以来、足関節の強化の為にゼラチン性食物を、糖尿症予防の為に南瓜を、それも北海道産のを食するという努力で、業界でも稀有な91歳という定命をまっとうしました。事にあたって精励する者への情は極めて深く、組合も、物心両面にわたって、幾多のご恩恵を拝受しました。卒寿にあたって、業界人こぞっての祝福は、翁の人となりを知るに充分であります。若き経営者には、自からの体験にそった助言を与え、組合の、そして業界の展望を考え、なおかつ自社を業界トップクラスの規模にまで築きあげてきました。この人程、業界人から敬われ、親しまれ、敵のない人は、他にいなかったのではないのでしょうか。組合の役員会に来られ、車馬賃として支給される細やかな金子を、大事そうに、嬉しそうに受けとる翁の顔は、乳子のように純真でありました。しかし、その内に秘めたる飽くなき向上心と、岩の如き自律心は、極めて強く自愛の精神も含めたその終生は、経営者の鑑としていかなくってはなるまい。〈合掌〉

◆酒を無上に愛し、数字に事他強かった手塚さんは、仕事中でも、絶えず頭悩の算盤を虚手を使いながらの弾き通しであった。組合の初代事務局長として、創立時には組合員の勧誘に東西奔走し、また木村さんを代表世話人に説得したのも、氏の熱意であったと聞き及んでいる。事務局長という一種黒子的な舞台裏の仕事だけに、良くいって当り前という損な役まわりでありながら、縁の下の力持ちに徹し、組合の経営基盤を盤石なものとした功績は大きく評価されよう。多忙な役員諸公を代理し、外部団体との交流も隆盛であったために、金融機関や指導機関とのルートも確立できたものと思われる。それらのひとつが、他で類を見ない、事務局長の組合葬という処偶となって現れたのであろう。晩年になっても、瘦身をやや前屈みにした矛和な顔でありながら、時に口角泡を飛ばす激論を辞さない気性は、学生時代、野球で活躍した名残りでもあったろうか。氏の訃報は誠に唐突であった。日曜日の夕刻に突然発作が起り、月曜日の未明にはもう他界という、実に10時間足らずの短かい闘病であった。氏が急逝した3月という月は組合の決算月である。業績を、そして組合のことを絶えず心配し続けていただけに、きっと心残りであったろう。〈合掌〉

発展期●昭和49年度(昭和49年4月～昭和50年3月)

昭和50年3月31日現在／組合員 88社 出資金 3980万円

49年4月3日 第2回供給業部会

他部会の活動状況◇部会内情報交換としてステンレス業界の現況◇鑄造業界の実情等協議

4月18日 第1回理事会(13名)

組合員新規加入◇委員会答申の他、総会開催の必要事項等協議

4月18日 第9回技術委員会

厨房機器標準仕様の設定◇講習会開催等協議

4月19日 邑井操先生の「使う心理使われる心理」と題しての、従業員を対象とした講演会を26日の2日間八洲ビル全連会館で開催◇聴講21社72名

4月25日 東商主催の「新製品開発と特許商標戦略」講演会を上野・松崎知識集約化正副委員長聴講

5月8日 第5回振興委員会

業者名鑑関東版の最終段階等協議

5月8日 第2回理事会(12名)

各委員会からの報告答申事項を協議◇東京ガス(株)より熱源変更に伴う協力要請があり協力方を確認

5月14日 第2回製造設備合同部会(機械振興会館)

過当競争は正のためのダンピング監視等協議◇出席32名

5月21日 第14回通常総会(吉野旅館)

出席79名(93%委任状23)借入限度2億円◇加入金13千円等決議

5月22日 第4回親善ゴルフ大会

6月6日 第10回技術委員会

標準サイズコック◇ユニバーナ◇インストラクション作成等協議

6月11日 第4回共同購入委員会

キャスター・立体炊飯器・冷水器等の新規取扱◇パロマ製品・ステンレス鋼板の共同購入化等協議

6月11日 第3回理事会(12名)

事業計画の推進◇委員会・部会報告◇新規加入等協議

6月13日 第3回供給業部会

他部会動向・組合活動報告◇部会内情報交換として労働条件調査の実施◇他部会との接触として部会名簿の作成等協議

6月15日 第2回技術講習会

22日の2回に渉り東京ガス研修センターで、ガス器具部品の規格化・天然ガス転換時の留意事項等講習◇聴講32社70名◇好評のため10月2・19日に追加開催◇聴講18社40名◇講師はいずれも東京ガス(株)宮崎・川井両副課長と牧内係長

7月2日 第5回知識集約化委員会

関連設備の一括受注◇新製品開発の啓もう等協議

7月4日 第11回技術委員会

7月23日 第4回供給業部会

業者名鑑作成への全面協力◇部会PR用部会員名簿の作成内容等協議

8月9日 第5回共同購入委員会

工作機械・食品加工機械の共同購入化等協議

8月9日 第4回理事会(13名)

各委員会部会からの答申報告◇都中央会表彰式に徳増理事を推挙◇過日NHKで放映された「ロボット登場」が近代的米国病院厨房設備として参考となるので8%にコピーして試写

8月27日 (株)アマダの工場を見学後夏期研修会を湯本の南風荘で開催◇テーマを「避けられないか週休2日制」として賛否両者代表のパネルディスカッション形式とする◇参加者40名◇NHKTVで放映された「ロボット登場」を放映◇併せて、素材とされたアムスコ社のプロセスシステムの説明書を配布

8月28日 第5回親睦ゴルフ大会

9月3日 設備業部会・過当競争是正委員会合同協議会(機械振興会館)出席28名◇厨房設計報酬基準◇適正競争等について協議

9月11日 第12回技術委員会

9月18日 第8回過当競争是正委員会
設計報酬基準◇請負契約書◇諸経費等
について合同協議会を受けて協議

9月18日 第6回共同購入委員会
ステンレスのフォーミングアングル・
調理機等の共同購入化等協議

9月18日 第5回理事会(13名)
工作機械・フォーミングアングルの共
同購入化決議◇設計料報酬基準・修理
代金計算基準等の制定◇ユニコックの
普及◇事務局内諸規程の制定◇「健全
経営確保のための規約」等協議

10月8日 第5回供給業部会
組合活動報告・部会員名簿の内容等協
議

10月15日 第13回技術委員会

10月17日 モデル工場給食設備として㈱
荏原製作所の給食設備を見学◇終了後
「新時代の厨房設備」と題してのセミ
ナーを、坂下欣吾氏を講師に機械振興
会館にて開催◇参加26社52名

10月20日 第11回卓球大会

10月24日 第7回共同購入委員会
工作機械共同購入化の具体案◇トース
トマスター社製品の取扱い等協議

10月24日 第6回理事会(16名)
トーストマスター社製品・ユニコック
の共同購入化決議◇アマダとの契約書
検討◇臨時総会で「健全経営…規約」
の上程◇事務局内諸規程制定委員会(委
員長上野一雄)の設置等決議

11月15日 第1回事務局内諸規程制定委
員会◇以降3月13日まで4回の会合を
重ね組合員会社の参考ともなるよう検
討のうえ制定

11月7日 臨時総会(椿山荘)
出席77名「健全経営を確保するための
規約」決定

11月26日 第14回技術委員会
ユニノズルの燃焼テスト結果◇シンク
の規格化等協議◇終了後東京ガス㈱と
第1回懇談会を「留園」で開催
◇第14回野球大会

12月1日 第13回ボーリング大会

12月4日 第7回理事会(11名)
「共同購入取扱規程」等協議

12月11日 第6回供給業部会

50年1月8日 新年会(椿山荘)出席100名

1月17日 第15回技術委員会
ユニノズルの内径規格化◇ユニノズル
用かん吸器◇ラベル表示等協議

2月13日 第16回技術委員会

2月16日 第14回ボーリング大会

2月18日 第9回共同購入委員会
ユニノズルの共同購入化と協定書の作
成等についてメーカーと協議

2月18日 第8回理事会(16名)
「共同購入取扱規程」制定◇ユニラベ
ルの作成◇労務改善事業の推進等協議

3月1日 第3回設備業部会

3月10日 手塚事務局長急逝に伴う緊
急理事会◇組合葬決定

3月17日 故手塚氏の組合葬を賢宗寺で
執行

3月28日 ユニノズルの使用についての
説明会を東京ガス㈱研修センターで開
催◇参加76社84名
◇組合共同施設建設準備の一環として埋
立都有地の借用法等調査
◇ステンレス鋼板の共同仕入実施
◇中小企業振興事業団で業務用厨房業界
の成長条件の調査を実施
◇「業務用厨房業者名鑑」「ユニバーサル
ノズルの使用にあたって」「バーナとノ
ズル径の対比表」を作成
◇中小企業労務改善集団に指定される

組合員消息●9月26日都中央会の表彰式で功
労役員として徳増久治が表彰◇3月10日手塚
信一氏没(68才)◆東京特殊・中村鑄工・大
伸工業・服部工業・日本エレクター・日本冷
機の6社加入◇佐藤・内田・菊地脱退 **外部**
団体動向●3月18日工業会主催による第3回
全国厨房業者大会を箱根富士屋ホテルで開催
◇3月20日中小企業組合士協会設立 **世相**●
青天のへきれき三木内閣誕生◇狂乱物価◇伊
豆半島沖地震・小野田寛郎・佐藤栄作ノーベ
ル平和賞



発展期●昭和50年度(昭和50年4月～昭和51年3月)

昭和51年3月31日現在／組合員 88社 出資金 4000万円

50年4月20日 第7回振興委員会

4月2日 第1回理事会(14名)

事務局内諸規程制定◇融資規約を改正し相互保証の禁止を決定

4月18日 第18回技術委員会

5月8日 第2回理事会(15名)

自動車・工作機械の代払額には諸経費分を含めない◇河内事務局長を任命

5月21日 第15回通常総会(東京会館)

出席74名(86%委任状14)◇役員改選を行ない熊谷理事長・上野・梅田副理事長他の役員を選出

6月17日 第3回理事会(17名)

事業計画の推進にあたり担当理事の人事選を行ない、過当競争＝鈴木紘正、知識集約＝松崎貴永の他は委員長・部長共に留任◇組合員預り金分の中金配当金は組合員へ返還していく◇増資を呼びかけて預り金の整理◇全国経情事業協同組合連合会へ加入等協議

6月29日 第15回ボーリング大会

7月2日 第19回技術委員会

熱機器、冷機器等の小委員会制度による専門別活動の検討◇シンク槽の寸法統一・レンジのインストラクション等を小委員会で検討◇ユニゾルの検査基準等協議

7月3日 第3回技術講習会(東京ガス研修センター)◇テーマは機器の名称、調理の定義、厨房室の給排気等◇参加27社49名◇講師は東京ガス(株)仲元課長

7月9日 第2回組合員全体会議(機械振興会館)参加34名◇組合理念についての理事長の基調報告◇各委員会の活動報告と委員長の所信表明等

7月16日 第10回共同購入委員会

共同購入事業運営細則案・パイプ型アジャストの新規取扱等協議

7月16日 第4回理事会(14名)

沖縄海洋博視察の組合企画は意向調査のうえ検討◇東南アジア市場調査の検討◇組合員の諸行事への参加意欲の高揚等協議

7月17日 第10回過当競争是正委員会

是正の意向調査内容◇見積書様式の統一化等協議

7月22日 第6回知識集約化委員会

東南アジアの市場性、夏期研修会等新年度活動方針を協議

7月24日 第8回振興委員会

業者名鑑東日本編の発刊よりも関東編に勢力を傾注し内容を充実させる◇情宣広報活動の強化として組合ニュースの発行◇原価意識の高揚等協議

8月7日 第11回過当競争是正委員会

設計料の内容を検討し、外部へPR◇グループ制の詳細◇統一見積調査内容を検討の結果適切と見られるものは30%◇価格表作成等協議◇価格表は原価意識高揚のために標準価格表と積算資料の2種作成することで小委員会を設置

8月27日 夏期研修会(奥湯本)◇参加37名「取引先倒産の法律対策」と題して生田目健造氏の講演会

8月28日 第6回親睦ゴルフ大会

◇第15回野球大会

9月3日 第20回技術委員会

ユニゾルの検査方法、部品の統一、レンジの取扱説明書の作成等協議

9月10日 第12回過当競争是正委員会

価格表の作成については、機器分類を行ない、板金については委員会価格とする等協議

9月19日 第8回知識集約化委員会

9月19日 第11回共同購入委員会

タオルポット(日立製)の新規取扱等協議

9月19日 第5回理事会(14名)

組合のポリシー(施策)について組合員22社を訪問し意見収集し、中間報告◇施策の中心に設備主体業者◇共同購入事業の前向き姿勢として組合商品化◇万能蒸し器を組合商品に認定することで品質の検査を技術委員会へ委託◇東京ガス(株)より天然ガスへの転換に

協力要請があり、説明会開催等積極的に協力していくための転換プロジェクトチーム(リーダー宮本一雄)を設置し委員を選出

10月3日 第4回設備業部会
統一見積調査結果の分析◇協調入札の推進◇統一請負契約書の作成等協議

10月16日 第12回共同購入委員会
幹旋品目と取扱品目とのリスク負担等協議

11月16日 第6回理事会(14名)
共同仕入の幹旋品は原則として中断の方向で担当会社と相談して結論◇組合員に利点のあるものは拡大していく◇組合商品の品質検査は第一段階では問題ない◇委員会の円滑な運営ということで各委員会の性格について等協議

10月25日 第2回事務局連絡協議会を大阪で開催

11月7日 第3回製造設備合同部会
東京ガス(株)転換業務への協力要請の内容・方法等協議

11月11日 臨時総会(椿山荘)
出席75名◇東京ガス(株)からの天然ガス転換協力要請について、細部は理事会に一任するも基本的に協力することで決議◇大松博文氏の講演会「私の歩んだ道」◇第12回従業員表彰式47名◇組合員預り金に対する中金配当金の還元方法について説明

11月18日 第21回技術委員会
オープン寸法の普及方法◇シンクボールについては寸法決定の調査◇組合商品第2段階検査による改良点等協議

11月27日 第13回共同購入委員会
調理器・湯沸器等従来の幹旋品目を正規に取扱品目とする等協議

11月27日 第7回理事会(13名)
組合商品の改良点の改良方を製造会社へ要請◇レンジのインストラクションは現状より相当高度な内容のため員外業者との競争力の関係◇共同仕入幹旋品目のうち希望した製品は取扱っていく◇各委員会の分掌事項の明確化◇組合運営から組合経営ということで、賦課金を改訂しても主行事は無料にして参加の増加を図っていくこと等協議

12月3日 第13回過当競争是正委員会
12月13日 第16回ボーリング大会

51年1月8日 新年会(椿山荘)出席社百名
理事長挨拶で、組合運営論から組合経営論への脱皮を強調

1月27日 第22回技術委員会
ガスレンジの取扱説明書の作成◇銘板の作成等協議

1月29日 第10回振興委員会
労務改善事業の推進◇名鑑掲載広告◇組合商品P R方法等協議

1月29日 第14回共同購入委員会
調理器の新規取扱い◇日立製品の取引条件変更等協議

1月29日 第8回理事会(14名)
転貸事業利用者間による共同保証会制度の研究◇官公需共同受注適格組合申請の是非等協議◇共同保証会制度は基本的に実施の方向◇万能蒸し器を組合商品に正式決定

2月1日 第12回卓球大会
2月10日 第16回ボーリング大会
3月11日 第9回理事会(14名)
共同保証会規約を検討し、組合員に説明の後、保証会発足の方向で決議◇ホルソーの共同購入幹旋◇共同受注運営委員会設置(委員長鈴木紘正)◇共同倉庫の建設等協議

3月19日 第23回技術委員会
3月25日 第7回供給事業部会
◇群馬県へ組合員勧誘
◇供給業部会員名簿 組合規約規程集 請負契約書・ガスラベル・レンジ取扱説明書等刊行
◇近代食堂に組合商品の広告掲載

組合員消息●4月29日長宗重一勲五等瑞宝章叙勲◇日本洗浄機加入◇熊野商事脱退 **外部団体動向**●2月5日工業会主催第4回厨房業者大会を箱根の富士屋で開催◇1月27日東京都中小企業団体中央会20周年 **世相**●クリーン三木のつっぱり◇複合汚染・新幹線博多まで・沖縄海洋博・オカルトブーム

昭和52年 3月31日現在／組合員・90社 出資金・4040万円

51年 4月1日 共同保証会制度の説明会（機械振興会館）参加14名

4月14日 第1回理事会（10名）
共同保証会制度の採用に伴う融資規約の改訂等協議

4月27日 第24回技術委員会

5月8日 第14回過当競争是正委員会
統一仕様見積調査集計結果の検討

5月11日 第2回理事会（12名）
官公需共同受注適格組合証明申請に必要な諸規約・配分基準等協議

5月21日 第16回通常総会（パレスホテル）出席66名（75%委任状19）◇賦課金9千円◇加入金13千円◇融資規約の変更◇官公需適格組合に関する諸規約等決議

5月26日 第25回技術委員会
ユニノズル使用説明書の検討◇共同受注検査委員の選出

6月11日 第9回知識集約化委員会
統一伝票◇退職資源の活用等協議

6月16日 第11回振興委員会
業者名鑑の発刊◇労務改善事業の推進等協議

6月16日 第3回理事会（13名）
統一伝票化は難しいのでとりあえず組合使用伝票の検討◇製氷機のルート化等協議

6月16日 第14回共同購入委員会
新規取扱◇フォーミングアングル 製氷機について等協議

6月24日 第26回技術委員会

ユニノズル検査基準◇部品規格化の合同会議◇バーナの新規開発等協議

7月6日 第4回技術講習会
ガスの性質・燃焼時の諸現象等テーマ◇10月14日の両日開催◇参加延 200名◇講師は東京ガス㈱日馬室長他

7月22日 第10回知識集約化委員会

7月22日 第4回理事会（13名）
組合援助による部品の開拓◇製氷機の流通における組合員商権と共同購入化◇夏期研修会等協議

8月26日 夏期研修会（ホテル奥湯本）
「経済環境の変化に対する中小企業の対応策」と題した講演会◇㈱ソニー厚木工場食堂の見学と武田課長の講話◇「経済環境の変化に対する中小企業の対応策」（尾関守）と題する講演会◇参加39名

8月27日 第6回親睦ゴルフ大会
◇第16回野球大会

9月8日 第27回技術委員会
パイプ製パンラックの技術面の検討◇ユニノズルの開発等協議

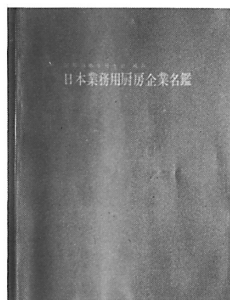
9月17日 第15回過当競争是正委員会
価格表・積算資料の内容等検討

9月21日 第12回振興委員会
名鑑発刊◇組合宣伝◇退職資源活用システム等協議

9月21日 第5回理事会（11名）
積算資料は組合員の正しい原価意識の高揚に有効◇組合商品のカタログ作成と雑誌への広告掲載◇製氷機の流通等協議

9月21日 第15回共同購入委員会
タオルポットの新規取り扱い◇日立製品の取扱条件◇パイプ製パンラックは競合のため不可等協議

10月8日 共同保証会発会式◇参加17名◇村田会長、尾崎副会長を選任



- 10月19日 第16回共同購入委員会
リードバーナの新規取扱い◇ステンレス鋼板の共同購入等協議
- 10月19日 第4回理事会(11名)
リードバーナの共同購入化◇ステンレス鋼板も商権・流通経路を調査して抜本的な前向きに◇組合商品の組合間利用で関西を訪問し両組合共快諾◇連合会も前向きに検討の感触の報告◇雑談の中で適正利潤の確保について意見交換
- 10月21日 第28回技術委員会
シンクボールの寸法統一◇リードバーナの技術面検討
- 11月5日 臨時総会(椿山荘)
出席76名◇委員会活動を中心とした組合活動の中間報告◇高田好胤氏の講演会「母を語る」◇従業員43名の第13回表彰式
- 12月1日 第7回理事会(13名)
新年会開催・新規加入等協議◇倒産組合員の処置方◇事務局職員の中退協加入
- 12月2日 第29回技術委員会
- 52年1月7日 新年会(椿山荘) 約80名
- 1月26日 第17回共同購入委員会
自動車、工作機械の代払条件◇早沸バーナ他の新規取扱◇ステンレス鋼板の共同購入化等協議
- 1月26日 第8回理事会(12名)
自動車・工作機械の取扱金利・代払手数料の改訂◇早沸バーナの取扱決定◇価格表作成は価格改訂の動きが強いので発行を延期
- 2月13日 第12回卓球大会
- 2月16日 第30回技術委員会
ユニノズルの改良型◇インプット拡大等協議
- 3月9日 第18回共同購入委員会
ガス洩れ検知剤の新規取扱◇改造車輛の事業扱等協議
- 3月9日 第9回理事会(13名)
ガス洩れ検知剤は組合員へ紹介のみ◇自動車購入事業取扱のうち改造車輛は本体価格の80%まで適用◇中小企業事業分野調整法については内容検討のうえ業界内の実情調査◇館内の塗装実施◇賛助会費を改訂◇員外購入先も賛助会へ等協議
- 3月18日 第11回知識集約化委員会
分野調整法について協議
- 3月22日 第13回振興委員会
業者名鑑の作成◇事務局連絡協議会◇組合員加入促進◇組合商品の拡販◇退蔵資源活用等協議
- ◇業務用厨房機器積算資料の発刊
- ◇第2回同一仕様書による見積調査の実施
- ◇ガスレンジ取扱説明書・ユニノズル使用説明書等作成
- ◇業務用厨房業者名鑑の発刊
- ◇労務改善事業の実施
- ◇組合商品のカタログ作成
- ◇第2回景気動向調査の実施
- ◇東京ガス(株)転換協力プロジェクトチームを編成し、6回のヒアリングと横須賀、板橋への現地調査を実施
- ◇製氷機に関する組合員商品権確保のためのヒアリングの実施
- ◇退蔵資源活用のための「流通ニュース」の発行
- 組合員消息**●5月11日戸井田キン氏没 ◇8月19日尾崎新治氏没 ◇9月23日村田幸吉氏没91才◇桂精機・藤村SS・植野SSの3社加入◇日本ステン脱退 **外部団体動向**●工業界は建設・通産両省の共同所管となる◇天野公義氏自治大臣就任◇工業会第3回海外調査団派遣 **世相**●黒いピーナツ・灰色高官・ロッキード事件・毛沢東死去・王貞治世界新



発展期●昭和52年度(昭和52年4月～昭和53年3月)

昭和53年3月31日現在／組合員・86社 出資金・3830万円

42年4月6日 中小企業事業分野調整法の施行に伴い、主旨徹底等について知識集約化委員会と各部長が協議◇4月7日第8回供給、4月12日第4回製造設備合同の各部会を開催し、同法立法の精神、業界実情等の説明と情報交換開催

4月8日 第16回過当競争是正委員会 厨房機器積算資料の内容検討◇過当競争是正の手段として委員間交流のためのゴルフ会の開催

4月13日 第1回理事会(16名) 分調法については、総論としては賛成なので実情の調査◇総会提出議案の内容等協議

4月19日 第31回技術委員会 早沸しバーナの組合型◇年間活動の総括等協議

5月12日 第2回理事会(12名) 東京ガス(株)本社屋建設にあたり、厨房設備工事を組合で◇委員会報告等協議

5月18日 第17回過当競争是正委員会 委員間の協調を図っていくためにゴルフ大会を開催し、終了後委員会開催◇今后は話し合いの場を設定する意味から設備業部会と共催で会員へ呼びかけ拡大委員会としていく

5月26日 第17回通常総会(吉池) 出席81名(90%委任状14)賦課金9千円◇加入金13千円決議◇役員改選を行ない熊谷理事長、上野、梅田副理事長他を選任

5月27日 第8回親善ゴルフ大会

6月10日 建設業法の規程により、建設業の認可を受く◇管工事業◇東京都知事許可般—52第47406号

6月14日 第3回理事会(20名) 分調法は業界分野の線引き◇吾々の事業分野保守のために法を活用◇東京ガス(株)との業務提携は分調法との関係もあり積極的に推進

6月28日 共同受注配分希望組合員の順位決定の抽せん会

7月14日 第12回知識集約化委員会

7月20日 第4回理事会(17名)

東京都提供のTV番組に当組合の取材が決定◇当日の理事会風景等を撮影◆東京ガス(株)より保養所の設備を受注◇受注会社の資格に設備士2名以上◇適正価格維持のために3社から見積書◆推奨制度は組合の権威としても実施の方向等協議

7月22日 第5回技術講習会

初心者コース、基礎コース(10月6日、12月13日)を開催◇参加数89社164名◇ガスの性質、燃焼方法等◇講師は東京ガス(株)日馬室長、大郷副課長他

7月26日 第9回供給業部会

8月26日 夏期研修会(ホテル奥場本) アサヒビール工場の見学と内田知二氏の講演「中小企業の賃金・労務」◇参加19名

9月6日 第5回製造設備合同部会(機械振興会館) 共同受注事業の推進◇推奨品ラベル制度◇共同購入事業の発展拡大化◇組合商品流通の活発化◇共同カタログの作成等協議

9月11日 東京都経済局提供、都中央企画によるTV番組「東京の中小企業」が12chで15分間放映◇「システム産業の導入」として当組合が選ばれ、生産現場、顧客先、組合事務所、理事会風景など放映◇理事長談話◇中小企業振興事業団の解説等

9月13日 第33回技術委員会 推奨制度の検査基準要領等協議

9月16日 第13回知識集約化委員会 共同カタログの作成◇厨房機器ローン販売業者との提携等協議

9月20日 第5回理事会(16名)

組合員のメリット◇問題意識の吸上げ◆共受第1号は東泉ssで施工◇事務局に専門職が望ましいが当面は発生主義的に組合員からの協力◇適正価格の維持に貢献するためにも組合の積極的活動◆製氷機の共同購入化を某社と接触中◇実施時の資金手当◆共同カタログは共受用として作成し設備業者へ頒布

◇利用の可能性を見極めて作成

◆第17回野球大会

10月27日 製氷機の流通実情調査実施

10月18日 第14回知識集約化委員会

共同カタログの作成等協議

10月21日 第15回共同購入委員会

取扱状況・製氷機の共同購入化等協議

10月21日 第6回理事会(12名)

委員会報告◇従業員表彰候補者の審査

◇臨時総会開催内容等協議

10月25日 第34回技術委員会

レンジの機体温度上昇テスト結果◇ガス機器の耐震対策◇組合商品の口火安全装置付バーナ等協議

11月1日 中高齢者雇用対策の一環として自衛隊退官者の活用法についての説明会開催◇参加13社◇組合会議室

11月9日 臨時総会(椿山荘)

出席70名◇共同受注事業の配分基準一部変更◇借入限度3億円を決議◆従業員42名の第14回表彰式◆「人間の魅力」と題した鶴巻敏夫氏の講演会

12月2日 第7回理事会(16名)

TV放映で引合いのあった共受物件は不成立◇東京ガス新築合同ビル内の展示場への協力要請◇共受引合いについてはそのニュースソースを調査◆協調のための施策としてのゴルフ大会の成果が見えてきたので次回は麻雀大会◆厨房設備の安全性については慎重に検討◆業務遂行の円滑化を図るために分掌事項の拡散等協議

12月6日 第35回技術委員会

油水分離吸着除去装置◇推奨制度等協議

12月17日 第5回設備業部会

12月18日 第1回将棋大会

53年 1月19日 新年会(椿山荘)

1月26日 第20回過当競争是正委員会

健全経営確保のための情報交換の制度化◇債権保全のための共済制度等協議

1月28日 第15回知識集約化委員会

組合会館内に設計相談室の開設◇共同カタログ◇連鎖倒産防止共済制度等協議

2月8日 第36回技術委員会

2月21日 第16回共同購入委員会

グリスフィルター、断熱材の新規取扱い◇利用許容限度等協議

2月21日 第8回理事会(12名)

業者名鑑は全国版として発刊◆倒防共済制度の独自システムは困難◆共同仕入の利用許容限度を拡大◆役員の指導性として、無益な競争の撤去等協議

3月1日 官公需共同受注適格組合の証明を受く◇53東産商第1545号

3月9日 第15回振興委員会

全国版名鑑の作成◇自衛隊生活体験入隊◇労務改善事業の推進等協議

3月18日 第16回知識集約化委員会

倒産防止共済法等協議

3月28日 第37回技術委員会

◇組合員従業員を対象とした日立製品の社員販売制度発足

◇製氷機の利用状況・意向調査実施

◇共同受注第1号物件「東京ガス(株)仙石原保養所」を施工◇施工会社東京ss

◇協調体制確立のための拡大委員会を4回開催

◇厨房機器火災予防措置の一環としてガスレンジの機体温度上昇試験の結果を工業会経由で東京消防庁へ提出

◇地震時における厨房機器の安全対策の一環として耐震テストを実施

◇第3回景気動向調査の実施

◇中小企業事業分野調整法の施行に伴ない分野確保協議会東京都支部の結成へ副支部長組合として参画

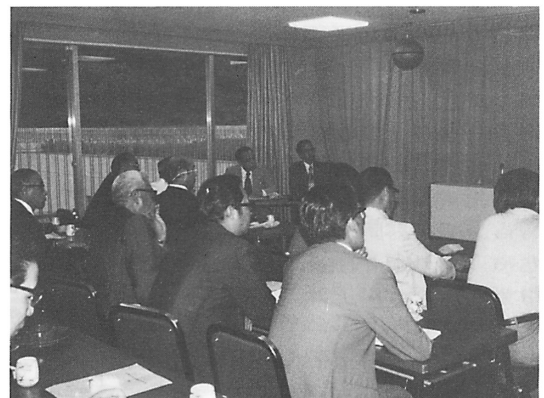
組合員消息●都中央会の表彰式で組合功労役員として荒木唯光、生島四郎、鈴木啓之表彰

◆5月9日宮崎真氏没68才◆木村・三冷社・横山・三陽の4社脱退

外部団体動向●11

月18日東京都火災共済協同組合20周年

世相●円高ドル安◇ルーツばやり・200カイリ問題・独禁法改正・コーラ事件・王貞治国民栄誉賞



発展期●昭和53年度(昭和53年4月～昭和54年3月)

昭和54年3月31日現在／組合員・87社 出資金・3810万円

53年4月13日 第1回理事会(20名)

自衛隊生活体験入隊の実施◇推奨制度の内容◇第二次5ヶ年計画◇分野協都支部への加盟等協議

5月1日 第16回知識集約化委員会

倒産防止共済独自システムの研究他協議

5月10日 第2回理事会(20名)

総会提出議案の内容等協議

5月18日 工業会主催第3回米国視察団の一員として斉野職員渡米

5月24日 第18回通常総会(吉池)

出席64名(74%委任状20)第一次5ヶ年計画報告◇第二次5ヶ年計画◇借入限度3億円◇加入金額13千円等決議

5月25日 第9回親睦ゴルフ大会

6月14日 中小企業倒産防止共済制度の説明会(増田弘)◇参加22名◇商工中金会議室

6月21日 第3回理事会(12名)

市販されている積算資料の影響◇組合員預り金の内容検討◇共受物件の配分会社決定等協議

6月27日 第1回自衛隊生活体験入隊を駒門駐とん地で実施◇3泊4日◇参加8名

7月8日 第17回知識集約化委員会

倒防法の周知徹底◇分野確保◇共同カタログ◇平板メタル◇夏期研修会等協議

7月13日 第16回振興委員会

全国版名鑑の発刊◇情宣広報活動の強化等協議

7月14日 第22回過当競争是正委員会

製氷機流通不順の是正◇価格表の改訂等協議

7月19日 第38回技術委員会

ユニゾルのインプット拡大で利用の増加を図っていく◇組合商品用バーナの変更は技術的には問題ない◇ガスレンジに関する意見書等協議

7月19日 第6回技術講習会(東京ガス研修センター)◇参加49社79名◇テーマは換気設備等の技術基準・器具の安全性・器具の自動化・テスト方法等◇講師は東京ガス(株)日馬室長、大郷副課長

9月6日 夏期研修会(ホテル奥湯本)

参加42社52名◇テーマは「これでいいのか? 厨房業界!!」を主題に「現在の厨房設備はここが間違っている—鈴木力氏」「厨房機器はこうあるべきだ—萩原清造氏」の講演を受けてパネルディスカッション◇パネラーは榎本常治・薦田一馬・鈴木紘正・高木貞安・宮本一雄の各氏

9月13日 第39回技術委員会

部品規格化の一環としてシンクボールの槽規格を4種類設定◇グリスフィルターの品質検査◇推奨制度の内容等協議

9月16日 第18回知識集約化委員会

夏期研修会のアンケートは関連委員会へフィードバック◇倒防法は加入が少ないので再度説明会の開催◇景気動向調査の内容等協議

9月21日 第17回振興委員会

全国名鑑の名称を「日本業務用厨房企業名鑑」と決定◇回収調査票内容の検討◆社員教育等協議

9月24日 第23回過当競争是正委員会

共受事業の進展状況と事業説明会の開催◇価格表の改訂◇拡大委員会の運営方針等協議

9月28日 第17回共同購入委員会

第2回製氷機流通意向調査結果の内容検討◇グリスフィルターの共同購入化等協議

9月28日 第5回理事会(20名)

各委員会報告を受けて、グリスフィルターの共同購入化決定等協議

10月23日 第4回共同受注運営委員会

官公需の入札申請にあたり合算理事会社への受注機会の停止対策等協議

10月24日 第40回技術委員会

推奨制度の大綱等協議

10月27日 第18回振興委員会

全国名鑑の最終確認と記載会社の分析等協議

10月27日 第6回理事会(13名)

官公需共 の推進にあたっては影響のない会社の協力で合算して申請◇従業員表彰は、組合加入1年以上の会社を対象とする◇全国名鑑の掲載内容資料は外部秘とする等協議

◇第18回野球大会

11月1日 共同保証会総会(中金会議室)倒産防止法の説明会と併催◇参加13名◇役員改選をし、会長尾崎和夫

11月9日 臨時総会(椿山荘)出席60名事業の中間報告を中心とし、特に推奨制度について詳細な内容説明

12月3日 第2回将棋大会

12月8日 第41回技術委員会
自動消火装置の共同購入化◇シンクボールの共同購入化への努力◇推奨制度の将来性◇横型冷蔵庫用トップブレードの共同購入化◇鉄管接続資格認定制度の内容等協議

12月9日 第5回共同受注運営委員会
共受事業推進にあたっての事業説明会の開催◇グリスフィルターの共同受注は特定業者との契約等協議

12月9日 第6回設備業部会
共同受注事業の推進を図るために、事業の精神・システム・配分方法等の内容説明会◇参加35名

12月13日 第18回共同購入委員会
横型冷蔵庫用甲板・自動消化装置の共同購入化◇自動車事業の中途一括返済の取扱等協議

12月13日 第7回理事会(13名)
鉄管接続資格制度は移動防止の為会社を止めたら資格喪失◇グリスフィルターの共同受注は当面下請業者を使い、増大時点で再検討◇横型冷蔵庫用甲板・自動消火装置の共同購入化◇自動車事業の中途一括返済時の事務手数料の有料化◇新年会は工業会と共催を総会へ上程等決議◇会館の揺れが話題となり、設計事務所からの検査結果を報告

12月18日 推奨制度のうち「業務用厨房熱機器の推奨制度」を発足させ、組合員へ活用方を通達

54年1月19日 新年会(椿山荘)

2月6日 第42回技術委員会
推奨制度の運用について協議

2月10日 第24回過当競争是正委員会
組合員の協調を図るために、第1回麻雀大会を開催◇参加36名

2月14日 価格表作成小委員会
標準価格表・積算資料の作成にあたり機種分類等協議

2月16日 第8回理事会(14名)
推奨制度の運用にあたり日ガス検の型式検査合格品は机上検査とし検査料不要を決議◇一般消費税についての研究等協議

2月27日 雇用安定・雇用促進のための給付制度説明会(商工中金会議室)参加8名◇講師都職業安定部紹介係西村昌彦係長◇開催に先立ち、スライド「これからの人事考課」を放映

3月8日 第25回過当競争是正委員会
経済調査会発行「積算資料」掲載価格の問題点◇共受事業におけるJ V各社間の流通と組合との流通◇図面作成会社優先権の見直し等協議

3月23日 第43回技術委員会
熱量変更に伴う技術説明会の開催◇オーブン扉の使用状況調査の実施◇推奨ラベルの図案化等協議

3月28日 第9回理事会(17名)
委員会報告◇総会開催内容等協議

3月29日 熱量変更に伴う技術説明会(東京ガス研修所)参加63社 117名◇終了後根岸工場(天然ガス製造工場)見学

◇中小企業倒産防止共済制度の複託団体となる

◇第2回製氷機流通意向調査、第4回景気動向調査実施

◇労務改善事業の実施

◇第1回三組合対抗ゴルフ大会を葛城C Cで開催

◇「日本業務用厨房企業名鑑」の発刊◇発行1000部◇掲載企業 812社1375事業所◇B 5版タイプ印刷264ページ

組合員消息●5月8日秋元時一郎没71才◇11月4日北山候没 ◇1月12日蓑輪一男没

◆都中央会の表彰式で組合功労役員として藤井節三・村田幸一表彰◆コメントカトウ・佐藤鉄工・敬和工業・墨水交易の4社加入◇三和・大和・ヨート一脱退 外部団体動向●5月18日工業会主催第4回米国視察団に斉野派遣◇10月3日工業会主催第5回全国厨房業者大会◇愛知県厨房設備技士協会発足 世相●大平政権◇不確実性の時代・窓際族・全方位外交・成田空港開港・サンシャイン60・日中平和友好条約

変革期

昭和54年度以降

組合20年の歩みは、それなりに輝かしい成果を収めた。困乱・未熟の業界を、とにもかくにも一本にまとめ、あまつさえ、その経緯はともかくとして、全国組織（工業会）まで設立させ、業界協調の第一歩を踏み出した創始期。木村理事長を団長とする総勢16名による欧米視察団の派遣から、業界で初めての組合会館建設という偉大な大事業を成しとげ、協調の基礎固めをした向上期。中期展望のもとに第一次5ヶ年計画を策定し、熊谷理事長の提唱による「繁栄の広場、協調の広場心の広場」をスローガンとして内部組織の確立から、共同受注・組合商品等の主として経済事業の高揚をみた発展期。そして組合はいま、あらたなる飛躍への変革期を迎えようとしている。それは、業界全体が、世代の交代期に直面しているという実情と絡めて、組合自体もまた、一種の過熟期にさしかかってきていることは衆目の感ずるところであろう。

刺激にも邪魔にもならない寄合的組合ではなく、またサロンの雰囲気やの私的意識を始めた時から、脱皮への兆候は芽生えてくる。それはまた、単に過去や現状を非難し否定するところから発生するのではなく、相当部分において、それらを包括した上でのアウヘーベンを希求するものでなければならない。

将来において、理想とする組合像とは如何なるものであるのか、そのためには、何を為さねばならないのか。これから立ち向っていく変革期に課せられた課題は、一貫してポジティブに推めていかねばなるまい。それは10年近くに涉って、組合活動における合言葉としていたところの、5ヶ年計画のスローガンである“繁栄の広場・協調の広場・心の広場”こそ、組合永却のポリシーであろう。大企業

の業界進出は、既成事実化の危険すら大きく膨んできている。業種の混在を、単眼視することで組合活動の障害とするのではなく、日本の三大産業の一角を担うまでに発展伸張したフードサービス業界のよきパートナーとして、厨房産業というグローバルな観点から協調の広場を建設していくことが肝要であろう。総売上高が3千億円にも満たない業界が、陣地争いまいがないことをやっても、所詮はそれだけのことでしかない。業界内の企業間における真の協調こそが、企業の繁栄を保証し、そして企業人同志の断金の契こそが心の広場も可視的なものとするのが可能となろう。未来に馳せるものは、群に依存するが故に、群を裂かれた時は死滅の一途を辿るしかない狼の群ではなく、個でも闘い得る力量と内容をもった熊の集団として生き残れる業界を形成することができたときこそ、組合は、そして業界は、不退転の厨房産業を確立することができよう。その橋頭堡こそが、明日からの組合に課せられ、そして業界から期待されるところの超課題ではなからうか。



第二次 5 ヶ年計画の要旨

事業年度という短期のサイクルで組合の施策を考えるのではなく、5 年という中期のサイクルで、広くは業界発展の展望を策定し、組合を中枢としながら、業界の向上を目指す。“繁栄の広場・協調の広場・心の広場”の基本理念は、私たち、業務用厨房業界の永遠の発展を願うものにとっては避けて通ることのできない命題である。

業界協調心の高揚

自由経済における競争は、適正妥当な限りにおいて保証されなければならない。過大な競争は、適正価格における適正利潤の確保を阻害しひいては企業の存亡にすら影響してくる。妥当と過当の間を漂うのではなく、組合が要となって、業界協調の先鞭としていく。

正札商い思想への移行

業界に対する評価は、自からが散いた種である。叩けば値引く体質の変革は、協調と相呼応して成し遂げねばならない。言葉や精神論等の概念のみから脱皮して、日常活動面で培っていかねばならない。

共同受注事業の推進

大仰に云えば、組合の変革と浮沈を賭けた事業であり、近い将来においては、組合の経済事業の中でも最重要な事業となっていく。事業の根底には企業間協調の精神と密接に係している。

業務用厨房機器推奨制度の確立を活用

当面はガス機器を主たる対象とし、とりあえずガスレンジのマニュアル化を急いでいたが、既に 2 社の製品を検査し、その中 2 製品について組合の推奨をしている。製品への保証、顧客へのサービスということから、対象機器の拡大を図っていく。

厨房機器の機能と安全性の高揚

業界技術水準高揚のために、画一化を恐れずに機能面・安全面を厳重視した標準設計等で、業界を示唆していく。

部品規格統一化の促進

業界で共用できる互換性の高い部品を設定していく事は中小企業本来の機動性発揮にも大きく役立つし、また健全経営への基盤ともしていく。

組合員への技術指導と講習会の開催

東京ガス(株)の大きな協力を得て、技術講習会の恒例化や燃焼部品の検査等を実施。

業界の調査と名鑑の発刊

業界の実情は極めて不透明である。関東篇名鑑で一部把握できたとはいえ、全国的にはまったくの未知である。長期間の調査を経て約2,700ヶ所に調査票を配布し、約1千社を掲載して発刊。

従業員の質的高揚

企業は人なり。業界の顔ともなる従業員を種々の方途を活用して、教育研修の場を設営していく。

全国連合会の結成

業界の組織化を急ぎ、事務局連絡体制を強化して、連合会結成への布石としていく。

組合商品の拡大

組合パテント的意味合いをもつ組合商品の拡販は共同購入事業の終着として、結束の効果も大きい。市場性が高く競合がなく性能の高い組合員の開発製品を期待したい。

事業分野の確保

大企業が新規参入を目論めば、業界などひとたまりもない。受注生産・設計ノウハウという特殊性があっても、防波堤としては弱い。自からの事業分野はまた、自から防衛死守していかななくてはならない。

変革期●昭和54年度(昭和54年4月～昭和55年3月)

昭和55年3月31日現在／組合員・93社 出資金・3890万円

54年4月24日 第44回技術委員会

厨房機器の対震対策実施◇オープン扉の使用寸法◇推奨制度の内容等協議

4月27日 第19回振興委員会

全国企業名鑑の普及等協議

4月27日 第1回理事会(21名)

複託団体として倒産防止制度の推進にあたり定款の変更他総会関連議題を協議

5月11日 第19回通常総会(椿山荘)

出席68名(78%委任状30)倒産防止制度の複託に伴ない定款(事業)の変更◇借入限度3億円・加入金13千円等決議◇役員改選を行ない熊谷理事長、上野・梅田・細山副理事長他の役員を選任

6月19日 第2回理事会(19名)

創立20周年記念事業の実施について振興委員会所管とする◇委員等の人選等協議

6月27日 第20回振興委員会

事務局連絡協議会の拡大に伴う業界団体の調査◇業界任意団体の認可化◇20周年記念事業等運営事項の推進方について協議

6月28日 第45回技術委員会

品質検査体制の確立など事業推進について協議

7月2日 第19回知識集約化委員会

委員会の目的・役割◇他委員会との接触強化◇東京ガス展示場への展示協力等事業推進について協議

7月3日 第2回自衛隊生活体験入隊を陸上自衛隊駒門駐屯地で開催◇参加13名◇6日までの3泊4日

7月13日 第26回過当競争是正委員会

第8回拡大委員会としてゴルフ大会開催後、特別部会費制による設備部会の独自活動◇協調化のためのホットライン化等協議

7月26日 第20回知識集約化委員会

夏期研修会の内容◇共同カタログの作成方針等協議

7月26日 第3回理事会(20名)

組合商品の東京ガス指定化◇20周年記念事業は推進◇夏期研修会は外食産業との関連性◇拡大委員会の推進◇製造業部会での推奨制度の説明等協議

7月27日 第3回事務局連絡協議会

名古屋で開催◇協議会の拡大・定例化◇分野確保への共同声明の起草◇協議

会ニュースの発行等協議

8月24日 第7回技術講習会(東京ガス研修センター)参加46社74名◇内容は器具の給・排気、機器の断熱等◇講師は東京ガス(株)日馬室長・大郷副課長他

8月31日 官公需共同受注第1号として国立東京第二病院へ納品

9月5日 第2回製造業部会(機械振興会館)参加21名◇推奨制度の内容説明を中心に組合の各種事業について協議

9月12日 第4回理事会(16名)

理事長病欠の措置として上野副理事長を理事長代行◇耐震テスト結果から接着材方式を重点◇取材には慎重に等協議

9月20日 第21回知識集約化委員会

東京ガス展示場への出品協力要請への対応として、組合員全員から公募とすること等協議

9月22日 第27回過当競争是正委員会

第9回拡大委員会としてゴルフ大会開催後、業界は外食産業のパートナーたりうるかをテーマに、ホットラインの活用・価格設定時の妥当と過当の分岐点等協議

9月27日 第10回供給業部会

共同カタログの作成にあたり部会としての対応等協議

10月5日 第22回知識集約化委員会

東京ガス展示場出品の公募による応募を礎に協力会社の検討◇共同カタログの作成と併せて、組合員をPRするための企業カタログの作成等協議

10月24日 第17回共同購入委員会

10月24日 第5回理事会(15名)

共同カタログと併せて企業のカatalog作成◇協調体制確立のため建設業界等との接触の研究◇部会活動における小部会制の研究◇共同購入事業の充実化



- ◇新規加入賛助会員◇中小企業等協同組合法施行30周年記念式典挙行への対応等協議
- ◇第19回野球大会
- 11月9日 臨時総会（椿山荘）出席71名
中間事業報告と併せて各委員会からの活動報告◇共同購入事業における組合員の利益追求・製氷機流通における組合員商権確保・適正価格の提供・サロンの組合事情からの脱皮と内部妥協点の模索等の問題について今後とも検討を深めていく◇従業員40名の表彰式◇杉山彦一氏の講演会「生きがいと働き」
- 11月21日 共同保証会
会員会社の不祥時につき、保証方法・会員加入資格等保証会規約の改訂方を協議
- 11月26日 第46回技術委員会
耐震テストの固定方法と費用◇推奨制度運用における有効期間等◇電気機器の技術講習会開催等協議
- 12月5日 第23回知識集約化委員会
共同カタログ作成内容の詳細◇研修会は報道機関・金融機関を講師として外食産業との関連で開催等協議
- 12月11日 第20回共同購入委員会
製氷機の流通正常化◇湯沸器の共同購入化等協議
- 12月11日 第6回理事会（18名）
臨時総会の内容をうけて委員長部会長で組合の基本姿勢・将来への展望等を検討しさらに理事会で協議していく◇湯沸器の共同購入化は暫らく様子を見る◇工業会と共催による新年会の開催◇20周年記念事業計画等協議
- 12月13日 第47回技術委員会
推奨制度運用における細部の検討◇耐震テストの中間報告等協議
- 12月21日 共同保証会総会
正副会長の改選（会長丹羽正男）◇加入条件等規則の改訂◇転貸時期・融資情報の提供等協議
- 12月22日 第7回設備業部会
共同カタログの作成◇共同購入事業の拡充◇部会活動の充実化等協議
- 55年 1月11日 工業会と共催による新年会をホテルニュージャパンで開催
- 1月14日 委員長部会長会議
理事会の要請によって組合の現状分析・組合のあるべき姿・将来の展望等協議し「報告書」として理事会へ具申
- 2月19日 第21回共同購入委員会
取扱機器の価格改定◇湯沸器の共同購入化等協議
- 2月19日 第7回理事会（14名）
委員長・部会長会議「報告書」について、時間の関係でとくに役員選出方法と任期問題について検討◇共同購入事業取扱機器の価格改定は猶予期間を設けるようメーカーへ要請◇湯沸器の共同購入化はメーカーと設備業部会との話し合い◇共同保証会規約の改訂◇転貸時機として保証会保証は年末のみとし益資金は物件担保のみとする◇20周年記念事業は規模を縮小して式典・功労者顕彰・記念誌発刊を行なう等協議
- 2月26日 夏期研修会（郵貯会館）
参加者29社41名◇「80年代における外食産業の展望と業務用厨房業界への影響」◇講師は日経新聞・牧田正一路氏
長信銀・岡田康司氏◇コーディネーター・秋元興一、パネラー・鈴木紘正・宮本一雄
- 3月12日 第11回供給業部会
湯沸器の員外製品共同購入化◇共同カタログ作成への協力体勢等協議
- 3月13日 第48回技術委員会
推奨制度と国家検定との兼合い◇耐震方法の運用◇推奨ラベルの貼付等協議
- 3月21日 第27回過当競争是正委員会
ホットラインの活用◇業界協調と外部大手企業との関係等協議
- 3月27日 第8回理事会（15名）
委員会報告◇総会開催内容等協議
◇事務局連絡協議会拡充のため協議会ニュースの発行
◇国立東京第二病院より官公需共同受注
◇施工は東洋設備
◇東京ガス新宿合同ビルの共同受注
◇第2回組合対抗ゴルフ大会を開催
◇東京ガス新宿合同ビル展示場へ組合員17社の協力でレストランコーナーを展示
◇湯沸器利用状況調査の実施
◇ビル防災の耐震対策として東京ガス・工業会との三者協力でガスレンジとフライヤーの固定法についての実験を行なう
◇東京都商工指導所が業界診断をし「業種別診断勧告書」を発行
- 組合員消息●7月26日梅田勝徳建設大臣表彰◇都中央会の表彰式で功労役員として岩崎実表彰◇11月3日遠山茂吉没82才◇5月14日中里栄造没 ◇クレヴァー厨設・富士厨房サービス・サンウェーブ機材・富士エンゼル・星電商事・イトヤ・カジワラエンタープライズの7社加入◇小林脱退◇キクチ工販・倉橋商事賛助会加入 外部団体動向●工業会主催第5回海外調査団派遣◇10月22日東京都官公需適格組合受注確保協議会発足 世相●ウサギ小屋と省エネ・カラ出張・口裂け女・東京サミット・日本坂トンネル火災・KDD事件

変革期●昭和55年度(昭和55年4月～昭和56年3月)

昭和56年3月31日現在／組合員・91社 出資金・3960万円

55年4月10日 第24回知識集約化委員会

新年度委員会活動の推進として、共同カタログの基本デザイン◇展示場の活用等協議

4月14日 共同カタログの作成にあたり組合員製造業者への説明会（郵便貯金会館）◇参加24社25名

引き続き5月1日に組合員設備業者へ活用方の説明会◇参加11社

4月15日 20周年記念事業の一環である記念誌出版小委員会（委員長細山喜三郎）を開催◇出版にあたっての基本方針等協議

4月15日 第49回技術委員会
推奨制度の運用◇燃焼面から見た構造指針に関する講習会の開催◇緊急遮断弁の扱い等協議

4月22日 技術講習会◇東京ガス(株)新宿ビル会議室◇業務用器具の調整・修理・手入れを考慮した構造についてがテーマ◇講師は東京ガス(株)大郷副課長◇参加49社80名

5月1日 東京ガス(株)新宿合同ビル2階展示場のレストランコーナーに組合として出品するにあたり、協力組合員への説明会

5月8日 第1回理事会（18名）
総会関連議案協議の他、委員会報告等協議

5月20日 第25回知識集約化委員会
共同カタログ作成の詳細について正副委員長会議

5月28日 第20回通常総会（ホテル奥湯本）◇出席84名（90%委任状31）◇法定の総会決議事項を決議◇先般来理事会で検討していた「報告書」について討論し、組合員内の企業間規模較差問題を超越して協調体制を確立していくことと併せて、組合員の意向調査を実施する事等を申合す

5月29日 第10回親睦ゴルフ大会

6月26日 第3回自衛隊生活体験入隊◇陸上自衛隊駒門駐屯地◇3泊4日◇参加5社17名

7月4日 第22回共同購入委員会
自動消火装置の取扱◇少量取扱品目の見直し◇事業の拡充等協議

◇20周年記念第20回野球大会

7月9日 第21回振興委員会

組合商品改良型の価格設定◇20周年記念式典の日時・内容等検討

7月9日 第2回理事会（15名）

記念式典は12月4日◇功勞役員表彰◇記念誌の基本構想◇「報告書」の内容◇「組合員意向調査」の内容等協議

7月28日 研修会（郵便貯金会館）◇東京都商工指導所がまとめた「業種別診断報告書」の説明会◇参加26社31名

8月12日 第50回技術委員会
強化ゴムホースの利用◇電磁弁等感震装置◇銘板等の貼付状況等協議

8月22日 東京都立工業技術センター見学会◇参加15社18名

8月26日 第8回技術講習会（東京ガス(株)燃焼技術開発センター）◇テーマは昨年同様の他簡易試験用機材・超高層建物のガス設備等◇参加42社92名◇28日の2日間◇講師は東京ガス(株)大郷副課長

9月12日 第28回過当競争是正委員会
拡大委員会として開催◇ホットラインの活用◇拡大委員会の定例化◇大手電機メーカーの業界新規参入等検討

9月17日 建設省から発表される「建築設備耐震設計施工指針」について東京ガス(株)影井課長より、技術委員会と工業会防災委員会の合同で内容説明会

9月19日 第3回理事会（19名）
各委員会報告の他、「報告書」の役員改選問題等について協議◇記念誌出版用の役員顔写真の撮影◇鈴木相談役・宮本社長出席



- 10月2日 第23回振興委員会
記念式典準備小委員会として招待者・
式典当日の日程・記念品の選定等協議
- 10月28日 中小企業退職金共済法・中小
企業倒産防止共済法の改正点説明会(商
工中金会議室)◇参加12名
- 11月6日 人材養成事業の一環として、
工作機械メーカーの(株)アマダの見学会
と講習会◇参加10名
- 11月7日 第11回親睦ゴルフ大会
- 11月12日 第4回理事会(16名)
従業員被表彰者◇新年会を中止し名刺
交換会◇記念式典の詳細等決議

12月4日 創立20周年記念式典

- 12月9日 第51回技術委員会
振動実験・燃焼状態実験の結果等協議
◇東京ガス(株)と恒例の懇親会
- 56年1月7日 新年名刺交換会(会議室)◇
参加約60名
- 1月28日 耐震対策として自主的に実施
している震動実験を、関係官庁を混え
て実施
- 1月30日 第29回過当競争是正委員会
拡大委員会として開催◇月例化は隔月
例会で開催◇委員会の方向性等検討
- 2月6日 第5回理事会(17名)
各委員会及び記念式典の報告◇組合員
意向調査結果を検討し、役員選出方法
等協議
- 2月24日 人材養成事業の一環として、
後継者問題を共に考える座談会◇会議
室◇講師は森和夫氏
- 3月10日 特定地下街におけるガス接続
工事の資材として強化ガスホースの使
用方法についての講習会◇16~17日の
延3日間◇受講者55社235名
- 3月13日 第30回過当競争是正委員会
第2回定例拡大委として開催(会議室)
◇昨今の業界実情◇松下電器の業界進
出等討論
- 3月27日 第6回理事会(16名)
委員会報告や総会開催内容等協議◇松
下他の業界進出に抗議するための行動
を起すことを決定◇総会決議として広
くPRする事等決議
- ◇東京都商工指導所の「業種別診断勧告
書」を配布
- ◇人材養成事業の推進
- ◇共同カタログの作成
- ◇業界外企業である大手電機メーカーの
業界新規参入阻止の決議

組合員消息●4月3日細山礼吉没92才◇7月
25日落合完二没92才◇11月17日五十里元秋没
◇1月25日村田幸一没 ◆ミヤコ厨房
・ワシオ厨理脱退 外部団体動向●9月
18日都適確協主催官公需問題研究会◆5月18
日工業会主催第6回海外調査団の派遣◇10月
7日第6回全国厨房業者大会(ホテル紅葉)
◆10月17日近厨会館竣工 世相●大平首
相急死◇鈴木内閣◇政界ハプニングの連続◆
カラスの勝手でしょう



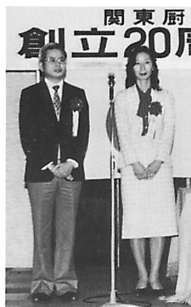
創立20周年記念式典

ご来賓各位の会場入場風景





商工中金より感謝状の授与



左 東京通産局高橋課長
右 通産省日用品課
坂本課長



商工中金
山口支店長



東京ガス
杉浦部長



功労者顕彰を受けた人たち



現職役員の紹介 (昭和56年3月31日現在)



副理事長上野一雄
上野製作所社長



理事長熊谷俊男
富士厨房社長



副理事長細山喜三郎
細山熱器副社長



理事秋元興一
秋元調理社長



理事岩崎 実
戸井田製作所社長



理事内山義一郎
内山製作所社長



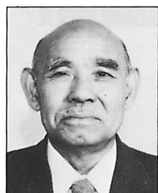
理事梅田勝徳
日本調理社長



理事江口次男
東京製作所社長



理事榎本常治
オリオン設備社長



理事小越栄治郎
小越製作所社長



理事尾崎和夫
尾崎製作所社長



理事河内泰治
組合事務局長



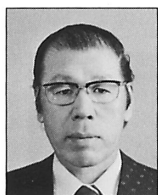
理事鈴木紘正
鈴木商行社長



理事出川義則
クマノ厨房社長



理事徳増久治
徳久製作所社長



理事永井富造
永富機械社長



理事二階堂博史
東洋設備社長



理事深沢信生
三栄厨房社長



理事藤井節三
浜親鑄造取締役



理事宮本一雄
宮本製作所専務



理事村田幸一
村幸ステン社長
S56.1.25逝去



監事飯塚政雄
飯塚鉄工所社長



監事采沢賢一
クレヴァ電機社長



監事丹羽正男
東京設備社長



相談役鈴木啓之
鈴木商行会長

資料編

1. 歴代役員の変遷
2. 組合員数・資本金推移
3. 経済事業推移
4. その他

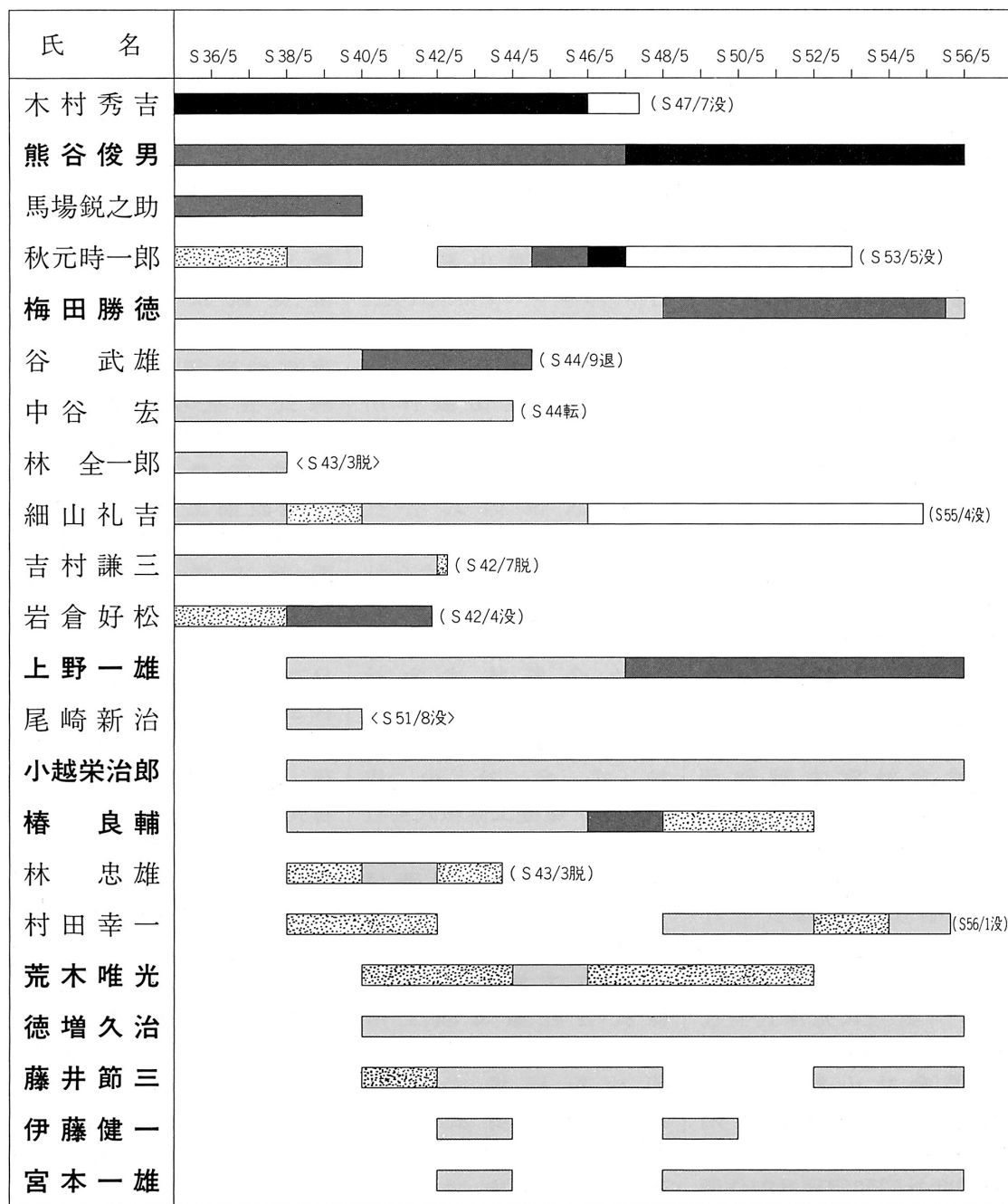
組合員会社一覧表 〈加入順,ゴシック体は現組合員〉

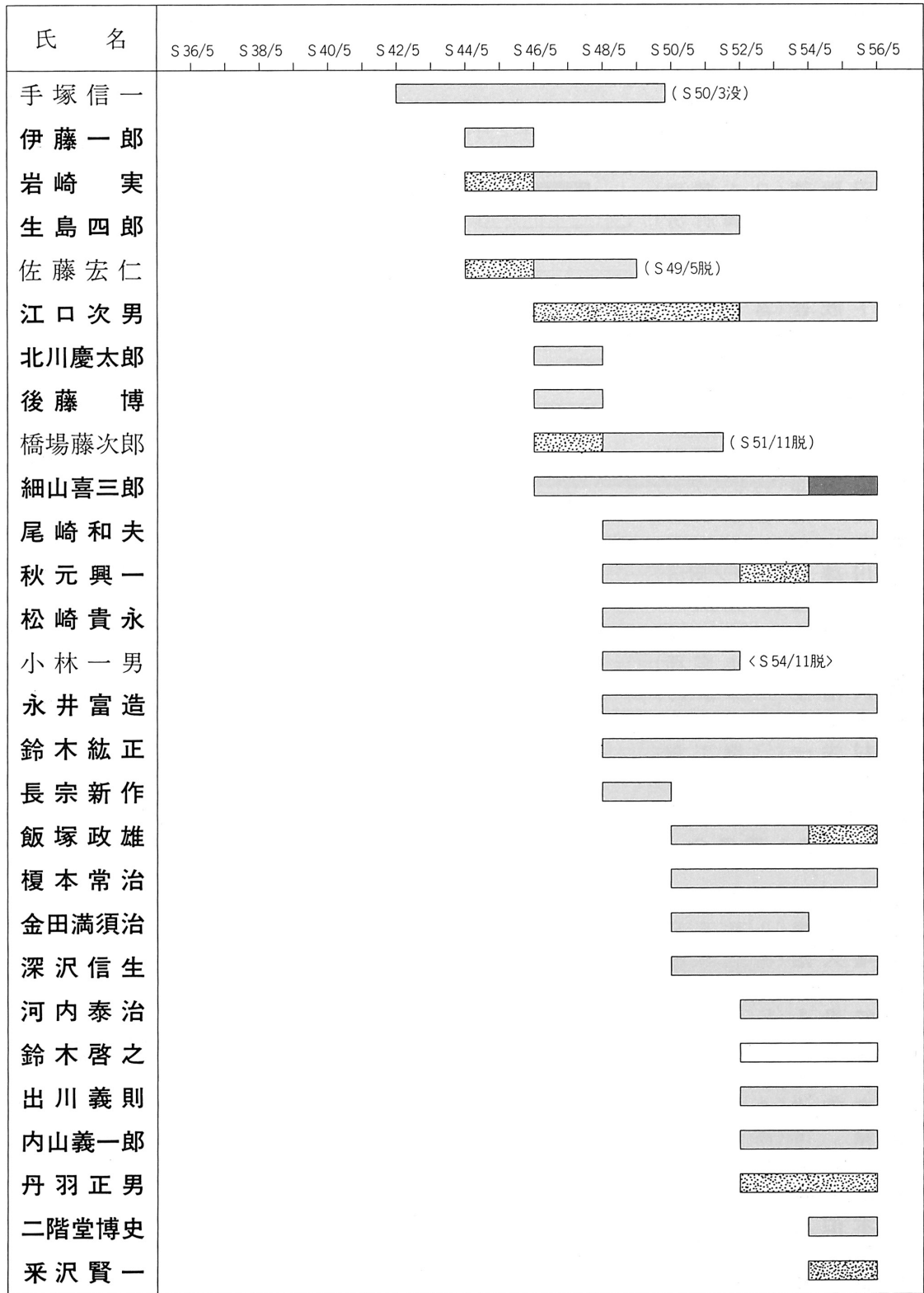
秋元調理機器株式会社 イカリ工業株式会社 株式会社伊藤厨房※ 株式会社上野製作所※ 株式会社尾崎製作所 株式会社木村製作所 有限会社佐藤鉄工所※ 三陽工業有限会社※ 株式会社鈴木商行 竹村総合設備株式会社※ 第一厨房工業株式会社 千代田設備工業株式会社 株式会社椿厨房具製作所 東郷厨房機器株式会社※ 株式会社東泉製作所 株式会社徳久製作所 有限会社中村製作所 永富機械工業株式会社※ 日本調理機株式会社※ ヨートー株式会社※ 林田商事株式会社※ 林工業株式会社 株式会社福本製作所 富士厨房設備株式会社 細山熱器株式会社 株式会社松崎製作所 株式会社宮本製作所 村幸ステンレス工業株式会社 株式会社森井厨機製作所 八洲電機株式会社 吉村厨房工業株式会社 ワシオ厨理工業株式会社※ 高砂厨房工業株式会社 アサヒ厨機販売株式会社 株式会社小林製作所 有限会社小越製作所 株式会社萩原製作所 エバホット工業株式会社 有限会社昭和調理器製作所	株式会社戸井田製作所 北英熱器株式会社 株式会社松下製作所 浜親鑄造株式会社 三ツ星厨房器具株式会社 リンナイ株式会社※ 株式会社内山製作所 株式会社東京三冷社 日本調理機設備株式会社※ 株式会社内田製作所 株式会社北川製作所 株式会社遠山製作所 日本ステンレス工業株式会社 株式会社加藤製作所 株式会社横山製作所 株式会社北山製作所 トキワ工業株式会社 小川製作所 日建設備株式会社 熊野商事株式会社 巽瓦斯器具工業株式会社 二葉工業株式会社 株式会社松島製作所 井上金属株式会社 東京管材株式会社 株式会社長岡製作所 株式会社中里 クレヴァ電機工業株式会社 桐山工業株式会社※ 株式会社五加調理器 東京設備株式会社 大和ステンレス鋼業株式会社 ダイワ工業株式会社 株式会社飯塚鉄工所 クマノ厨房工業株式会社 菊地厨機株式会社 東栄厨房株式会社 株式会社イースタン商会 谷口工業株式会社	日本ユニフロー販売株式会社 オリオン設備工業株式会社 清和厨房株式会社 アフターサービス設備工業株式会社 三和工業株式会社 長堀車輛製造株式会社 日産設備株式会社 三栄厨房株式会社 暁厨機株式会社 東洋設備工業株式会社 ミヤコ厨房株式会社 新日本厨機株式会社 愛豊鉄工株式会社 平井商事株式会社 東京特殊鋼材株式会社 株式会社中西製作所 株式会社服部製作所 大伸工業株式会社 帯金設備工業株式会社 日本エレクトーシェルフ株式会社 服部工業株式会社 東京星崎株式会社※ 有限会社中村鑄工所 日本洗浄機株式会社 株式会社桂精機製作所 有限会社植野製作所 藤村製作所 株式会社コメットカトウ※ 株式会社佐藤鉄工所 有限会社敬和工業 墨水交易株式会社 クレヴァ厨設株式会社 富士厨房サービス株式会社 サンウェーブ機材株式会社 富士エンゼル株式会社 星電商事株式会社 イトヤ株式会社 カジワラエンタープライズ株式会社
--	--	--

注：会社名末尾に※印のある会社は加入時以降名称に変更のあった会社

歴代役員の変遷 (就任順)

理事長
 副理事長
 理事
 監事
 相談役

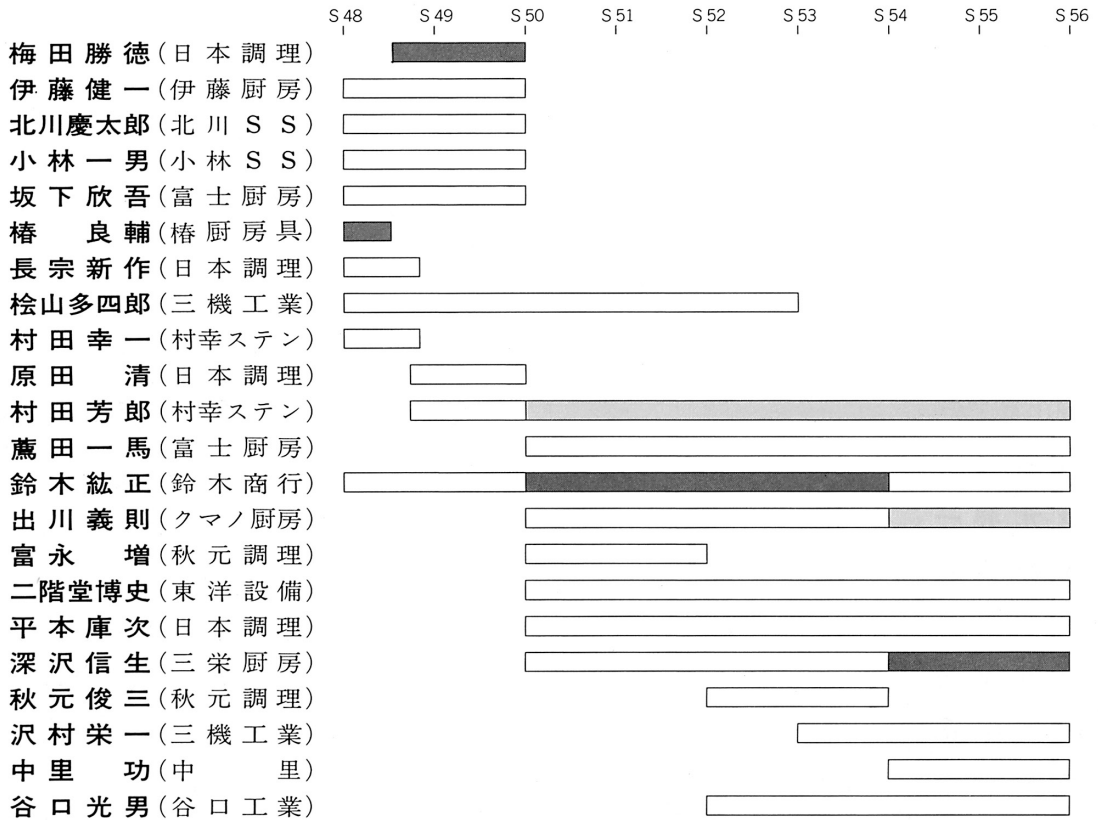




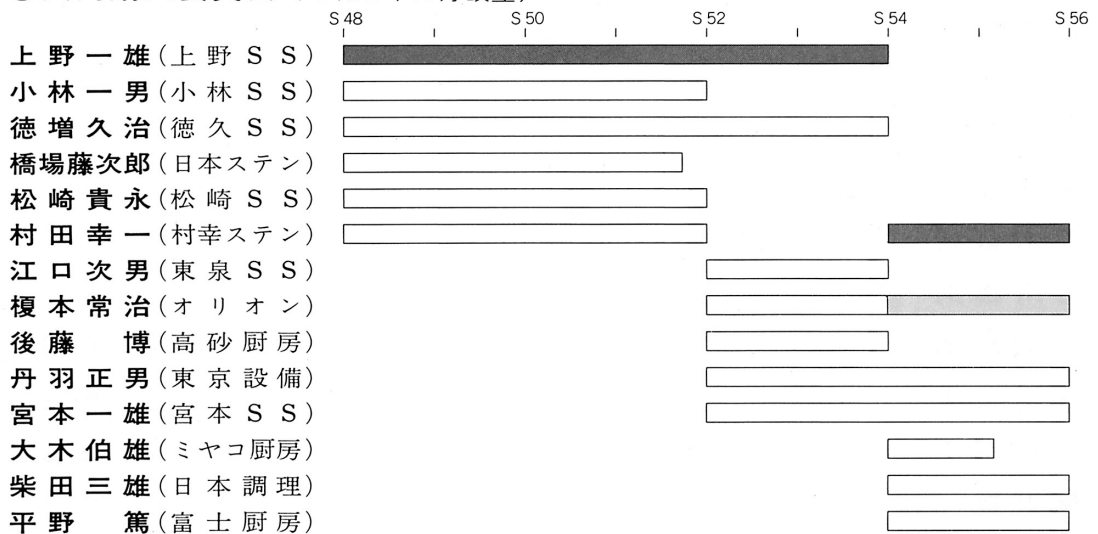
各委員会委員就任状況一覧表

委員長
 副委員長
 委員

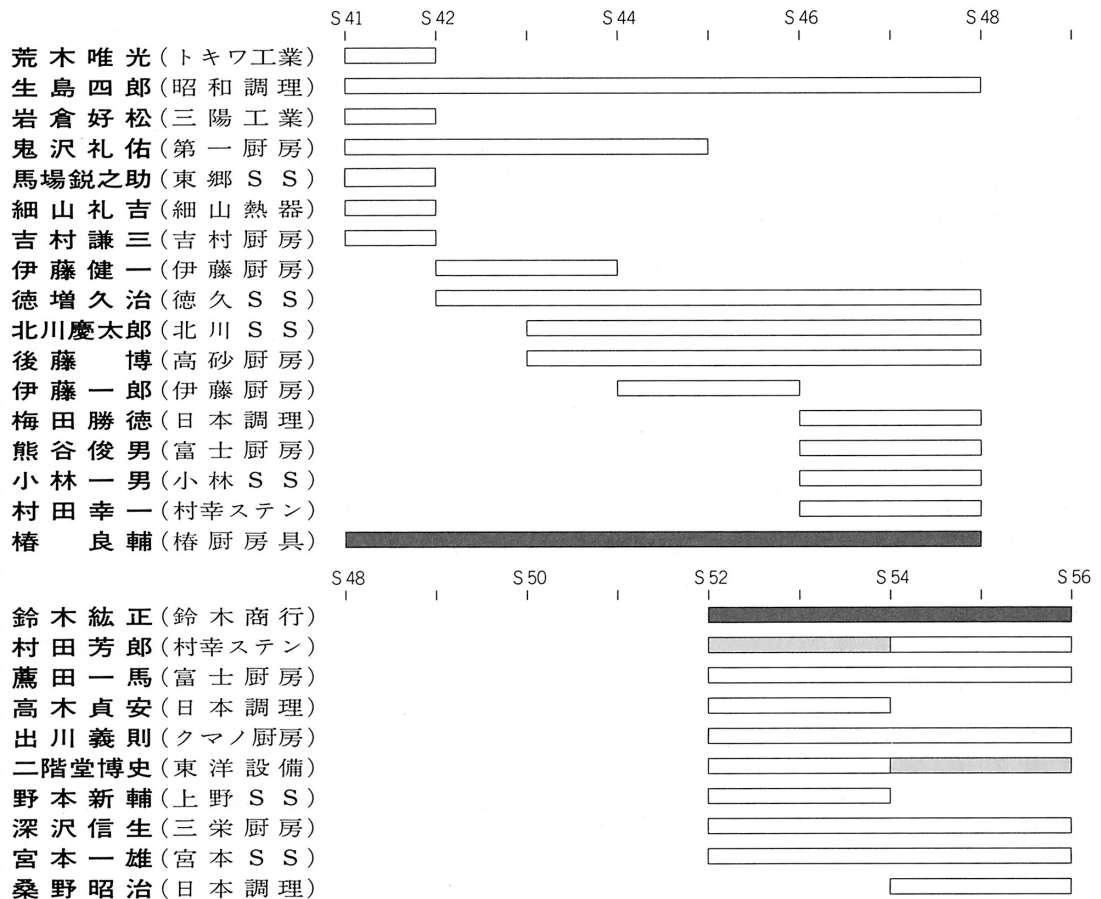
●過当競争是正委員会（昭和48年2月設立）



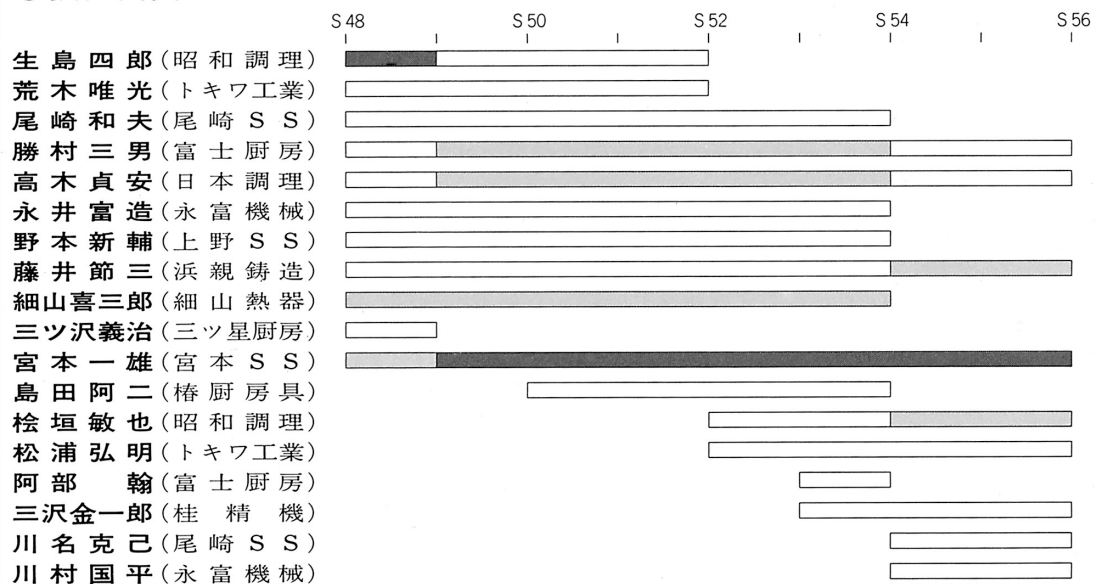
●共同購入委員会（昭和48年10月設立）



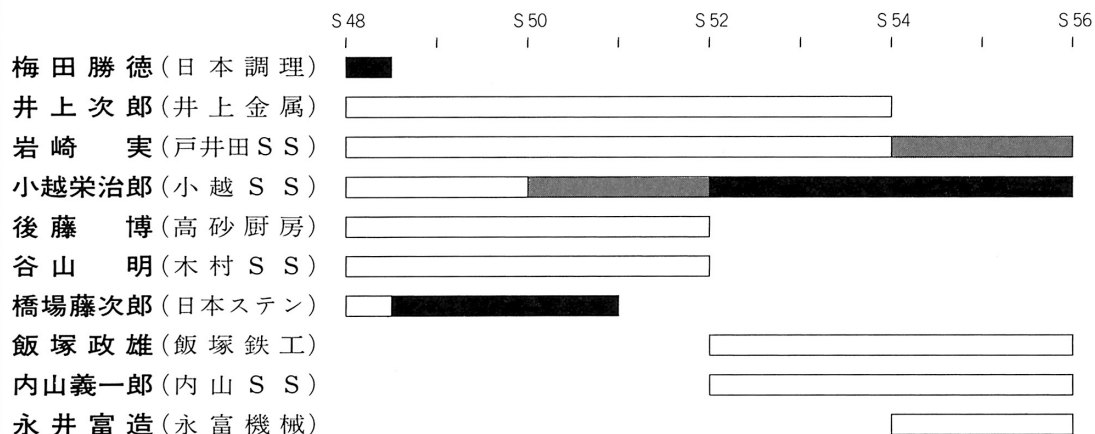
●共同受注運営委員会（昭和41年設立、昭和48年解散、昭和52年5月再設）



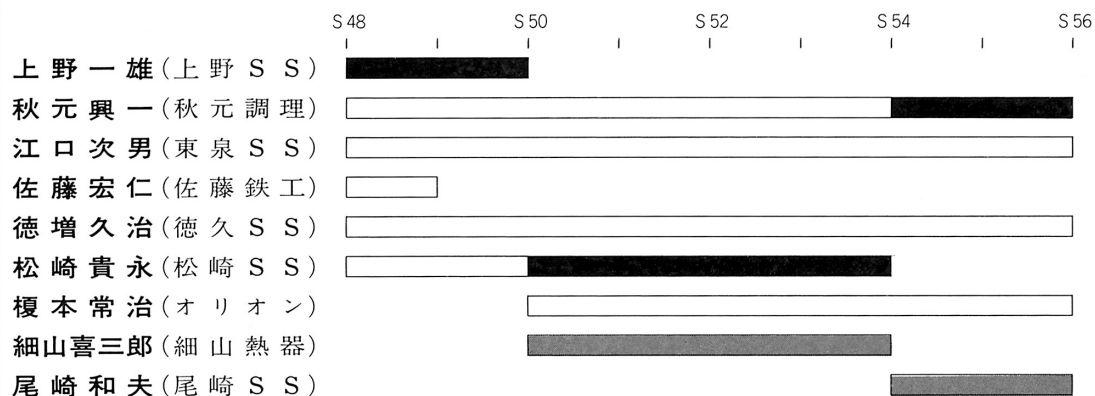
●技術委員会（昭和48年2月設立）



●振興委員会（昭和48年2月設立）



●知識集約化委員会（昭和48年2月設立）



●**標準化委員会**（昭和42年設立 昭和46年解散）

秋元時一郎 伊藤健一 鬼沢礼佑 熊谷俊男 椿良輔 中谷宏
長宗重一 宮本一雄 村田幸一 梅田勝徳 伊藤一郎

●**関厨厚生会館建設委員会**（昭和42年設立 昭和43年解散）

●**関厨福利厚生施設委員会**（昭和43年設立 昭和44年解散）

木村秀吉 秋元時一郎 荒木唯光 五十里元秋 生島四郎 伊藤健一
岩崎実 梅田勝徳 尾崎新治 鬼沢礼佑 熊谷俊男 鈴木啓之
谷武雄 椿良輔 手塚信一 馬場鋭之助 細山礼吉 宮本一雄

●**融資委員会**（昭和40年設立 昭和43年解散）

木村秀吉 岩倉好松 梅田勝徳 小越栄治郎 熊谷俊男 谷武雄
椿良輔 中谷宏 馬場鋭之助 細山礼吉 吉村謙三

●**10周年記念誌編纂委員会**（昭和45年設立 昭和50年解散）

秋元時一郎 生島四郎 石塚博之 木村秀吉 鈴木啓之 徳増久治
馬場鋭之助 細山礼吉 松崎貴永

●**技術部委員会**（昭和38年設立解散）

梅田勝徳 上野一雄 坂下欣吾 島田阿二
清水百喜 藤井節三 三ッ沢義治 宮本一雄

●**東京ガス転換事業対策プロジェクトチーム**（昭和50年設立）

宮本一雄 海野利男 勝村三男 高木貞安 野本新輔

●**事務局諸規程制定委員会**（昭和49年設立同年制定につき解散）

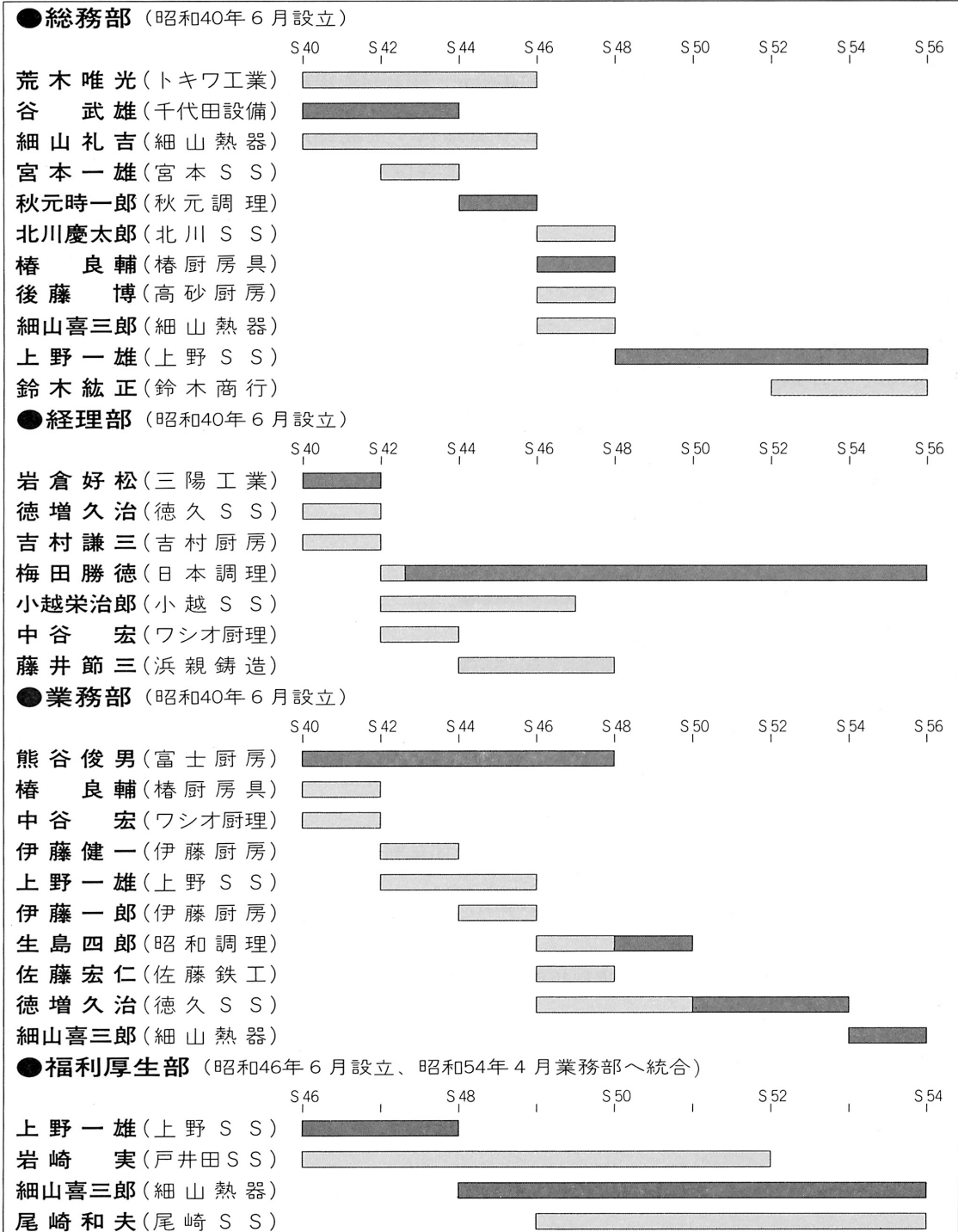
上野一雄 秋元興一 榎本常治 鈴木紘正 細山喜三郎

●**土曜学校運営小委員会**（昭和45年設立 昭和46年解散）

秋元時一郎 生島四郎 佐藤宏仁 徳増久治 細山喜三郎

●常設部会担当理事・業種別部会役員就任状況一覧表

■ 部(会)長 □ 副部(会)長



●技術部（昭40～42）

上野一雄 梅田勝徳 村田幸一

●教育厚生部（昭42～46）

42～44 秋元時一郎 藤井節三

44～46 秋元時一郎 徳増久治

●渉外部（昭40～43）

40～42 小越栄治郎 谷武雄 藤井節三

42～43 椿良輔 徳増久治 吉村謙三

●共同受注部（昭43～46）

43～44 椿良輔 徳増久治

44～46 椿良輔 生島四郎

●業種別部会（昭和49年組織化）

●設備業部会

	S50	S52	S54	S56
榎本常治(オリオン)				
長田清治(熊野商事)				
渡辺通(イースタン)				
亀岡瞭(清和厨房)				
二階堂博史(東洋設備)				
後藤博(高砂厨房)				

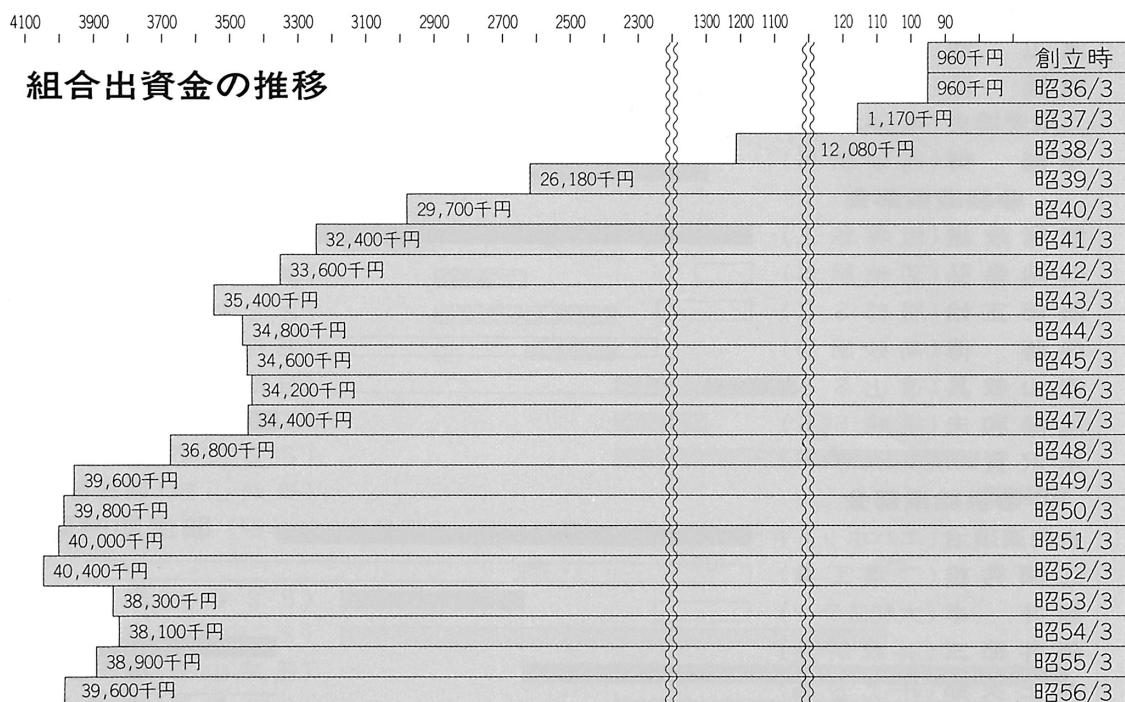
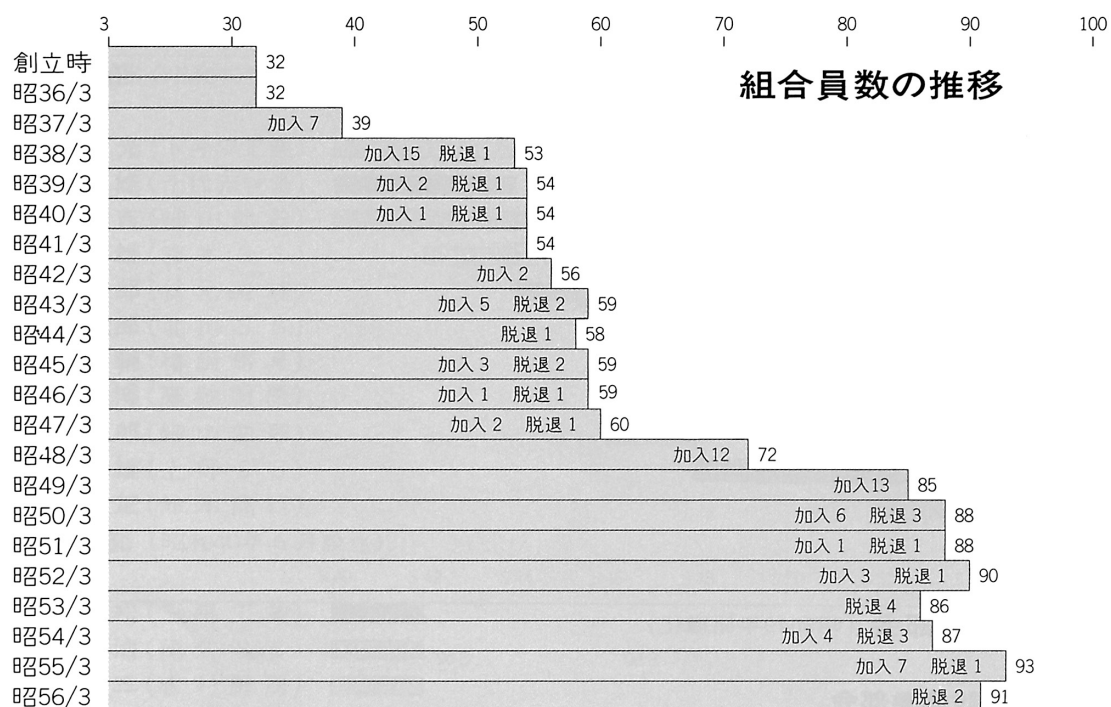
●製造業部会

飯塚政雄(飯塚鉄工)				
菊地幸弘(菊地厨器)				
服部正始(服部SS)				
後藤博(高砂厨房)				
遠山叔具(遠山SS)				
尾崎和夫(尾崎SS)				
采沢賢一(クレヴァ)				

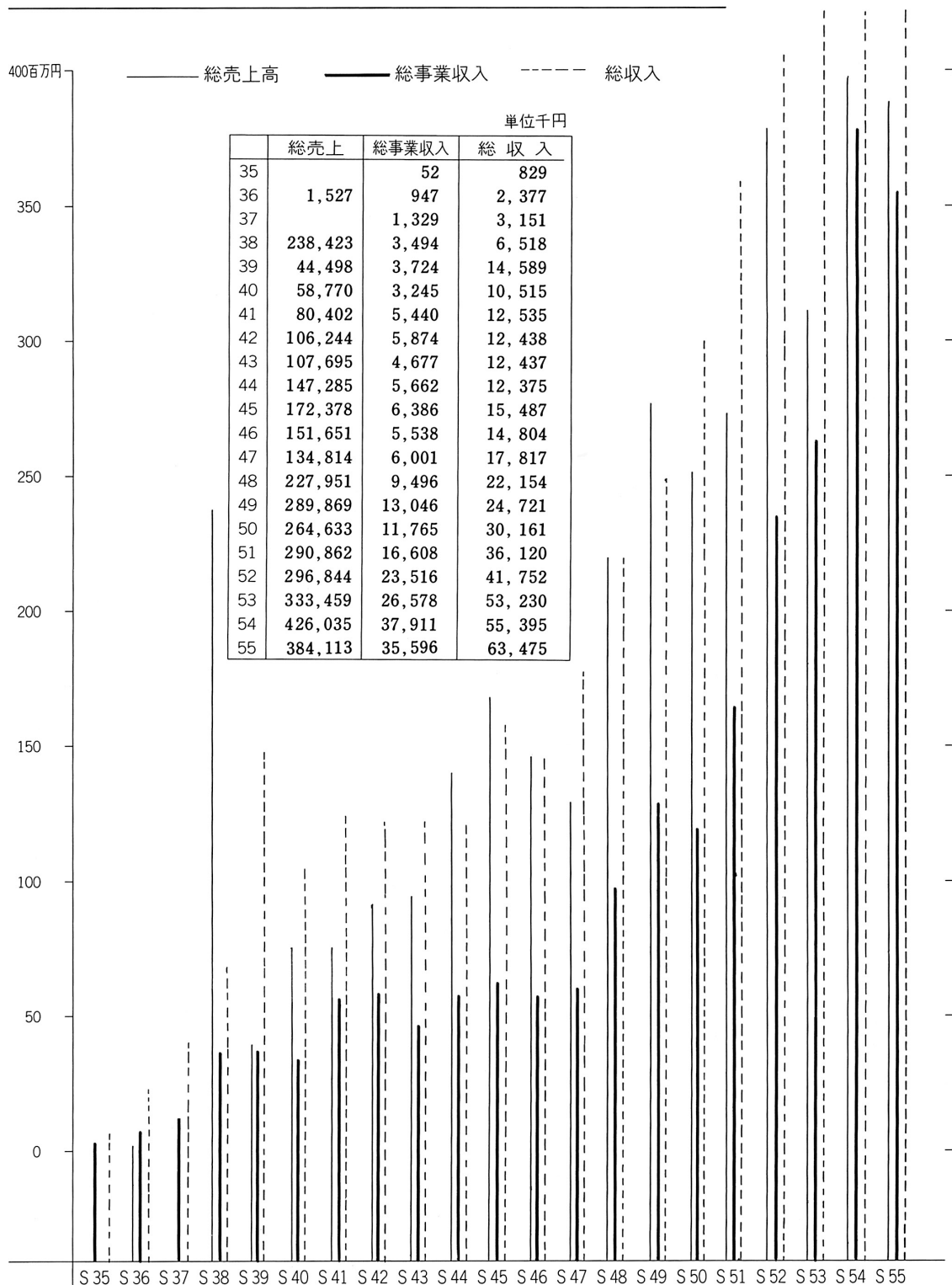
●供給業部会

金田満須治(エバホット)				
江頭秀雄(二葉工業)				
諸井卓(大和ステン)				
藤井節三(浜親鑄造)				
井上次郎(井上金属)				

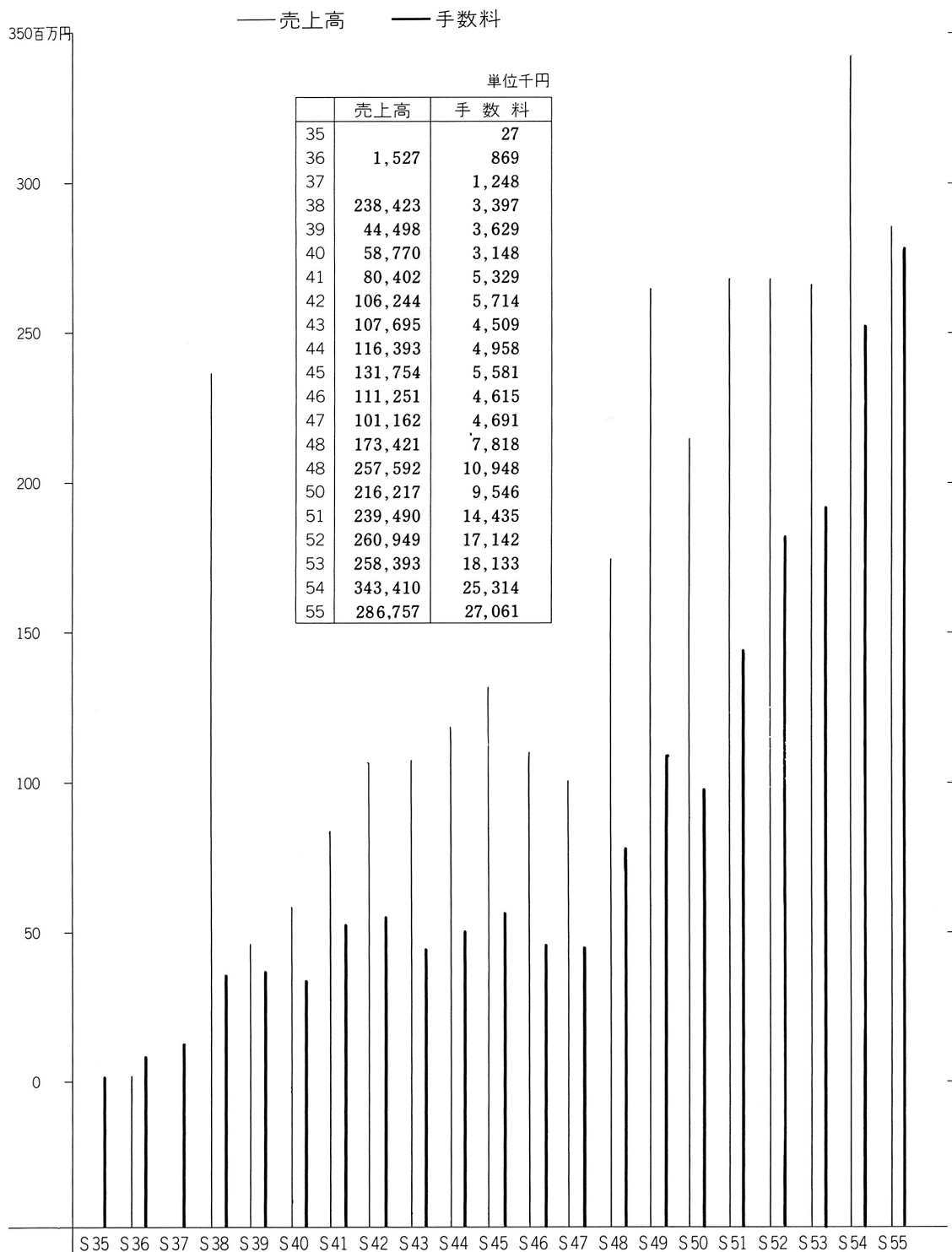
組合員数・出資金の年度別推移



各種経済事業の総売上高・総収入・総事業収入の推移



共同購入事業の売上高と手数料の推移



自動車・工作機械・損害保険事業の推移

●損害保険

単位千円

年度	件数	保険金額(万)	手数料
35			25
36			73
37	48	16,800	81
38	51	21,400	97
39	46	27,500	95
40	48	36,500	97
41	49	31,900	111
42	36	39,900	160
43	38	36,200	168
44	52	79,100	282
45	58	100,000	297
46	72	140,000	380
47	92	250,000	485
48	102	220,000	619
49	123	370,000	870
50	116	400,000	1,057
51	123	420,000	1,157
52	112	710,000	1,211
53	111	791,000	1,228
54	103	1,347,000	1,522
55	94	95,8000	1,263

●自動車・工作機械

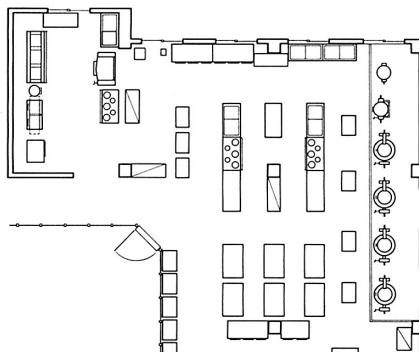
単位千円

年 度	自 動 車			工 作 機 械		
	台数	代払高	手数料	台数	代払高	手数料
44	54	30,892	410			
45	68	40,624	500			
46	65	40,406	485			
47	54	33,652	395			
48	79	54,530	660			
49	43	32,277	360			
50	66	48,416	575	1	870	22
51	49	51,372	439	—	—	—
52	43	35,859	419	1	1,600	41
53	55	63,175	696	1	1,380	31
54	34	32,860	397	1	4,250	106
55	27	25,263	305	1	2,150	49

共同受注事業の実績

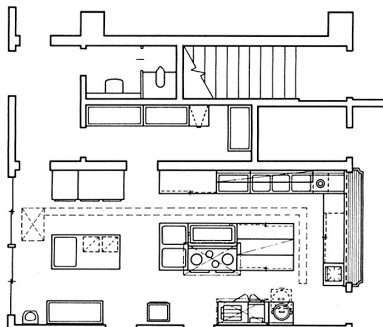
●国立東京第二病院

所在地 目黒区東ヶ丘
施工期 昭和54年 8 月
施工額 12,750千円
施工社 東洋設備
愛豊鉄工
日本調理



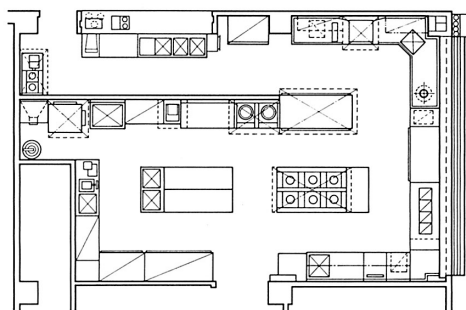
●東京ガス(株)仙石原寮

所在地 神奈川県箱根町
施工期 昭和53年 3 月
施工額 4,080千円
施工社 東泉SS



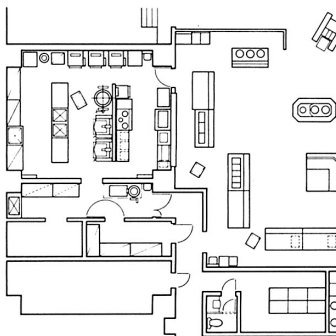
●東京ガス(株)総合体育館

所在地 横浜市金沢区
施工期 昭和54年 3 月
施工額 12,500千円
施工社 富士厨房
三栄厨房



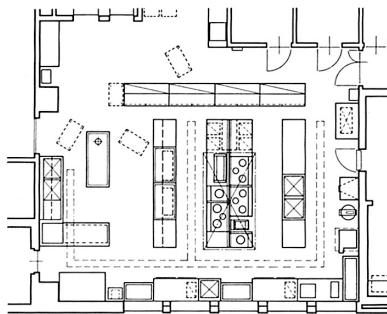
●東京ガス(株)新宿合同ビル

所在地 新宿区西新宿
施工期 昭和55年 3 月
施工額 38,265千円
施工社 秋元調理
イースタン
東京設備



●東京ガス(株)横浜支社ビル

所在地 横浜市中区
 施工期 昭和55年 8 月
 施工額 25,000千円
 施工社 鈴木商行
 昭和調理
 オリオン
 中里



●東京ガス(株)葛飾営業所ビル

所在地 足立区竹ノ塚
 施工期 昭和55年 5 月
 施工額 1,120千円
 施工社 高砂厨房

●日製産業(株)社員寮

所在地 川崎市中原区
 施工期 昭和56年 3 月
 施工額 1,673千円
 施工社 クマノ厨房

●福祉施設はつらつの里

所在地 千葉市小間子町
 施工期 昭和56年 4 月
 施工額 1,845千円
 施工社 上野SS

共同受注事業の経緯と東京ガス(株)との関係

組合が、施主もしくは建設会社等から直接受注して、希望する組合員へ公平に配分するという共同受注事業は、昭和41年頃にも一般に民需を対象として検討され、共同受注運営委員会を設置し委員会規約や担当委員の手数料内規などを制定して対処してきた経緯がある。しかし、組合員との市場競争という、基本的問題を内包しており、順調には推移しなかった模様である。経歴書やパンフレット（カタログ）等も作成したが、パンフレットひとつにしても、掲載写真の選択から問題を含んでおり、結局、営業用カタログとしての効能は、ほとんど期待のできない厨房機器の解説書の内容となってしまう。具体的な事業実績も、ほとんど皆無に等しく、単品としての納入実績が若干あったに過ぎない状態であった。当初の意気込みも、具体的実績が挙げないのでは、その氣勢も尻すばみとなり、昭和48年には、遂に委員会も解散してしまった。この昭和41年6月には、奇しくも、現行の官公需法（官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律）が制定され、翌年には適格組合制度も発足されている。

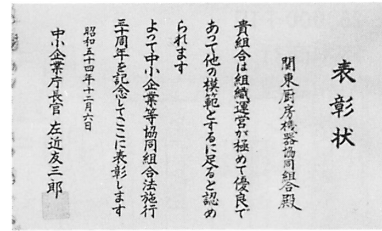
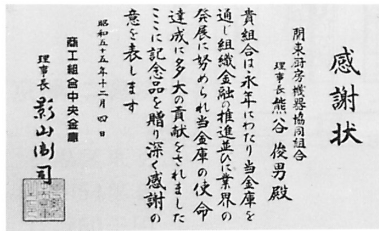
昭和52年に復活した委員会は、まさしく、この官公需共同受注適格組合の証明を得るための方策であり、この年の総会で、証明申請に必要な諸規約等を制定し、翌年に東京通商産業局長より証明を受けるに至り、共同受注事業が活発化してきた。

官公需の発注にあたっては、できるだけ中小企業へ、しかも中小企業団体への発注が望ましいとする閣議決定に意を強くし、適格組合の証明を受ければ、すぐにも官公需の受注ができるものとの思いは現実的には幾多の障害のために雨散し、昭和53年には、東京の適格組合の協議会を結成し、受注機会の増大を期している。官公需としての受注実績は国立東京

第二病院の一件に過ぎず、これも、先方からの連絡で、特命の随意契約という好条件であった。現在の本事業を大きく支えているのは、官公需ではなく、民需でありその大半は東京ガス(株)の好意に負うところが極めて強い。

東京ガス(株)との関係は、ガス供給業者と主としてガスを熱源とする厨房機器の専門業界として昭和36年のカロリーアップ時における協力体制に端を発し、器具接続資格認定等で継続されていたが、組合が昭和47年に第一次5ヶ年計画を策定するに及んで、その骨子のひとつに技術向上を掲げたことから、組合の技術委員会と東京ガス(株)の特需開発室との交流が活発となった。昭和48年以来技術講師を派遣して頂いての技術講習会を毎年開催して、延受講者数は、1000名以上となっている。一方、東京ガス(株)の諸施設を利用して、組合員の製作する燃焼器具の試験による助言や貴重な技術資料を提供してもらったの技術指導など、東京ガス(株)からの恩恵は測り知れないものがある。本来とくに燃焼器具については、技術的見地からの判断力に乏しく、勘に頼っていた業界が、仮にもその水準を向上することができたとなれば、その功績は東京ガス(株)のご協力以外の何物でもない。加えて東京ガス(株)との関係はさらにひろがり新宿合同ビルや横浜支社ビルなど総額1億円近い厨房設備工事も共同受注させて頂いている。この共同受注については、現在のところ東京ガス(株)の自社施設のみを受注しているが、将来的には、さらにその関係を深め、受注機会の拡大と併せ、緊密な協力体制を共に希求している。

組合および組合員の表彰の記録



●叙勲 国家褒彰 大臣表彰を受けた組合員

叙 勲	尾崎新治	昭和43年春	細山礼吉	昭和43年秋
	木村秀吉	昭和44年秋	鈴木啓之	昭和48年秋
	長宗重一	昭和50年春		

●いずれも勲五等瑞宝章

国家褒彰	梅田勝徳	昭和54年秋藍綬褒彰
大臣表彰	秋元時一郎	昭和38年運輸大臣賞
	梅田 勝徳	昭和54年建設大臣賞
	小越栄治郎	昭和55年建設大臣賞

●東京都中小企業団体中央会会長表彰

功 労 役 員	昭和46年	木村秀吉	細山礼吉	尾崎新治
	昭和47年	秋元時一郎	熊谷俊男	梅田勝徳
	昭和48年	上野一雄	小越栄治郎	椿良輔
	昭和49年	徳増久治		
	昭和52年	荒木唯光	生島四郎	鈴木啓之
	昭和53年	藤井節三	村田幸一	
	昭和54年	岩崎実		

事務局職員	手塚信一 (47)	河内よし子 (47)	河内泰治 (48)
-------	-----------	------------	-----------

●組合功労者顕彰

昭和39年 2 月 (組合会館建設功労)
 熊谷俊男 岩倉好松 谷武雄 手塚信一

昭和42年11月 (永年役員 一般功労)
 尾崎新治 馬場鋭之助 村田幸一 井上次郎 諸井卓

昭和45年10月 (10周年記念式典)
 木村秀吉 熊谷俊男 梅田勝徳 細山礼吉

昭和46年11月 木村秀吉 細山礼吉

昭和55年12月 (20周年記念式典)
 熊谷俊男 梅田勝徳 上野一雄 小越栄治郎 徳増久治 藤井節三
 宮本一雄 村田幸一 岩崎実 江口次男 細山喜三郎 尾崎和夫
 秋元興一 永井富造 鈴木紘正 椿良輔 荒木唯光 生島四郎 松崎貴永
 飯塚政雄 榎本常治 深沢信生 出川義則 内山義一郎 丹羽正男
 采沢賢一 二階堂博史 河内泰治 鈴木啓之 斉野又夫

●特別感謝状贈呈者

昭和42年 4 月 / 岩倉好松	昭和47年 7 月 / 木村秀吉
昭和50年 3 月 / 手塚信一	昭和53年 5 月 / 秋元時一郎 昭和55年 4 月 / 細山礼吉

組合員各社優良従業員被表彰者一覧表

会社名を極端に省略してあります。特に解り苦い省略は次の通りです。
 エバ＝エバホット工業(株)、製造＝日本調理機製造(株) 商事＝日本調理機商事(株) 日ス＝日本ステンレス工業(株) 三冷＝(株)東京三冷社
 クレ＝クレヴア電機工業(株) イス＝(株)イースタン商会 オリ＝オリオン設備工業(株) クマ＝クマノ厨房工業(株) 東設＝東京設備(株) 竹村＝竹村総合設備(株) アフ＝アフターサービス設備工業(株) 大和ス＝大和ステンレス鋼業(株) 東特＝東京特殊鋼材(株) 服部＝(株)服部製作所
 ユニ＝日本ユニフロー販売(株) 桂精＝(株)桂精機製作所 コメ＝(株)コメットカトウ エレ＝日本エレクターシェルフ(株) エン＝富士エンゼル(株)

第1回●昭39

黒川伴治・秋元
 永田辰次・伊藤
 阿部登志男・上野
 小松幸友・内田
 蒲原隆次・エバ
 風間政夫・小越
 高橋留吉・尾崎
 今井治仁・加藤
 岩垂賢二郎・小林
 浅井幸一・三陽
 斉藤行代・昭和
 椿山侃・鈴木
 鈴木義夫・第一
 関本正次郎・高砂
 古沢實美・千代田
 栗原彦七・椿
 戸井田實・戸井田
 小林昭夫・林田
 藤村成人・東郷
 大山徳太郎・東泉
 桜庭精一・徳久
 加藤徹・柳沢
 今井正・遠山
 岡本春次郎・トキワ
 岩崎弘・永富
 長橋繁光・製造
 長宗新作・商事
 原一夫・日ス
 萩原勇次郎・萩原
 藤井節三・浜親
 岡部淳一・林
 山中登・福本
 石山重高・富士
 入野保長・細山
 一谷正男・松崎
 栗山光男・松下
 山辺達夫・三ツ星
 鈴木尚記・村幸

大貫勝・八洲
 佐藤孝太郎・吉村
 小山国弘・横山
 森幹雄・ワシオ

第2回●昭40

松本富蔵・秋元
 鈴木良・伊藤
 金岡弘・上野
 内山康造・内山
 志関未吉・内田
 紀伊高彦・エバ
 慎東七・小越
 藤田稔・小川
 青木昭一・加藤
 鹿島健生・木村
 湯沢達・小林
 勝又やす子・三陽
 桧垣敏也・昭和
 高橋常夫・第一
 武藤進人・高砂
 高橋純夫・千代田
 矢田作蔵・戸井田
 井原二三夫・林田
 服部平造・東郷
 伊東貢・東泉
 周藤佐夫郎・徳久
 中沢孝雄・柳沢
 阿部豊治・遠山
 郡司敬之・トキワ
 川村国平・永富
 金森貞夫・製造
 平本庫次・商事
 細山輝治・日ス
 入江清吾・萩原
 桜井泰明・浜親
 奥村利弘・林
 佐藤定夫・福本
 長谷川輝一郎・富士

石井正之・細山
 佐藤善三郎・松崎
 丸山幸彦・松下
 矢野幸夫・三ツ星
 高橋章・村幸
 塚本政勝・八洲
 杉村淳一・吉村
 宮内忠男・横山
 滝野友吉・ワシオ

第3回●昭41

高木恒人・秋元
 小森茂・伊藤
 島英夫・上野
 内山國治・内山
 羽鳥清・内田
 島田和夫・エバ
 和泉末蔵・小越
 斉藤勝治・小川
 中西尚春・尾崎
 加藤市太郎・加藤
 松本徳太郎・木村
 徳永安之・北川
 江花信継・小林
 青山光作・三陽
 速水亮・昭和
 伊丹光雄・鈴木
 澤谷滋・高砂
 大塚良子・千代田
 箕輪義一・戸井田
 川口清次・林田
 奥村茂明・東郷
 鶴岡義幸・徳久
 小林栄三・東泉
 高橋寛・遠山
 横山貢・トキワ
 大沢清二・永富
 宮本健次・日建
 玉木昇・製造

山田信之・商事
 平川和夫・日ス
 米田文次郎・萩原
 加藤孝雄・林
 渡辺義豊・福本
 水戸水夫・富士
 岩崎鉄弥・北英
 内記弘・細山
 渡辺保夫・宮本
 矢野徹・三ツ星
 井野徳吉・村幸
 城口家則・八洲
 小倉條作・吉村
 新井一男・横山
 梶幸夫・ワシオ

第4回●昭42

関峰子・秋元
 五十嵐正男・伊藤
 菅野啓一・上野
 石川満・内山
 橋本六郎・内田
 牛腸晃・エバ
 尾崎幸雄・小越
 小川静江・小川
 中沢悠二・尾崎
 加藤勝輔・加藤
 北川行雄・木村
 中林武男・北川
 三浦晴男・熊野
 内田英子・小林
 勝又ゆき子・三陽
 斉藤長三・昭和
 清宮一雄・鈴木
 原伊三夫・第一
 後藤正弘・高砂
 菊地健夫・千代田
 島田阿二・椿
 橋本義和・戸井田

大塚達雄・林田
 日比良平・東郷
 小山一生・東泉
 小島幸蔵・徳久
 平林龍太郎・三冷
 阿部昭三・遠山
 森田里史・トキワ
 関豊四・永豊
 津久井康文・日建
 若生秀雄・製造
 中岡虎彦・商事
 服部忠誠・日ス
 佐野敏一・萩原
 石井儀美・浜親
 坂本俊保・林
 若林孝三・福本
 穴澤清・二葉
 石橋博・松崎
 八巻安男・松下
 関山武夫・松島
 星野義治・宮本
 矢野恒美・三ツ星
 安永安敏・村幸
 富田光夫・八洲
 和田隆夫・横山
 奥山徹・ワシオ

第5回●昭43

只川伊三郎・秋元
 大吉義雄・伊藤
 篠沢義雄・井上
 住谷弘・上野
 二挺木進・内田
 馬場清一・内山
 長谷川武夫・エバ
 伊藤勇・小越
 宮島太夫・北川
 岡村善之助・木村
 後藤幸夫・熊野

寺崎道男・小林
鹿野長二郎・佐藤
岩倉広次・三陽
堀川英薺・昭和
三好久子・鈴木
鈴木栄子・千代田
依田源太郎・椿
岩崎実・戸井田
石井貞一・東郷
室井常雄・東泉
斉藤政和・遠山
荒井勇治・トキワ
木下保・徳久
木村忠夫・永富
久保田守・日ス
右田光宏・日建
太田守一・製造
西山宏・商事
浅見博好・萩原
岡安保・林田
井上志郎・福本
篠原満男・富士
萩原昭六・二葉
八十田英城・細山
藤田守・松崎
北里純男・松島
加峰末治・宮本
平山吉雄・村幸
石黒稔明・八洲
田口直・横山

第6回●昭44

須田耕治・秋元
谷村実・イカリ
斉藤利夫・伊藤
名取明・井上
加藤博子・上野
菊田敏夫・内田
馬場利昭・内山
山本一治・エバ
三好善太郎・小越
椎橋進・北川
月野謙治・木村
佐藤敏・小林
星山正雄・鈴木
八木義兼・戸井田
伊藤連・柳沢
南部利夫・三冷
服部孝司・東郷
笠井正一・東泉
大川一郎・トキワ
榊原昭・徳久
新井波男・永富
金子鉄雄・日ス
安田秀五郎・製造
原田美正・商事

柏村信昭・萩原
多ヶ谷忠吉・浜親
石井亀雄・林田
佐藤千恵子・福本
二宮利二・二葉
山崎久夫・細山
田中和男・三ツ星
井戸憲二・宮本
佐藤啓・村幸
大橋宙衛・八洲
伊藤猪之助・横山

第7回●昭45

富永増・秋元
吉武信一・イカリ
永見良二・伊藤
粟本稔・井上
野本新輔・上野
渡辺正義・内山
渡辺衛・エバ
三好忠三郎・小越
田島孝雄・木村
恩田正雄・クレ
押好己・熊野
香取泰久・小林
生島春雄・昭和
永田武・鈴木
田島神児・戸井田
林田綾子・林田
蓮沼金吉・東泉
綿引勝美・徳久
木下実・トキワ
作山秋子・永富
山本貞助・長岡
赤塚利道・製造
長宗勝己・商事
五十嵐直人・日ス
山内亀・萩原
鈴木勇・浜親
青山一雄・富士
吉田末義・二葉
土田晴義・細山
三本木正・松崎
高橋克典・松下
永岡重行・村幸
石黒稔朗・八洲
奥野富士男・横山
大橋俊博・ワシオ

第8回●昭46

志賀良弘・秋元
志賀福夫・伊藤
行田敏・井上
山田博幸・上野
仲野清・内田
水品繁・内山

坂田忠英・エバ
小川弘之・小川
田久保清・小越
吉崎光司・尾崎
藤崎国男・木村
小那覇安政・北山
遠藤弥一・クレ
藤原国弘・熊野
七宮隆雄・小林
木村謙一・鈴木
大島幸雄・高砂
村中秀雄・戸井田
丸山俊雄・東泉
世古宗隆・三冷
佐久間金則・林田
崎田芳輝・トキワ
佐々木節男・徳久
中田功一・長岡
井畑トキ・永富
本間今朝義・日ス
薫木秀男・製造
柴田三雄・商事
高井英正・萩原
大久保英二・二葉
栗田口敦・富士
渡辺恒作・細山
宮里一郎・松崎
鈴木敏子・三ツ星
福田政男・宮本
荻原洋・村幸
湯浅義夫・八洲
熊川寛・横山
石崎俊子・ワシオ

第9回●昭47

秋元俊三・秋元
船木玄佐美・伊藤
鈴木常夫・井上
藤田和男・上野
清野武・内山
鎌田正道・エバ
三神義次・小越
東堅也・尾崎
山元照夫・木村
坂本一郎・北山
佐藤正二・クレ
茂田綾子・熊野
小島寛・小林
栗原宏・三陽
山井康弘・鈴木
岩崎登・戸井田
布施一男・林田
小沢敏雄・東泉
鈴木史郎・徳久
河口広文・三冷
金子征吾・トキワ

金子卓司・東設
阿部進・永富
植杉邦八・長岡
桜井忠夫・製造
元岡武士・商事
常本繁男・日ス
上野五十六・萩原
山口輝昭・富士
藤井保・細山
佐藤茂子・松崎
島田正弘・宮本
太田雅孝・村幸
桐山琢・八洲
森口喜三郎・横山
遠藤和子・ワシオ
松倉力蔵・昭和
石井勇・二葉

第10回●昭48

戸田昇・秋元
外山博・飯塚
水野谷守・イス
青木光喜・伊藤
福島敏之・上野
田上敏昭・内山
仁科昭夫・エバ
小川正喜・小川
森田正・小越
深野四郎・尾崎
木村藤四郎・オリ
小松静男・北山
志田重一・木村
浅見琴平・クレ
西田健二・熊野
高階福太郎・クマ
七宮富弘・小林
星野たみ江・鈴木
坂東良彦・清和
高島重男・竹村
新井静夫・グイワ
岩崎久勝・戸井田
鎌田伊和男・東設
糺英夫・東泉
未永保・徳久
中村浩教・三冷
森田十史穂・トキ
土屋喜久夫・永富
長岡孝二・長岡
中村武・日ス
吉田修・製造
足利恒一・商事
青木孝次・萩原
岡田吉春・富士
秋田谷芳・二葉
高橋秀行・細山
斯波吉雄・北英

鈴木道夫・松崎
磯谷健二・松下
岩佐栄・宮本
橋本光雄・村幸
春日清美・八洲
平江伸光・横山

第11回●昭49

寺田憲弘・秋元
今井八郎・イス
鈴木信夫・伊藤
川路正博・井上
折原太二・上野
永井清雄・エバ
三沢忠男・小越
小林幸治・尾崎
榎本正義・オリ
深作昇・北山
竹山利男・木村
増田保太郎・クマ
手島操・クレ
土村勇・五加
山田修三・小林
鈴木利雄・三栄
赤坂幾枝・昭和
本多輝夫・鈴木
福島孝夫・清和
黒木昭一・グイワ
沢田勝・大和ス
岩見親利・谷口
雨宮淳介・戸井田
安藤弁次郎・東設
佐藤正男・東泉
西塚千義・トキワ
田中弘一・徳久
杉本富美男・永富
吉田良一・長岡
西哲男・日ス
片山信正・製造
小栗栄一・商事
原美津子・萩原
宮下安太郎・福本
平野篤・富士
杉原幸男・二葉
松崎ノブ・松崎
青木武・北英
高橋道益・松下
中村和夫・村幸
木曾一雄・八洲
秋山正夫・横山
真砂勲・竹村

第12回●昭50

大河原春彦・秋元
赤坂郁雄・アフ
山本隆敏・イス

工藤政市・伊藤 阿久津弘明・井上 石神正作・上野 椎名敏雄・エバ 宮野勝彦・小越 宇都見竹寿・尾崎 柴崎政利・オリ 福田孝行・北川 川田猛・北山 田島勇・木村 加藤朝子・クマ 板尾宏・クレ 池田芳夫・五加 吉井憲男・小林 渡辺市太郎・三栄 勝又揮男・三陽 金子秀雄・鈴木 庄司晴彦・清和 野中英男・竹村 武藤敬夫・ダイワ 長島照雄・大和ス 江利川昇・戸井田 小寺章・東設 鈴木千代子・東特 斉藤良男・東泉 田口清太郎・東洋 村山文子・徳久 仲川誠二・永富 長岡宏雄・長岡 佐々木武夫・製造 吉村七郎・商事 高野まつえ・日ス 石川栄・萩原 阿部利徳・服部 山方茂利・富士 弘中正昭・二葉 阿部義和・北英 湯本範夫・細山 井上司・松崎 中島正美・松下 増山道子・松島 岩左栄・宮本 三木康子・村幸 福本哲夫・八洲 第13回 ● 昭51 浅賀昭一・秋元 池田俊信・アフ 河田裕之助・飯塚 渥美和久・井上 斉藤忠四郎・上野 渡辺朋三・エバ 小越晃・小越 辻貞夫・尾崎 林義彦・オリ 前田隆・北山	野上浩・木村 山口正博・クレ 根布谷房信・小林 高島常男・三栄 村上文夫・鈴木 瀬川博史・清和 金子和年・竹村 藤原俊彦・ダイワ 太田松雄・戸井田 菅野春一・東泉 小林吉男・東洋 木下典子・徳久 三園二郎・永富 館野豊・製造 峯島義明・商事 林一馬・日ス 佐藤喜代子・萩原 宮島吉男・服部 加藤幸一・福本 前原勝行・二葉 駒澤繁行・北英 松下徳次郎・松下 村上武敏・松島 福田久哉・宮本 戸崎拓弥・村幸 田中吉之助・暁 原島八郎・イス 三浦八洲男・クマ 杉本博・富士 上村浩一・松崎 伊藤昌三・八洲 菌部直行・大和ス 大島正行・伊藤 第14回 ● 昭52 長谷川雄平・秋元 戸山文宏・アフ 石田勝治・伊藤 椿浩司・井上 神尾三郎・上野 松岡守・植野 志水政人・エバ 古沢昇平・小越 林弘次・尾崎 高道太三郎・オリ 益子秀夫・桂精 稲葉稔・北川 石塚一男・北山 小林勲・クマ 関口清次・小林 小磯裕次・三栄 秀野彰一・鈴木 大須賀重信・清和 真境名兼芳・ダイワ 小林平二・戸井田 冬頭秀高・東泉	内田一郎・東洋 徳増次夫・徳久 大熊健丞・永富 板寺光義・日産 桜井忠男・製造 平下達・商事 坂本武久・富士 小川健二・二葉 小磯九二一・北英 小出信保・細山 磯谷順次・松下 玉田幹男・宮本 熊崎守一・村幸 高橋光雄・八洲 中西豊・ワシオ 岡崎俊弘・大和ス 名取孝・東特 吉原重久・ユニ 中村司・新日厨 茂木春巧・飯塚 田中英一・松崎 第15回 ● 昭53 武藤武雄・秋元 加藤和男・アフ 佐野福之助・飯塚 阿部光則・伊藤 板倉教剛・井上 古畑仁・上野 渡辺吉昌・内山 小松田信男・エバ 守山攻・尾崎 入矢哲也・オリ 山口勉・桂精 平瀬朝彦・北山 児島勉・クマ 鈴木隆治・クレ 小林一美・小林 木村啓二・三栄 村野安彦・鈴木 小久保進・清和 浅井貞治・新日厨 岩森昭友・竹村 上野忠昌・ダイワ 平岡幸子・戸井田 小松政吉・東泉 小松謙一・東洋 吉岡信昭・徳久 駒崎光昭・永富 大井博夫・日産 小見山松夫・製造 森邦夫・商事 西尾勇二・福本 長岡国丸・富士 田中繁・北英 宮瀬弘・細山	藤田吉二・松崎 村越弘・松下 寺石清久・松島 大橋伸市・宮本 半沢照道・村幸 猪崎幸夫・八洲 第16回 ● 昭54 中島晃一・秋元 清野喜男・アフ 中村美彌・飯塚 行田彪・井上 斉藤周吉・上野 植野忠昭・植野 芦田けい子・エバ 田中昭五・尾崎 菅野幸代・オリ 田中武美・桂精 菊地行夫・北川 高塚雅司・北山 坂本睦章・クマノ 小林靖幸・クレ 三本木昭一・小林 岩本俊彦・コメ 藤巻敏夫・三栄 関本徹・新日厨 村上友子・鈴木 森田正明・清和 川上日出雄・竹村 橋本三男・ダイワ 藤森正幸・谷口 山路喜昭・戸井田 杉村信三・東泉 秋野清・東洋 桜井婦佐夫・徳久 大柿敬司・永富 橋爪良明・日産 加藤赴夫・エレ 亀坂誠・日調 市川誠一・服部 西英之・富士 銖藤凱彦・細山 高橋孝三・松崎 井上栄司・松下 石松千助・松島 早瀬是雄・宮本 小泉垣二・村幸 三ツ扇渉・八洲 第17回 ● 昭55 田代清一郎・秋元 鍋倉猛夫・アフ 本間輝男・飯塚 金子元明・伊藤 小山田正光・井上 鶴岡二三夫・上野	五味とき江・エバ 青柳市五郎・小越 早川文男・尾崎 筒井清夫・帯金 榎本俊夫・オリ 田中義行・桂精 高橋光雄・北川 渡辺忠・北山 佐藤健次・クマノ 細田孝夫・クレ 楠本繁・三栄 小川忠男・新日厨 多田弘・鈴木 小島常義・竹村 阿部康夫・ダイワ 塩沢三由・戸井田 阿部信郎・東泉 佐藤紀三郎・遠山 田口裕・東洋 太田諄一・徳久 森山司・永富 今村昭二・日産 今村忠・エレ 須山富夫・日調 内山義男・ユニ 宮崎信一・福本 今野秀雄・エン 高橋英昭・富士 松尾弘美・北英 渡辺信蔵・細山 新井邦英・墨水 庄末京子・松崎 菅谷貞雄・宮本 長場靖夫・村幸 服部公彦・八洲
--	---	--	---	---

各種親善スポーツ大会の記録

●野球大会

回数	開催年月	開催場所	参加	一部優勝	一部二位	二部優勝
1	35・10	駒大 G 他		三陽東郷連合		
2	36・5	日立 G 他	16	富士厨房	村幸ステン	
3				尾崎 S S	村幸ステン	
4	40・7	年金 G 他	26	尾崎 S S	細山熱器	
5	41・7	年金 G 他	32	日調製造	尾崎 S S	東泉 S S
6	42・5	神宮 G 他	24	日調製造		
7	42・10	年金 G 他	26	尾崎 S S	日調製造	
8	43・9	サンケイ S C	30	日調製造	八洲電機	東泉 S S
9	44・6	日清紡 G	24	日調製造	村幸ステン	鈴木商行
10	45・8	サンケイ S S	19	村幸ステン	尾崎 S S	二葉工業
11	46・7	サンケイ S C	20	日調製造	東泉 S S	北英熱器
12	47・8	集団連 G	22	"	尾崎 S S	富士厨房
13	48・9	大宮 G	13	"	"	徳久 S S
14	49・11	"	15	八洲電機	村幸ステン	"
15	50・8	"	19	日調製造	三機工業	竹村総合
16	51・9	"	20	"	"	ダイワ工業
17	52・9	"	23	"	"	中里
18	53・12	"	23	"	日立家電	徳久 S S
19	54・8	"	22	"	谷口工業	戸井田 S S
20	55・8	"	24	日立家電	日本調理	日調 A

●卓球大会

回数	開催年月	開催場所	参加	団体優勝	団体二位	男子個人	女子個人
1	39・8	芝園橋 C	8 100			宮田英一	
2	40・10	"	11 123	ナスステン	横山 S S	宮田英一	亀谷宥子
3	41・10	"	9 69	八洲電機	木村 S S	山岸史郎	落合弥笑
4	42・10	"	9 74	トキワ工業	北川 S S	大橋俊博	水本久子
5	44・2	"	12 75	八洲電機	村幸ステン	細岡潤互	江口秀子
6	45・2	日鉦体育館	9 72	"	横山 S S	渡辺佳光	亀谷宥子
7	45・11	"	8 50	村幸ステン	富士厨房	"	三浦政子
8	46・10	奥沢中	7 46	八洲電機	"	細岡潤互	"
9	47・11	大田勤福	9 62	丸紅	"	新井健	"
10	48・12	"	5 27	"	"	古館明雄	"
11	49・10	"	4 32	"	清和厨房	溝辺憲治	橋崎和子
12	51・2	港勤福	4 28	富士厨房	八洲電機	古館明雄	山田

●ボーリング大会

回数	開催年月	開催場所	参 加	団体優勝	団体二位	男子個人	女子個人	シニア
1	44・11	タワーBC	28 162	第一厨房	富士厨房	零石文彦	上田八重子	
2	45・7	"	28 157	松崎SS	日調製造	中村忠男	"	
3	46・2	トーヨーBC	32 292	日調製造	八洲電機	秋谷幾一	原美津子	
4	46・6	"	36 312	"	佐藤鉄工	野口好夫	土佐礼子	
5	46・8	"	28 253	五加調理	三ツ星厨房	河本臣生	荒井敏子	江頭秀雄
6	46・11	"	22 202	日調製造	二葉工業	下原正三郎	土佐礼子	金子鉄雄
7	47・2	"	27 248	三冷社	日本ステン	内野幸二	海老塚富子	亀井繁和
8	47・6	"	30 279	五加調理	永富機械	野口好男	藤沢あや子	荒井武
9	48・2	"	28 233	菊地厨房	八洲電機	川村孝	加藤記美子	岸本忠茂
10	48・6	"	23 194	尾崎SS	日本ステン	林弘次	春原正枝	荒井武
11	48・11	"	24 216	ダイワ工業	日調製造	新川善道	三浦政子	岸本忠茂
12	49・2	"	19 148	五加調理	三冷社	小栗実	春原正枝	佐藤与志雄
13	49・12	"	12 111	日調製造	二葉工業	野口好男	村田君子	松井美勲
14	50・2	芝BC	12 117	井上金属	富士厨房	佐藤和義	山本育子	亀井繁和
15	50・6	"	12 127	北英熱器	東京設備	林弘次	村田君子	丹羽正男
16	50・12	"	4 39	日調製造				

●関厨ゴルフ会成績表

回数	開催日	コース	参加	優勝者	回数	開催日	コース	参加	優勝者
1	41・7・26	大利根	14	金田満須治	21	45・12・3	水海道	13	浜田藤松
2	10・26	茨城	10	岩崎実	22	46・1・19	大利根	14	島田和夫
3	42・1・27	多摩	14	浜田藤松	23	3・11	日本	20	橋場藤次郎
4	3・23	紫すみれ	9	永井富造	24	5・12	中山	20	島田和夫
5	5・25	小田原	15	鈴木与之助	25	7・7	大利根	17	浜田藤松
6	7・26	習志野	10	宮本留一郎	第3回 取切				浜田藤松
7	43・6・19	紫すみれ	11	井上次郎	26	46・9・17	習志野	17	荒木唯光
8	8・22	富士平原	15	熊谷俊男	27	11・24	紫すみれ	17	金田満須治
9	10・16	高坂	11	熊谷俊男	28	47・1・14	水海道	11	秋元興一
第1回 取切				熊谷俊男	29	3・16	大利根	15	五十嵐正男
10	43・12・4	戸塚	10	金田満須治	30	5・24	昭和	12	井上次郎
11	44・3・5	取手国際	12	永井富造	31	7・4	紫すみれ	19	島田和夫
12	5・30	大利根	12	熊谷俊男	32	9・6	日本	17	堀川英薺
13	7・9	新箱根	10	島田和夫	33	11・22	大利根	18	浜田藤松
14	9・17	紫すみれ	14	永井富造	第4回 取切				浜田藤松
15	11・6	中山	13	熊谷俊男	34	48・2・9	総武	22	橋場藤次郎
16	45・1・13	水海道	11	永井富造	35	3・16	東京	22	金田満須治
17	3・25	川越	12	熊谷俊男	36	5・10	水海道	17	金田満須治
第2回 取切				熊谷俊男	37	7・24	レイクウッド	21	出川義則
18	45・5・19	小田原	11	篠沢義夫	38	9・12	多摩	23	吉村七郎
19	7・17	総武	11	永井富造	39	11・12	日本	26	荒木唯光
20	9・18	中山	12	金田満須治	40	49・1・25	大利根	16	堀川英薺

回数	開催日	コース	参加	優勝者	回数	開催日	コース	参加	優勝者
41	49・4・2	日本	19	内山国治	61	52・12・9	大 利 根	22	大 吉 義 雄
第5回 取 切				吉 村 七 郎	62	53・4・21	日 本	20	松 田 武
42	49・6・18	総 武	18	渡 辺 通	63	6・9	大 利 根	15	熊 谷 俊 男
43	8・6	紫すみれ	25	金田満須治	64	8・24	日 本	17	飯 塚 礼 三
44	10・2	水 海 道	24	出 川 義 則	65	10・24	高 坂	20	飯 塚 礼 三
45	11・29	日 本	28	井 上 次 郎	第8回 取 切				大 吉 義 雄
46	50・2・27	紫すみれ	23	大 吉 義 雄	66	53・12・13	水 海 道	15	大 吉 義 雄
47	4・15	茨 城	22	永 井 富 造	67	54・4・10	日 本	15	出 川 義 則
48	6・11	日 本	27	森 正 夫	68	6・12	千葉野田	21	飯 塚 礼 三
49	8・12	大 利 根	30	牛 腸 晃	69	9・7	桜ヶ丘	18	堀 川 英 霽
第6回 取 切				牛 腸 晃	70	10・30	日 本	11	椿 浩 司
50	50・10・7	富 士	30	出 川 義 則	71	12・7	富士小山	12	出 川 義 則
51	12・11	水 海 道	20	浜 田 藤 松	72	55・4・18	小 金 井	17	出 川 義 則
52	51・4・7	大 利 根	17	堀 川 英 霽	73	6・12	程ヶ谷	13	鈴 木 雅 之
53	6・22	府 中	29	堀 川 英 霽	第9回 取 切				堀 川 英 霽
54	10・13	江 戸 崎	12	斉 野 又 夫	74	55・9・11	水 海 道	15	大 吉 義 雄
55	12・3	日 本	22	松 浦 利 保	75	11・27	日 本	38	熊 谷 俊 男
56	52・2・18	大 利 根	15	弘 島 渉					
57	4・22	日 本	23	熊 谷 俊 男					
第7回 取 切				森 正 夫					
58	52・6・16	大 利 根	16	椿 山 侃					
59	9・2	日 本	15	松 浦 利 保					
60	10・13	湘 南	17	永 井 富 造					

●親睦ゴルフ大会成績表

回	開催年月	開催場所	参加	優勝者
1	47.11.9	昭和cc	16	熊 谷 俊 男
2	48.5.23	昭和cc	17	出 川 義 則
3	8.26	プリンスランド	28	波 多 野 和 哉
4	49.5.22	小田原GC	13	細 田 孝 夫
5	8.28	小田原GC	17	内山義一郎
6	50.8.28	箱根くらかけ	18	小 越 憲 泰
7	51.8.27	小田原GC	14	小 越 憲 泰
8	52.5.27	小田原GC	15	熊 谷 俊 男
9	53.5.25	大箱根CC	14	牧 田 哲 雄
10	55.5.29	箱根CC	18	永 井 富 造
11	11.7	朝霧CC	9	深 沢 信 生

●麻雀大会成績表

昭54. 2. 10 於白鷺

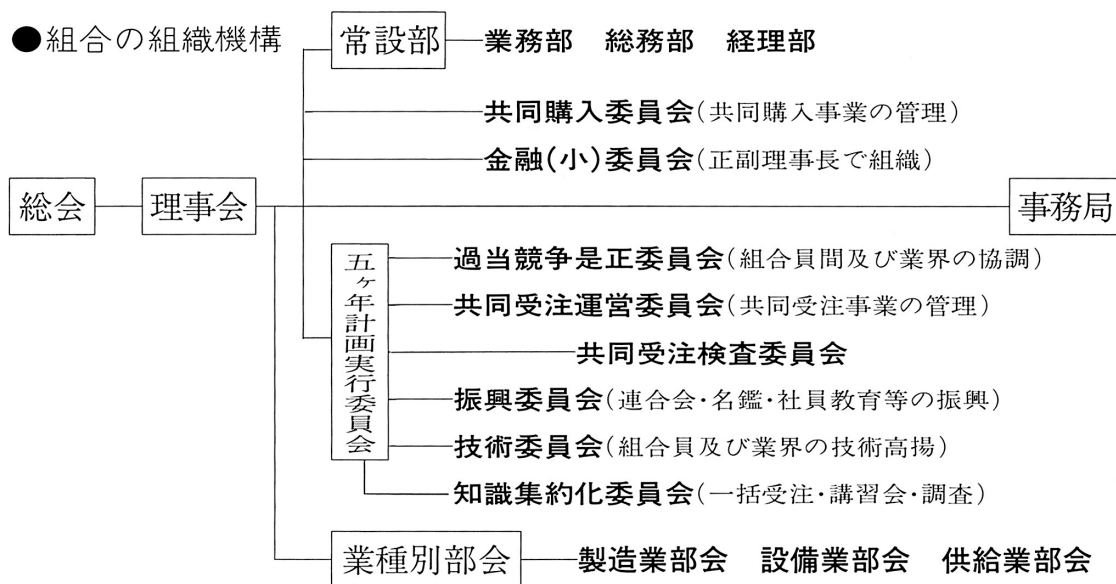
優勝 佐藤和義(ワシオ)
二位 峰島義明(日調)
三位 大島準八(佐藤)

●将棋大会成績表

回	年月日	場 所	人数	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Dクラス
第1回	昭52.12.18	(将棋会館)	25名	優勝 鍛代潔(富士)	優勝 木村正秋(松島)	優勝 中村禎夫(中村)	
				二位 高塚雅司(北山)	二位 長岡国丸(富士)	二位 高山公作(中村)	
				三位 三沢金一郎(桂)	三位 河西教明(八洲)	三位 安田敏恭(八洲)	
第2回	昭53.12.3	(将棋会館)		優勝 長宗重一(新日本)	優勝 藤村善三郎(藤村)	優勝 山谷忠節(桂)	優勝 岩崎実(戸井田)
				二位 三沢金一郎(桂)	二位 鍛代潔(富士)	二位 井戸口昌生(富士)	二位 橋本嘉和(戸井田)
				三位 小系文隆(桂)			
				橋本照雄(宮本)			

組合の組織機構と事務局体制

●組合の組織機構



●事務局体制



	豊かな食生活を提供する一翼を、厨房業界が担っているというこの役割の大きさについてさらに認識を深めねばと思っています。 土田信幸（技術委・自動車担当）
	私生活と仕事を調和させ、何事にも、より一層の努力を忘れずに頑張りたいと思います。 畠中光行（共同購入担当）
	成人を迎えた組合、事務局職員として、今後もしっかり頑張っていきたい。 三村慶二（共同受注担当）
	組合員の関与ですので、ご意見・ご鞭撻を頂きまして、これらにお応えの出来るよう努力していきたいと思っています。 山内俊治（庶務担当）



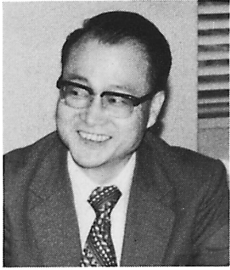
羽賀 昭恵
(経理担当)



北村美代子
(共同購入担当)



塚田 洋子
(G保険担当)



細山喜三郎

創立20周年記念誌を、やっと上梓するに至りました。昔の事を調査するにも、20年の才月は余りにも遠く、結局は、数少ない手持ち資料でやっていくしかありませんでした。取材活動をもっと積極的にという当初の目論見も、記念式典の準備に続いて、事業年度変りという物理的条件と併せて、当時を知る人が限られている中では、仲々思うに任せないのが実情でありました。20年間の組合の史実を中心にとすることでまとめましたが、不備な個所も多数あるものと思います。しかし、今はただ、30年誌、50年誌作成の場合の、資料の一部にでもなればと願っております。

終りにあたりまして、式典にご参集の方々、また心よくご協力頂きました皆さまに、誌上をお借りして厚く御礼申しあげますと共に、苦労を強いられた事務局の努力に報いるためにも、ご愛読のうえ、感想等お寄せ頂ければ、さらに幸甚に存じます。委員の皆さまも、本当にお疲れさまでございました。



鈴木紘正

温故知新、現在そして将来の組合のあり方を考える時、その発生と経過を考えずしては、何もそこから生れてくるものはないでしょう。この記念誌の発行にあたり、組合結成時の、先人の労苦と情熱を見るにつけその歴史の上にあらをかいている現在の我々の相互依存の構造を深く反省させられた思いでした。この編纂にあたって、協力された組合員諸兄、とくに事務局に対しては、その労を多とし、我々一同、心をあらたにして前進を積重ねていきたいと思ひます。



二階堂博史

20周年記念誌を、やっとお手元にお届けすることができました。出版委員の一人としてこの組合の歴史に関しては、浅学薄識なるが故に具体的仕事を何もしていないのが恥しい限りですが、事務局が大変良くやってくれたと思います。組合20年の歴史は、私にとっても大変興味深く、誌面に載らない部分で、大いに勉強させて頂きました。

ご尽力頂いた関係各位に厚く御礼申しあげます。



宮本一雄

記録に残すべき歴史とは、言葉を変えれば、人間の歴史を残すということだと理解している。従って、人名については、できるだけ詳細に配慮したつもりだが、いきなり20年は、やはり一寸きびしかったようだ。10年誌が欲しかった。記録というより記憶という事を考えた場合、世代交代期に当たったことも、大きな要因であろう。この記念誌が、次の記念誌の資料の一端ともなれば、それで良しとせねばなるまい。皆さんご苦労さまでした。



河内泰治

10年前にとりくんだ「厨房100年の変遷」(未刊行)からくらべると「組合の20年のあゆみ」ということで、当初は、かなり楽観視していたのだが、いざ編纂となると、記録の確認や調査で、たいへんな作業となった。

しかし、このように續てみると、それは「我が組合」だけが持つ、歴史であり、フードサービスシステム産業という、重要な業界の、記録の凝縮である、とも自負している。

そしてこれは、永遠に続けられていくべき、次なる記録への、案内役であり、示唆となることを希うものである。



充分な期間と綿密な計画。未熟な己の技量を過信したばかりに、計画のいくつかは挫折し、事務局本来の業務との調整にも失敗し、結局はやつつけ仕事になってしまいました。理事長をはじめ委員の皆さん、そして多くの人たちにご協力頂きながら、そのご期待にも添えず、大変申し訳なく思っております。〈事務局 斎野又夫〉

関東厨房機器協同組合

東京都港区東麻布1-27-8

電話 03(582)0801(代)